

〔神経統御学講座〕

(1) 高次神経形態学分野

1. 研究の概要

高次神経形態学分野では, 2011年3月に伊藤和夫教授が定年退職し, 同年8月より山口瞬が分野主任教授に就任した。新たな体制では, 以下の研究を行っている。

- 1) 記憶・学習のメカニズムの解明
- 2) 蛍光蛋白質発現トランスジェニックマウス・ラットを用いた脳機能イメージング
- 3) 体内時計に関する研究
- 4) 視覚連合野神経回路の解明
- 5) 情動感覚連関のトレーサー法およびfMRIを用いた研究
- 6) 高次脳機能ネットワークを活性化する方策の開発

2. 名簿

教授： 山口 瞬 Shun Yamaguchi
准教授： 中村浩幸 Hiroyuki Nakamura
講師： 藤田雅文 Masafumi Fujita

3. 研究成果の発表

著書 (和文)
なし

著書 (欧文)

- 1) Nakamura H, Itoh K. Visual Cortex: Crosstalk and Concomitant Communications between Extrastriate Visual Areas. Neuroanatomy Research Advances. In: Flynn CE, Callaghan BR, ed. Nova Science Publishers, 2010:145-164.

総説 (和文)
なし

総説 (欧文)
なし

原著 (和文)
なし

原著 (欧文)

- 1) Takahashi T, Shirasu M, Shirasu M, Kubo K, Onozuka M, Sato S, Itoh K, Nakamura H. The locuscoeruleus projects to the mesencephalic trigeminal nucleus in rats. Neurosci Res. 2010;68: 103-106. IF 2.096
- 2) Shirasu M, Takahashi T, Yamamoto T, Itoh K, Sato S, Nakamura H. Direct projections from the central amygdaloid nucleus to the mesencephalic trigeminal nucleus in rats. Brain Res. 2011; 1400:19-30. IF 2.623

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：伊藤和夫, 研究分担者：中村浩幸；科学研究費補助金基盤研究(C)：ストレスにより惹起される口腔感覚異常の神経基盤の解明；平成20-22年度；4,810千円(2,860：1,170：780千円)
- 2) 研究代表者：中村浩幸, 研究分担者：白数真理, 白数正義, 伊藤和夫；生理学研究所磁気共鳴装置共同利用研究：視覚認識に基づく情動活動を実現している脳賦活部位の解明；平成21年度；100千円
- 3) 研究代表者：中村浩幸；京都大学霊長類研究所共同利用研究：マカクザル視覚皮質V2野から, 外側頭頂間溝野への直接投射の解明；平成21年度；48千円
- 4) 研究代表者：藤田雅文；科学研究費補助金基盤研究(C)：能動的視聴覚記憶トレーニングのもたらす知能向上効果の検証；平成20-22年度；4,420千円(2,470：780：1,170千円)
- 5) 研究代表者：中村浩幸, 研究分担者：伊藤和夫；生理学研究所磁気共鳴装置共同利用研究：視覚認識に基づく情動活動を実現している脳賦活部位の解明；平成22年度；130千円

- 6) 研究代表者：中村浩幸，研究分担者：定藤規弘；科学研究費補助金基盤研究(C)：ストレスに伴う脳活動は、噛み締めによって制御されるか？機能的MRIを用いた研究；平成22-24年度；3,903千円(2,103：700：1,100千円)

2) 受託研究

- 1) 研究代表者：山口 瞬；科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業個人型研究(さきがけ)：脳内分子変化と電気生理学的・行動学的変化の統合解析；平成21-26年度；94,820千円(9,520：26,300：17,000：14,000：14,000：14,000千円)

3) 共同研究

- 1) 伊藤和夫，中村浩幸：顎・口腔機能に関わる三叉神経系の中枢機構の生後発達と可塑性を，標識法，fMRI等を用いて解析する；平成19-21年度；6,000千円(2,000：2,000：2,000千円)；神奈川歯科大学

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

伊藤和夫：

- 1) 日本解剖学会評議員(～平成22年度)

2) 学会開催

- 1) 日本解剖学会第70回中部支部学術集会(平成22年10月，岐阜)

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

中村浩幸：

- 1) 第114回日本解剖学会総会・全国学術集会(平成21年3月，岡山，シンポジウム「最近の神経回路網解明の進歩」，演題「扁桃体と三叉神経中脳路核：情動感覚連関」招待シンポジスト)
2) The 32nd Annual Meeting of the Japanese Neuroscience Society (平成21年9月，Nagoya, Symposium：“The amygdala: at the crossroads of self and other” Chairperson & Invited Symposist)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

伊藤和夫：

- 1) 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(平成22年度)

10. 報告書

- 1) 中村浩幸：視覚皮質 third tier visual cortex の視野再現とエリア区分：科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書：18-20(平成21年4月)
2) 中村浩幸：V3/V3A野に投射するV2野チトクロームオキシダーゼ構造の解明：霊長類研究所年報共同利用：20(平成21年9月)

11. 報道

なし

12. 自己評価

評価

医学部教育（神経解剖学，組織学）・全学教育および大学院教育においては，各教員とも多大の時間と労力を掛けて取り組んでおり，十分な貢献につながっていると思われる。研究面では，より一層の向上を目指したい。

現状の問題点及びその対応策

現状では大学院生の参加がなく，若い力が欠如している。分野が新体制になったのを機に，研究内容や基礎研究自体の面白さを積極的にアピールし，学内外から人材を集めるつもりである。

今後の展望

集めた人材には十分な教育を施し，世界で通用する研究者を育成していく。少数精鋭のチームで世界をリードする研究を目指す。

(2) 生理学分野

1. 研究の概要

起立時の動脈血圧調節における前庭系の役割を調べる。

2. 名簿

教授： 森田啓之 Hironobu Morita
講師： 安部 力 Chikara Abe

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 森田啓之, 安部 力. カラー図解 症状の基礎からわかる病態生理, 株式会社メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2011年.
- 2) 森田啓之, 安部 力. 心臓・循環の生理学, 東京; メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2011年.

著書（欧文）

なし

総説（和文）

- 1) 森田啓之. 宇宙医学と自律神経, Annual Review 神経 III. 各種疾患 10. 自律神経 2010年:251-258.

総説（欧文）

- 1) Morita H, Abe C. Negative feedforward control of body fluid homeostasis by hepatorenal reflex. Hypertens Res. 2011;34:895-905.

原著（和文）

なし

原著（欧文）

- 1) Abe C, Tanaka K, Awazu C, Morita H. Galvanic vestibular stimulation counteracts hypergravity-induced plastic alteration of vestibulo-cardiovascular reflex in rats. J Appl Physiol. 2009;107:1089-1094. IF 4.235
- 2) Tanaka K, Abe C, Awazu C, Morita H. Vestibular system plays a significant role in arterial pressure control during head-up tilt in young subjects. Auton Neurosci. 2009;148:90-96. IF 1.671
- 3) Abe C, Tashiro T, Tanaka K, Ogihara R, Morita H. A novel type of implantable and programmable infusion pump for small laboratory animals. J Pharmacol Toxicol Methods. 2009;59:7-12.
- 4) Bando N, Ymada H, Morita H, Tanaka K. Development of standing assist device based on the feature analysis of standing motion. Int Fed of Autom Cont. 2009;727-732. IF 0.890
- 5) Tanaka K, Abe C, Iwata C, Yamagata K, Murakami N, Tanaka M, Tanaka N, Morita H. Mobility of a gas-pressurized elastic gloves for extravehicular activity. Acta Astronautica. 2010;66:1039-1043. IF 0.612
- 6) Abe C, Shibata A, Iwata C, Morita H. Restriction of rear-up behavior-induced attenuation of vestibulo-cardiovascular reflex in rats. Neurosci Lett. 2010;484:1-5. IF 2.055
- 7) Abe C, Tanaka K, Iwata C, Morita H. Vestibular-mediated increase in central serotonin plays an important role in hypergravity-induced hypophagia in rats. J Appl Physiol. 2010;109:1635-1643. IF 4.235
- 8) Tanaka K, Tohnan M, Abe C, Iwata C, Yamagata K, Tanaka M, Tanaka N, Morita H. Development and evaluation of gas-pressurized elastic sleeves for extravehicular activity. Aviat Space Environ Med. 2010;81:671-676. IF 0.990
- 9) Iwata C, Abe C, Tanaka K, Morita H. Role of the vestibular system in the arterial pressure response to parabolic-flight-induced gravitational changes in human subjects. Neurosci Lett. 2011;495:121-125. IF 2.055
- 10) Matsuo O, Takahashi Y, Abe C, Tanaka K, Nakashima A, Morita H. Trial of integrated laboratory practice. Adv Physiol Educ. 2011;35:237-240. IF 1.382
- 11) Abe C, Iwata C, Shiina T, Shimizu Y, Morita H. Effect of daily linear acceleration training on the hypergravity-induced vomiting response in house musk shrew (Suncus murinus). Neurosci Lett. 2011;502:138-42. IF 2.055
- 12) Abe C, Kawada T, Sugimachi M, Morita H. Interaction between vestibulo-cardiovascular reflex and arterial baroreflex during postural change in rats. J Appl Physiol. 2011;111:1614-1621. IF 4.235
- 13) Seo Y, Satoh K, Watanabe K, Morita H, Takamata A, Ogino T, Murakami M. Mn-bishine: a low affinity chelate for manganese ion enhanced MRI. Magn Reson Med. 2011;65:1005-1012. IF 3.225
- 14) Seo Y, Takamata A, Ogino T, Morita H, Murakami M. Lateral diffusion of manganese in the rat brain determined by T₁ relaxation time measured by ¹H MRI. J Physiol Sci. 2011;61:259-266. IF 1.356

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：田中邦彦；科学研究費補助金基盤研究(C)：重力変化時の循環調節における内耳前庭系機能の解明と応用；平成 17-20 年度；2,800 千円(800：700：800：500 千円)
- 2) 研究代表者：森田啓之；科学研究費補助金基盤研究(C)：起立体性低下における前庭系の関与；平成 20-22 年度；4,680 千円(1,690：1,690：1,300 千円)
- 3) 研究代表者：安部 力；科学研究費補助金特別研究員奨励費：重力環境変化に対する生体適応・将来月面基地で生活するために；平成 20-21 年度；1,600 千円(800：800 千円)
- 4) 研究分担者：森田啓之；科学研究費補助金基盤研究(C)：視床下部における食欲中枢の MRI による 3 次元画像化に関する研究；平成 20 年度；650 千円
- 5) 研究代表者：田中邦彦；研究分担者：森田啓之；独立行政法人科学技術振興機構 シーズ発掘試験研究：高与圧かつ高可動性宇宙服要素の開発と検証；平成 21 年度；2,000 千円
- 6) 研究代表者：田中邦彦；研究分担者：青木光広；研究科長・医学部長裁量経費(重点的配分)；経皮的内耳電気刺激が循環系に与える効果の評価と応用；平成 21 年度；1,000 千円
- 7) 研究分担者：森田啓之；科学研究費補助金基盤研究(C)：深部静脈血栓症を予防するための CPM を駆使した椅子の開発；平成 22 年度；2,000 千円
- 8) 研究代表者：安部 力；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：起立性低血圧における前庭-動脈血圧反射の定量的評価と飲水による改善方法；平成 23-25 年度；3,400 千円(1,400：1,000：1,000 千円)
- 9) 研究代表者：安部 力；公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団一般公募研究助成：ダール食塩感受性高血圧発症ラットの飲水-昇圧反射ゲインと不整脈発症の相関関係；平成 23 年度；1,000 千円
- 10) 研究代表者：森田啓之；ライフサイエンス国際公募候補テーマ地上予備実験 JAXA：前庭-血圧反射の可塑性とその対策；平成 23 年度；1,441.44 千円
- 11) 研究分担者：森田啓之；科学研究費補助金基盤研究(C)：深部静脈血栓症を予防するための CPM を駆使した椅子の開発；平成 23 年度；2,000 千円

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

- 1) 森田啓之：車両内装品が人体に及ぼす影響；平成 18-21 年度；3,416 千円(710：836：935：935 千円)：トヨタ紡織(株)
- 2) 田中邦彦：次世代先端宇宙服要素技術の研究；平成 21 年度；566 千円：宇宙航空研究開発機構
- 3) 森田啓之：自動車用シート野長時間着座における疲労の解明；平成 22-23 年度；11,000 千円(5,500：5,500 千円)トヨタ自動車(株)

5. 発明・特許出願状況

- 1) 森田啓之，田中邦彦，後藤太郎，佐藤允男，中村久子：弾性着衣；平成 22 年度(特許第 4609923 号)
- 2) 山田宏尚，森田啓之，田中邦彦：起立補助椅子；平成 22 年度(特許公開 2010-1549)
- 3) 森田啓之，田中邦彦，安部 力，小栗成人：フットレスト装置；平成 22 年度(特許公開 2010-83300)

6. 学会活動

1) 学会役員

森田啓之：

- 1) 日本病態生理学会理事(~現在)
- 2) 日本生理学会評議員(~現在)
- 3) 日本航空宇宙環境医学会理事(平成 21 年 11 月~現在)

田中邦彦：

- 1) 日本生理学会評議員(~現在)
- 2) 日本病態生理学会評議員(~現在)
- 3) 日本宇宙航空環境医学会評議員(~現在)

- 4) 加速度脈波・脈波研究会世話人(～現在)

安部 力：

- 1) 日本病態生理学会評議員(平成 22 年 1 月～現在)
2) 日本生理学会評議員(平成 23 年 3 月～現在)

2) 学会開催

森田啓之：

- 1) 第 55 回日本航空宇宙環境医学会大会(平成 21 年 11 月, 岐阜)

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

森田啓之：

- 1) 30th.International Gravitational Physiology(2009.05, Xian, Symposium: Role of vestibular system in arterial pressure control during posture transition in human ; Symposiast)
2) 30th.International Gravitational Physiology(2009.05, Xian, Symposium: Arterial pressure response to short period of microgravity in rats ; Chairman, Symposiast)
3) 第 16 回日本航空医療学会総会(平成 21 年 11 月, 岐阜, 特別講演「宇宙環境下での環境調節」演者)
4) 第 56 回日本宇宙航空環境医学会大会(平成 22 年 11 月, 所沢, 「前庭-血圧反射の可塑性とその対策: Plastic alteration of vestibulo-cardiovascular reflex and its countermeasure」シンポジスト)

田中邦彦：

- 1) 第 79 回日本衛生学会(平成 21 年 3 月, 東京, シンポジウム「宇宙医学における衛生学の貢献」シンポジスト)
2) 第 24 回マイクログラビティ応用学会(平成 21 年 10 月, 那覇, 特別講演「可動性の高い宇宙服の実現へ向けて」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

安部 力：

- 1) 第 12 回 Neurocardiology workshop 奨励賞(平成 23 年度)

9. 社会活動

森田啓之：

- 1) ソルトサイエンス研究財団研究運営審議会委員(～現在)
2) 日本学術振興科学研究費委員会専門委員(～現在)

10. 報告書

- 1) 田中邦彦：重力変化時の循環調節における内耳前庭系機能の解明と応用：平成 20 年度科学研究費補助金基盤研究(C)実績報告書(平成 21 年 4 月)
2) 田中邦彦：次世代先端宇宙服研究研究成果報告書(平成 21 年 3 月)

11. 報道

- 1) 田中邦彦：宇宙長期滞在を安全かつ快適に－衛生学の研究アプローチに期待：Medical Tribune (2009 年 6 月 25 日)

12. 自己評価

評価

生理学教室の目標である, ①学会発表, ②外部資金獲得, ③論文発表を達成することができた。

現状の問題点及びその対応策

特に問題点は見当たらない。

今後の展望

①学会発表, ②外部資金獲得, ③論文発表の発展に努めることである。

(3) スポーツ医科学分野

1. 研究の概要

異なる環境下において運動を行うことにより、さまざまな生理的変化をもたらす。それらの変化についての研究を行っている。

おもな研究テーマは

- 1) 近赤外線分光法を用いて、高地または低酸素環境における運動が筋内酸素動態に及ぼす影響
- 2) 運動が自律神経に及ぼす影響
- 3) 高齢者の平衡機能に関する研究
- 4) 超音波装置の画像と電気生理的検査の関連性での検討を行い、スポーツや疾患による神経の形態学的変化について研究

2. 名簿

教授： 松岡敏男 Toshio Matsuoka
講師： 長崎幸雄 Sachio Nagasaki
助教： 渡邊恒夫 Tuneo Watanabe

3. 研究成果の発表

著書（和文）

なし

著書（欧文）

- 1) Watanabe T. Sonographic Imaging of the Peripheral Nerves in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus In: Zimering M. Recent Advances in the Pathogenesis, Prevention and Management of Type 2 Diabetes and its Complications. Croatia: INTECH. 2011:15-32.

総説（和文）

- 1) 渡邊恒夫. 末梢神経の超音波検査—超音波検査による糖尿病患者の正中神経計測の有用性について, 超音波テク 2009年; 21巻: 105-110.

総説（欧文）

なし

原著（和文）

- 1) 川瀬晴美, 加藤義弘, 横山明孝, 後藤 浩, 松岡敏男, 河合直樹, 久野保夫, 青木 靖, 小林 博. 高校1年生の心電図所見と中学時代の運動歴との関係, 医学書院 2009年; 57巻: 217-219.
- 2) 鈴木 壮, 岸 順治, 黒川淳一, 松岡敏男. スポーツ競技者の QOL(Quality of Life)に関する研究—QOLA 尺度の作成, 及びその年代差, 性差との関係—, 臨床心理身体運動学研究 2009年; 11巻: 3-16.
- 3) 松岡敏男, 加藤義弘, 渡邊恒夫, 宮本 敬, 川地真一, 杉森弘幸, 山田英徳, 長崎幸雄, 川瀬晴美, 藤本 元, 小栗和雄. 中・高齢者の健康増進を目的とした低酸素環境下の運動効果について, 登山医学 2009年; 29巻: 187-192.
- 4) 小栗和雄, 星川佳広, 富樫健二, 春日晃章, 館 俊樹, 藤井勝紀, 松岡敏男. メタボリックシンドロームを合併した肥満小児における動脈硬化の危険性と体脂肪分布, 発育発達研究 2010年; 46巻: 1-10.
- 5) 藪本 保, 西村正明, 岩越康真, 渡邊雄介, 菱川明季, 福富 梯, 古田善伯, 今井 一, 松岡敏男. 脳性麻痺児・者におけるスポーツ参加への意識調査について, 日本障害者スポーツ学会誌 2010年; 18巻: 38-42.
- 6) 横山明孝, 加藤義弘, 川瀬晴美, 牛越博昭, 後藤 浩, 松岡敏男. 高校男子ラグビー選手の心形態, 臨床スポーツ医学 2010年; 27巻: 451-456.
- 7) 黒川淳一, 杉浦 琢, 堀 義治, 井上真人, 松岡敏男. 全寮生活下にある高校生女子運動部員の精神健康度に関する縦断調査(1), スポーツ精神医学 2010年; 7巻: 24-33.
- 8) 照井裕美, 川瀬晴美, 金森寛充, 横山明孝, 加藤義弘, 松岡敏男, 清島 満. 呼吸機能検査中の不整脈の検討, 臨床検査 2011年; 60巻: 767-772.

原著（欧文）

- 1) Watanabe T, Ito H, Morita A, Uno Y, Nishimura T, Kawase H, Kato Y, Matsuoka T, Takeda J, Seishima M. Sonographic evaluation of the median nerve in diabetic patients- comparison with nerve conduction studies. J Ultrasound Med. 2009;28:727-734.
- 2) Yabumoto T, Fukutomi O, Watabnabe Y, Furuta Y, Imai H, Matsuoka T. Aceleed plethysmography assessment of the autonomous nervous system and activities to build self support in children with

IF 1.307

cerebral palsy. J Educ Health Sci. 2009;55:155-160.

- 3) Watanabe T, Ito H, Sekine A, Katano Y, Nishimura T, Kato Y, Takeda J, Seishima M, Matsuoka T. Sonographic evaluation of the peripheral nerve in diabetic patients: The relationship among nerve conduction studies, echo intensity, and cross sectional area. J Ultrasound Med. 2010;29:697-708. IF 1.307

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

なし

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

松岡敏男：

- 1) 日本教育医学会評議員(～現在)
- 2) 日本登山医学会評議員(～現在)

長崎幸雄：

- 1) 日本生理学会評議員(～現在)
- 2) 日本運動生理学会評議員(～現在)
- 3) 日本教育医学会評議員(～現在)

渡邊恒夫：

- 1) 東海エコーカンファレンス役員(～現在)

2) 学会開催

松岡敏男：

- 1) 第7回 2009年岐阜アスレティックリハビリテーションフォーラム開催(平成21年2月, 岐阜)
- 2) 第8回 2010年岐阜アスレティックリハビリテーションフォーラム開催(平成22年2月, 岐阜)

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

松岡敏男：

- 1) 平成21年高齢者交通安全大学校学長等研修会(平成21年4月, 多治見, 講演「高齢者の運動機能」演者)
- 2) 全国病理学療法学会(平成21年9月, 岐阜, 特別講演「老年期の機能と障害」演者)
- 3) 平成21年高齢者交通安全大学校学長等研修会(平成21年10月, 岐阜, 講演「高齢者の運動機能」演者)
- 4) 平成22年岐阜市老人クラブ連合会(平成22年3月, 岐阜, 講演「高齢者に必要な体力とは」演者)
- 5) 日本健康行動科学会第10回学術大会(平成23年10月, シンポジウム4「高所での運動・トレーニング」演者)

長崎幸雄：

- 1) 第60回岐阜県耳鼻咽喉科学会岐阜地区耳鼻咽喉科研修会(平成22年5月, 岐阜, 講演「立位時の身体動揺の新たな評価方法について」演者)

加藤義弘：

- 1) 第 29 回登山医学会(平成 21 年 5 月, シンポジウム「遭難事故防止への山岳診療所の役割—奥穂高診療所の歩みと将来展望—」 演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

松岡敏男：

- 1) 岐阜県体育協会スポーツ医科学委員会委員(～現在)
- 2) 岐阜県トレーニング科学センター高地トレーニングスーパーバイザー(～平成 22 年)
- 3) 岐阜県体育協会評議員(～現在)
- 4) 日本ラグビーフットボール協会事業委員会委員(～現在)
- 5) 関西ラグビーフットボール協会評議員(～現在)
- 6) 岐阜県ラグビーフットボール協会理事長(～現在)
- 7) 岐阜アスレティックリハビリテーション研究会会長(～現在)
- 8) 岐阜東洋医学研究会世話人(～現在)
- 9) 日本学術振興科学研究費委員会専門委員 2 段審査員(平成 21～22 年)

長崎幸雄：

- 1) 岐阜県学生柔道連盟理事(～現在)
- 2) 岐阜県柔道協会医科学委員(～現在)

10. 報告書

なし

11. 報道

- 1) 長崎幸雄：姿勢制御, 脳の働き解明：岐阜新聞(2010 年 5 月 11 日)

12. 自己評価

評価

教育に関しては共通教育, 医学部教育に多大な貢献をしている。またテュトリアルコースも担当しており, 問題はないと思われる。

外部資金に関しては科学研究費はこのところ獲得できておらず, 目標が達成できていない。

大学の活性化経費等にも積極的に応募しているが獲得できていない。さらなる努力が必要かも知れない。奨学寄附金に関しては毎年同じところから頂いているが, 増加するまでには至っていない。

英文の論文数は以前より増加し, この点は改善されてきたように思える。

大学院生はここ数年入学しているが社会人入学生が多く, 余り指導をできておらず, 論文も書けていない。今後はしっかりした指導体制の下で指導することが必要と思われる。

現状の問題点及びその対応策

スタッフが少ないことである。奨学寄附金が多ければ, 臨時雇用することも可能であるが, その資金は不可能に近い。学振の外国人特別研究者などに応募をしているが, 人材確保は難しい。大学院生は昼間コースの人材確保(現在は 1 人)が重要であると思われるがなかなか該当者がいないのが現状である。

今後の展望

ここ数年はスポーツ医科学分野の研究はスポーツ選手の競技力向上を目指す研究から高齢者を対象としての運動による日常生活の健康増進, 障害・疾病予防に関する研究を進めており, 予防医学におけるスポーツ医科学の重要性を模索している。さらには社会的貢献すべき研究を進めていかなければと考えている。

(4) 神経内科・老年学分野

1. 研究の概要

- 1) メタロチオネイン (MT) の筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 等神経変性疾患治療薬としての開発: MT-III cDNA 組み込みアデノウイルスの ALS モデルマウス筋肉内投与で、生存期間を有意に延長させ ALS 治療薬としての可能性を示した。ALS 患者の iPS 細胞の作製, MT の結合蛋白の検索, 結合蛋白との調節を利用した創薬の開発, 論理的創薬法を用いた低分子化合物による薬剤開発について共同研究を行っている。さらに MT の脳虚血に対する神経保護効果についても明らかにした。
- 2) ファール病 (特発性両側性大脳基底核・小脳歯状核石灰化症) の診断方法の確立と治療法の開発: 疫学的調査により家系例も含め症例の集積が進み, 病因遺伝子の検索に向けて準備を進めている。髄液蛋白のプロテオーム解析, ファール病患者の iPS 細胞作製について共同研究を行っている。
- 3) 自己免疫性神経疾患の病態機序の解明と診断・治療法の開発: 自己免疫性神経疾患患者血清・髄液を用いたプロテオーム解析による抗神経抗体検索システムを確立し, 疾患特異的な新たな抗体と認識抗原を同定した。また, 血管の透過性や感作リンパ球の侵入部として重要なヒト大脳微小血管内皮細胞に対する抗体検索を, 自己免疫介在性脳症や広範な大脳白質病変をもつ患者などで行い, 同定した自己抗体の特異性や機能の解析を行っている。
- 4) 神経変性疾患の自律神経系の機能障害に関する研究: ^{13}C 呼気試験法を用いた消化管機能検査をパーキンソン病はじめ神経変性疾患において行い, 疾患特異的自律神経系の障害病態を明らかにした。
- 5) IT 機器を活用した難病心のケアシステム構築の研究: ALS, パーキンソン病の患者さんの QOL 上を目指し, 多職種と共同で疾患に関する最新情報, 写真等の配信, 患者相互に情報交換を支援してきた。
- 6) 重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究: 厚労科研「重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究班」に参加し, 重症難病患者の災害時支援の調査と啓発, 「在宅人工呼吸器装着患者の災害時支援事業」の支援, 難病患者のコミュニケーション支援の調査と支援を推進してきた。当院及び当科では難病拠点病院として重症難病対策を進めてきた。
- 7) スモンに関する調査研究: 厚労科研「スモンに関する調査研究班」に参加し, 岐阜県では保健所検診と訪問検診を行ってきた。スモンの風化に対して医療系学生のスモンに対する認識調査を行い啓発した。

2. 名簿

教授:	犬塚 貴	Takashi Inuzuka
臨床准教授:	木村暁夫	Kimura Akio
併任講師:	林 祐一	Yuichi Hayashi
臨床講師:	香村彰宏	Akihiro Koumura
臨床講師:	山田 恵	Megumi Yamada
医員:	原田斉子	Naoko Harada
医員:	吉倉延亮	Nobuaki Yoshikura

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 犬塚 貴. PSP の診断に有用な画像変化: 水野美邦編. パーキンソン病診療, 東京: 中外医学社; 2009 年: 46-48.
- 2) 田中優司, 犬塚 貴. 脂溶性ビタミン欠乏症治療のスタンダード: 岡本幸市, 棚橋紀夫, 水澤英洋編. EBM 神経疾患の治療 2009-2010, 東京: 中外医学社; 2009 年: 381-388.
- 3) 田中優司, 犬塚 貴. 傍腫瘍性神経症候群: 鈴木則宏編. 神経疾患・診療ガイドライン-最新の治療指針一, 東京: 総合医学社; 2009 年: 157-162.
- 4) 犬塚 貴. 意識障害: 金澤一郎, 永井良三編. 今日の診断指針第 6 版, 東京: 医学書院; 2010 年: 114-118.
- 5) 田中優司, 犬塚 貴. 悪性腫瘍に伴う神経障害: 田村 晃, 松谷雅生, 清水輝夫編. EBM に基づく脳神経疾患の基本治療指針改訂第 3 版, 東京: メジカルビュー社; 2010 年: 501-508.
- 6) 田中優司, 犬塚 貴. 薬物に伴う神経障害: 田村 晃, 松谷雅生, 清水輝夫編. EBM に基づく脳神経疾患の基本治療指針改訂第 3 版, 東京: メジカルビュー社; 2010 年: 625-632.
- 7) 香村彰宏, 保住 功. ふるえ: 森田浩之編. いきなり名医! 見分けが肝心, 不定愁訴 jmedmook09, 東京: 日本医事新報社; 2010 年: 60-64.
- 8) 林 祐一, 保住 功. 物忘れ: 森田浩之編. いきなり名医! 見分けが肝心, 不定愁訴 jmedmook09, 東京: 日本医事新報社; 2010 年: 65-70.
- 9) 犬塚 貴. 歩行障害と動作緩慢: 日本老年医学会編. 健康長寿診療ハンドブック, 東京: メディカルビュー社; 2011 年: 25-29.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 犬塚 貴. 傍腫瘍性辺縁系脳炎, 精神治療 2009年; 4巻: 315-320.
- 2) 犬塚 貴. 老化による身体的な変化, Modern Physician 2009年; 29巻: 1379-1381.
- 3) 犬塚 貴. 高齢期のパーキンソン病と類縁疾患, 老年医学 2009年; 48巻: 945-946.
- 4) 犬塚 貴, 栗山 勝, 藤田信也, 岩本俊彦. 高齢者のパーキンソン病-診断と治療-, 老年医学 2009年; 48巻: 1035-1045.
- 5) 安藤 喬. 高齢者の救急医療 make a successful landing その時医師にできること 高齢者をめぐる周辺状況 地域で診る高齢者 現状と問題点, Modern Physician 2009年; 29巻: 1483-1487.
- 6) 木村暁夫, 犬塚 貴. 膠原病における新たな抗神経抗体の検索, 日内会誌 2010年; 99巻: 1865-1870.
- 7) 犬塚 貴, 松田正之, 山田光則, 渡辺幸夫, 山田 恵. 膠原病に伴う神経障害の診療, 日内会誌 2010年; 99巻: 1878-1891.
- 8) 田中優司. 一般臨床における神経症候の診かた, 第30回岐阜県医師会メディカルセミナー -神経疾患-, 岐阜県医師会医学雑誌 2010年; 23巻: 23-32.
- 9) 林 祐一, 犬塚 貴. 後期高齢者診療ガイド各論: 後期高齢者に多い疾患 パーキンソン症候群, 治療 2010年; 92巻: 50-52.
- 10) 犬塚 貴. 老年症候群の見方 認知症, 日老会誌 2010年; 47巻: 534-536.
- 11) 林 祐一, 犬塚 貴. 認知症のCT・MRI診断, Mebio 2011年; 28巻: 77-83.
- 12) 林 祐一, 犬塚 貴. 細胞内抗原を認識する自己抗体が関連する傍腫瘍性神経症候群, Medical Science Digest 2011年; 37巻: 136-139.
- 13) 林 祐一, 犬塚 貴. 神経疾患 common disease の診かた 腫瘍および関連する神経障害, Medicina 2011年; 48巻: 1364-1367.

総説 (欧文)

- 1) Misasi R, Hozumi I, Inuzuka T, Capozzi A, Mattei V, Kuramoto Y, Shimeno H, Soeda S, Azuma N, Yamauchi T, Hiraiwa M. Biochemistry and neurobiology of prosaposin: a potential therapeutic neuro-effector. Cent Nerv Syst Agents Med Chem. 2009;9:119-131.

原著 (和文)

- 1) 櫻井岳郎, 田中優司, 木村暁夫, 保住 功, 犬塚 貴. 胃腸炎後に発症した抗GQ1b抗体陽性の小脳失調を伴わない急性一側性外転神経麻痺の1例, 神経内科 2009年; 71巻: 514-516.
- 2) 櫻井岳郎, 木村暁夫, 山田 恵, 林 祐一, 田中優司, 保住 功, 犬塚 貴. 特発性中脳水道狭窄症による閉塞性水頭症に対するV-Pシャント術の1年後から急速に進行するparkinsonismを呈した1例, 脳と神経 2010年; 62巻: 527-531.
- 3) 矢野大仁, 梅村 淳, 八十川雄図, 林 祐一, 中山則之, 大江直行, 野村悠一, 保住 功, 犬塚 貴, 岩間亨. GPi-DBSが奏功したハンチントン病の1例, 機能的脳神経外科 2010年; 49巻: 120-124.
- 4) 林 祐一, 山田 恵, 香村彰宏, 吉倉延亮, 原田斉子, 木村暁夫, 田中優司, 保住 功, 犬塚 貴. 終末期の筋萎縮性側索硬化症に対する呼吸苦緩和への取り組み, 岐阜県内科医会雑誌 2011年; 25巻: 85-89.

原著 (欧文)

- 1) Tanaka Y, Kato T, Nishida H, Araki H, Murase M, Nagaki M, Moriwaki H, Inuzuka T. Is there difference in gastric emptying of Parkinson's disease patients under long-term l-dopa therapy between with and without motor fluctuations? : An analysis using the 13C-acetate breath test. J Neurol. 2009;256:1972-1976. IF 3.853
- 2) Suzuki Y, Ohta K, Itoh M, Sumitomo YS, Mitsuda T, Ueda M, Hayakawa-Yano Y, Li S, Hida Y, Inuzuka T, Nakagawa T. An alternative spliced mouse presenilin-2 mRNA encodes a novel γ -secretase inhibitor. FEBS Lett. 2009;583:1403-1408. IF 3.601
- 3) Koumura A, Kakefuda K, Honda A, Ito Y, Tsuruma K, Shimazawa M, Uchida Y, Hozumi I, Satoh M, Inuzuka T, Hara H. Metallothionein-3 deficient mice exhibit abnormalities of psychological behaviors. Neurosci Lett. 2009;467:11-14. IF 2.055
- 4) Koumura A, Hamanaka J, Shimazawa M, Honda A, Tsuruma K, Uchida Y, Hozumi I, Satoh M, Inuzuka T, Hara H. Metallothionein-III knockout mice aggravates the neuronal damage after transient focal cerebral ischemia. Brain Res. 2009;1292:148-154. IF 2.623
- 5) Hashimoto K, Hayashi Y, Inuzuka T, Hozumi I. Exercise induces metallothioneins in mouse spinalcord. Neuroscience. 2009;29:244-251. IF 3.215
- 6) Hashimoto K, Honda A, Hayashi Y, Inuzuka T, Satoh M, Hozumi I. DNA microarray analysis of transcriptional responses of mouse spinal cords to physical exercise. J Toxicol Sci. 2009;34:445-448. IF 1.893
- 7) Ito Y, Yamada M, Tanaka H, Aida K, Tsuruma K, Shimazawa M, Hozumi I, Inuzuka T, Takahashi H, Hara H. Involvement of CHOP, an ER-stress apoptotic mediator, in both human sporadic ALS and ALS model mice. Neurobiol Dis. 2009;36:470-476. IF 5.121
- 8) Park YE, Hayashi YK, Goto K, Komaki H, Hayashi Y, Inuzuka T, Noguchi S, Nonaka I, Nishino I.

- Nuclear changes in skeletal muscle extend to satellite cells in autosomal dominant Emery-Dreifuss muscular dystrophy/limb-girdle muscular dystrophy 1B. *Neuromuscul Disord.* 2009;19:29-36. IF 2.764
- 9) Nonaka Y, Koumura A, Hyakkoku K, Shimazawa M, Yoshimura S, Iwama T, Hara H. Combination treatment with normobaric hyperoxia and cilostazol protects mice against focal cerebral ischemia-induced neuronal damage better than each treatment alone. *J Pharmacol Exp Ther.* 2009;330:13-22. IF 4.017
- 10) Tanaka Y, Kimura K, Kawachi I, Inuzuka T. No relapse of neuromyelitis optica during drug-induced B-lymphopenia with hypo-gammaglobulinemia. *Neurology.* 2010;75:1745-1747. IF 8.017
- 11) Kimura A, Kanoh Y, Sakurai T, Koumura A, Yamada M, Hayashi Y, Tanaka Y, Hozumi I, Takemura M, Seishima M, Inuzuka T. Antibodies in patients with neuropsychiatric systemic lupus erythematosus. *Neurology.* 2010;74:1372-1379. IF 8.017
- 12) Kimura A, Sakurai T, Koumura A, Yamada M, Hayashi Y, Tanaka Y, Hozumi I, Yoshino H, Yuasa T, Inuzuka T. Motor-dominant chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy. *J Neurol.* 2010; 257:621-629. IF 3.853
- 13) Kimura A, Sakurai T, Koumura A, Yamada M, Hayashi Y, Tanaka Y, Hozumi I, Tanaka R, Takemura M, Seishima M, Inuzuka T. High prevalence of autoantibodies against phosphoglycerate mutase 1 in patients with autoimmune central nervous system diseases. *J Neuroimmunol.* 2010;219:105-108. IF 2.901
- 14) Hayashi Y, Kato T, Tanaka Y, Yamada M, Koumura A, Kimura A, Hozumi I, Inuzuka T. Markedly ring-enhanced optic nerves due to metastasis of signet-ring cell gastric carcinoma. *Intern Med.* 2010; 49:517. IF 1.037
- 15) Hayashi Y, Kimura A, Watabane N, Yamada M, Sakurai T, Tanaka Y, Hozumi I, Inuzuka T. Seiral monitoring of basal metabolic rate for therapeutic evaluation in an Isaacs' syndrome patient with chronic fluctuating symptoms. *Intern Med.* 2010;49:475-477. IF 1.037
- 16) Nozaki I, Hamaguchi T, Sanjo N, Noguchi-Shinohara M, Sakai K, Nakamura Y, Sato T, Kitamoto T, Mizusawa H, Moriwaka F, Shiga Y, Kuroiwa Y, Nishizawa M, Kuzuhara S, Inuzuka T, Takeda M, Kuroda S, Abe K, Murai H, Murayama S, Tateishi J, Takumi I, Shirabe S, Harada M, Sadakane A, Yamada M. Prospective 10-year surveillance of human prion diseases in Japan. *Brain* 2010;133:3043-3057. IF 9.230
- 17) Honda A, Komuro H, Shimada A, Hasegawa T, Seko Y, Nagase H, Hozumi I, Inuzuka T, Hara H, Fujiwara Y, Satoh M. Attenuation of cadmium-induced testicular injury in metallothionein-III null mice. *Life Sci.* 2010;87:545-550. IF 2.451
- 18) Lancaster E, Lai M, Peng X, Hughes E, Constantinescu R, Raizer J, Friedman D, Skeen MB, Grisold W, Kimura A, Ohta K, Iizuka T, Guzman M, Graus F, Moss SJ, Balice-Gordon R, Dalmau J. Antibodies to the GABA(B) receptor in limbic encephalitis with seizures: case series and characterisation of the antigen. *Lancet Neurol.* 2010;9:67-76. IF 21.659
- 19) Honda A, Komuro H, Nagase H, Hozumi I, Inuzuka T, Hara H, Fujiwara Y, Satoh M. D Microarray analysis of the liver in metallothionein-III null mice treated with cadmium. *J Toxicol Sci.* 2010;35: 271-273. IF 1.893
- 20) Honda A, Komuro H, Hasegawa T, Seko Y, Shimada A, Nagase H, Hozumi I, Inuzuka T, Hara H, Fujiwara Y, Satoh M. Resistance of metallothionein-III null mice to cadmium-induced acute hepatotoxicity. *J Toxicol Sci.* 2010;35:209-215. IF 1.893
- 21) Hozumi I, Kohmura A, Kimura A, Hasegawa T, Honda A, Hayashi Y, Hashimoto K, Yamada M, Sakurai T, Tanaka Y, Satoh M, Inuzuka T. High levels of copper, zinc, iron and magnesium but not calcium, in the CSF of patients with 'Fahr's disease'. *Case Report in Neurology* 2010;2:46-51.
- 22) Tanaka Y, Hayashi Y, Kato J, Yamada M, Koumura A, Sakurai T, Kimura A, Hozumi I, Hatano Y, Hirose Y, Takami T, Nakamura H, Kawahara S, Tsurumi H, Moriwaki H, Inuzuka T. Diffuse skeletal muscles uptake of [(18)f] fluorodeoxyglucose on positron emission tomography in primary muscle peripheral T-cell lymphoma. *Intern Med.* 2011;50:2021-2024. IF 1.037
- 23) Hashimoto K, Hayashi Y, Watabe K, Inuzuka T, Hozumi I. Metallothionein-III prevents neuronal death and prolong life span in amyotrophic lateral sclerosis model mice. *Neuroscience* 2011;189:293-298. IF 3.215
- 24) Hozumi I, Hasegawa T, Honda A, Ozawa K, Hayashi Y, Hashimoto K, Yamada M, Koumura A, Sakurai T, Kimura A, Tanaka Y, Satoh M, Inuzuka T. Patterns of levels of biological metals in CSF differ among neurodegenerative diseases. *J Neurol Sci.* 2011;303:95-99. IF 2.167
- 25) Sakurai T, Kimura A, Yamada M, Koumura A, Hayashi Y, Tanaka Y, Hozumi I, Inuzuka T. Identification of antibodies as biological markers in serum from multiple sclerosis patients by immunoproteomic approach. *J Neuroimmunol.* 2011;233:175-180. IF 2.901
- 26) Tanaka Y, Kato T, Nishida H, Yamada M, Koumura A, Sakurai T, Hayashi Y, Kimura A, Hozumi I, Araki H, Murase M, Nagaki M, Moriwaki H, Inuzuka T. Is there a delayed gastric emptying of patients with early-stage, untreated Parkinson's disease? An analysis using the 13C-acetate breath test. *J Neurol.* 2011;258:421-426. IF 3.853
- 27) Yoshida T, Sasayama H, Mizuta I, Okamoto Y, Yoshida M, Riku Y, Hayashi Y, Yonzetu T, Tanaka Y, Ohnari K, Okuda S, Aiba I, Nakagawa M. Glial fibrillary acidic protein mutations in adult-onset Alexander disease: clinical features observed in 12 Japanese patients. *Acta Neurol Scand.*

- 2011;124:104-108. IF 2.153
- 28) Tanaka Y, Yoshikura N, Harada N, Yamada M, Koumura A, Sakurai T, Hayashi Y, Kimura A, Hozumi I, Moriwaki H, Inuzuka T. Neuromyelitis optica in Japanese sisters. Intern Med. 2011;50:2829-2832. IF 1.037
- 29) Koumura A, Hamanaka J, Kawasaki K, Tsuruma K, Shimazawa M, Hozumi I, Inuzuka T, Hara H. Fasudil and ozagrel in combination show neuroprotective effects on cerebral infarction after murine middle cerebral artery occlusion. J Pharmacol Exp Ther. 2011;338:337-344. IF 4.107
- 30) Ohta K, Mizuno A, Li S, Itoh M, Ueda M, Ohta E, Hida Y, Wang MX, Furoi M, Tsuzuki Y, Sobajima M, Bohmoto Y, Fukushima T, Kobori M, Inuzuka T, Nakagawa T. Endoplasmic reticulum stress enhances γ -secretase activity. Biochem Biophys Res Commun. 2011;416:362-366. IF 2.595

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：保住 功；科学研究費補助金基盤研究(B)：老化、脳虚血およびメタボリック症候群におけるメタロチオネインの役割と創薬の研究；平成 19—21 年度；14,600 千円(9,800：2,700：2,100 千円)
- 2) 研究代表者：犬塚 貴；科学研究費補助金基盤研究(C)：プロテオミクスによる筋無力症・筋炎特異的自己抗体の検索とバイオマーカーの確立；平成 20—22 年度；3,400 千円(1,600：800：1,000 千円)
- 3) 研究代表者：木村暁夫；科学研究費補助金基盤研究(C)：多発性硬化症における大脳膜蛋白に対する新規自己抗体の検索とバイオマーカーの確立；平成 20—22 年度；3,500 千円(2,000：700：800 千円)
- 4) 研究代表者：木村暁夫；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：自己免疫介在性脳炎に関する新規抗神経抗体・抗血管内皮抗体の同定と診断・治療への応用；平成 23—25 年度；4,000 千円(1,400；1,300；1,300 千円)
- 5) 研究代表者：林 祐一；科学研究費補助金若手研究(B)：筋萎縮性側索硬化症モデルマウスに対する運動療法と抗酸化物質の併用治療効果について；平成 19—21 年度；3,200 千円(1,600：700：900 千円)
- 6) 研究代表者：林 祐一；学術研究助成基金助成金若手研究(B)：運動により変化するガングリオンド変換酵素種の同定とアルツハイマー病への応用；平成 23—25 年度；2,900 千円(1,000：1,000：900 千円)
- 7) 研究代表者：木村暁夫；厚生労働省科学研究費補助金こころの健康科学研究事業：プロテオーム解析を用いた高齢認知症患者における大脳白質病変と抗血管内皮細胞抗体の関連性に関する研究；平成 21—23 年度；11,500 千円(4,000：3,500：4,000 千円)
- 8) 研究分担者：犬塚 貴；厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業：重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究班【糸山班】；平成 20—22 年度；2,800 千円(800：1,000：1,000 千円)
- 9) 研究分担者：犬塚 貴；厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業：希少性難治性疾患患者に関する医療の向上及び患者支援のあり方に関する研究班【西澤班】；平成 23—25 年度；2,100 千円(700：700：700 千円)
- 10) 研究分担者：犬塚 貴；厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業：スモンに関する研究班【小長谷班】；平成 20—22 年度；2,100 千円(700：700：700 千円)
- 11) 研究分担者：犬塚 貴；厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業：スモンに関する研究班【小長谷班】；平成 23—25 年度；2,100 千円(700：700：700 千円)
- 12) 研究分担者：犬塚 貴；厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業：プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班【水澤班】；平成 20—21 年度；2,000 千円(1,000：1,000 千円)
- 13) 研究分担者：犬塚 貴；厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業：プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班【水澤班】；平成 22—24 年度；3,000 千円(1,000：1,000 千円)
- 14) 研究分担者：犬塚 貴；厚生労働省科学研究費補助金こころの健康科学研究事業：急性脳炎のグルタミン酸受容体自己免疫病態の解明から新たな治療法確立に向けた研究班(急性脳炎の自己免疫・治療研究班)【高橋班】；平成 20—22 年度；3,000 千円(1,000：1,000：1,000 千円)
- 15) 研究分担者：犬塚 貴；厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業：フェール病(特発性 両側性大脳基底核・小脳歯状核石灰化症)の分子病態の解明【保住班】；平成 23 年度；1,000 千円
- 16) 研究代表者：保住 功；平成 21 年度岐阜大学技術交流研究会企画応募 東海メタロチオネイン研究

- 会；平成 21 年度；150 千円
- 17) 研究代表者：保住 功；岐阜大学大学院医学系研究科多分野共同研究「プロジェクトチーム」：メタロチオネインおよびメタルバイオサイエンス；平成 21 年度；1,500 千円
 - 18) 研究代表者：林 祐一；研究科長・医学部長裁量経費(重点的配分)：下位運動ニューロン逆行輸送系を用いた筋萎縮性側索硬化症モデルマウスへの遺伝子治療；平成 21 年度；1,000 千円
 - 19) 研究代表者：保住 功；厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業：ファール病(特発性 両側性大脳基底核・小脳歯状核石灰化症)の分子病態の解明；平成 22 年度；15,600 千円
 - 20) 研究代表者：保住 功；平成 22 年度新潟大学脳研究所共同利用・共同研究 プロジェクト型共同研究：神経変性疾患におけるメタロチオネイン関連蛋白と重金属の作用機序の解明と創薬への応用；平成 22 年度；1,000 千円
 - 21) 研究代表者：林 祐一；三井住友海上福祉財団研究助成：運動療法によるβアミロイド凝集抑制効果の分子メカニズムの解明と認知症予防法への応用；平成 22 年度；1,400 千円
 - 22) 研究代表者：保住 功；平成 22 年度岐阜大学技術交流研究会企画応募：東海メタロチオネイン研究会；平成 22 年度；150 千円
 - 23) 研究代表者：保住 功；岐阜大学大学院医学系研究科多分野共同研究「プロジェクトチーム」：筋萎縮性側索硬化症(ALS)の病態解明と治療薬開発；平成 22 年度；2,000 千円
 - 24) 研究代表者：木村暁夫；研究科長・医学部長裁量経費(重点的配分)：アルツハイマー型認知症の早期診断マーカーの確立を目的とした疾患特異的抗神経抗体の同定；平成 22 年度；1,000 千円
 - 25) 研究代表者：香村彰宏；研究科長・医学部長裁量経費(重点的配分)：マウス中大脳動脈閉塞(MCAO)モデルに対するメタロチオネイン導入アデノウイルスベクターの神経保護作用の検討；平成 22 年度；1,000 千円
 - 26) 研究代表者：木村暁夫；研究科長・医学部長裁量経費(重点的配分)：アルツハイマー型認知症の早期診断マーカーの確立を目的とした疾患特異的抗神経抗体の同定；平成 23 年度；1,000 千円

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

犬塚 貴：

- 1) 日本神経学会代議員(～現在)
- 2) 日本神経学会教育委員(～現在)
- 3) 日本内科学会評議員(～現在)
- 4) 日本老年医学会監事(～現在)
- 5) 日本老年医学会代議員(～平成 22 年度)
- 6) 日本老年医学会教育委員(～現在)
- 7) 日本神経免疫学会理事(～現在)
- 8) 日本神経治療学会評議員(～現在)
- 9) 日本神経感染症学会評議員(～現在)
- 10) 日本難病ネットワーク研究会世話人(～現在)

保住 功：

- 1) 日本神経学会評議員(～現在)
- 2) 日本老年医学会代議員(～現在)
- 3) 日本老年医学会事例検討委員(～現在)
- 4) 日本内科学会病歴要約評価委員(～現在)
- 5) 日本人類遺伝学会評議員(～現在)

- 6) メタロチオネイン研究会幹事(～現在)
- 7) 日本神経治療学会評議員(～現在)

2) 学会開催

犬塚 貴：

- 1) 平成 20 年度日本神経学会東海北陸地区生涯教育講演会(平成 21 年 3 月, 名古屋)
- 2) 平成 21 年度日本神経学会東海北陸地区生涯教育講演会(平成 22 年 3 月, 名古屋)
- 3) 第 51 回岐阜県内科医会(平成 22 年 4 月, 岐阜)
- 4) 第 52 回岐阜県内科医会(平成 22 年 11 月, 高山)
- 5) 平成 22 年度日本神経学会東海北陸地区生涯教育講演会(平成 23 年 3 月, 名古屋)
- 6) 全国難病センター研究会第 15 回研究大会(平成 23 年 3 月, 岐阜)
- 7) 第 53 回岐阜県内科医会(平成 23 年 4 月, 岐阜)
- 8) 第 54 回岐阜県内科医会(平成 23 年 11 月, 美濃加茂)

3) 学術雑誌

犬塚 貴：

- 1) 日本老年医学会；編集委員(～現在)
- 2) Geriatrics Gerontology International；Associate Editor(～現在)
- 3) 日本神経免疫学会；編集委員(～現在)
- 4) 日本内科学会雑誌；編集委員(～平成 22 年度)
- 5) 医学のあゆみ編集協力者(～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

犬塚 貴：

- 1) 第 21 回日本神経免疫学会(平成 21 年 3 月, 大阪, シンポジウム「免疫性ニューロパチーの最近の話題」座長)
- 2) 第 46 回日本老年医学会総会(平成 21 年 6 月, 横浜, 講演会「認知症 2」座長)
- 3) 第 51 回日本神経学会総会(平成 22 年 5 月, 東京, 「多発性硬化症 6」座長)
- 4) 第 47 回日本老年医学会総会(平成 22 年 6 月, 神戸, 講演会「認知症 1」座長)
- 5) 第 47 回日本老年医学会総会(平成 22 年 6 月, 神戸, 教育講演「認知症」演者)
- 6) 第 52 回日本神経学会総会(平成 23 年 5 月, 名古屋, 「サルコイドーシス, 抗 GAD 抗体関連疾患など」座長)
- 7) 第 52 回日本神経学会総会(平成 23 年 5 月, 名古屋, 教育講演「傍腫瘍性神経症候群 update」演者)
- 8) 第 48 回日本老年医学会総会(平成 23 年 6 月, 東京, 教育講演「高齢期のパーキンソン病」演者)
- 9) 平成 23 年度日本内科学会生涯教育講演会 A セッション(平成 23 年 9 月, 山形, 教育講演会「認知症の理解と対応」演者)
- 10) 第 23 回日本神経免疫学会学術集会(平成 23 年 9 月, 東京, シンポジウム「受容体・チャネルに対する抗体を生じる神経疾患」座長)
- 11) 第 29 回日本神経治療学会総会(平成 23 年 11 月, 福井, 教育講演「自己免疫介在性脳炎」座長)

保住 功：

- 1) メタチオネインおよびメタルバイオサイエンス研究会 2009(平成 21 年 11 月, 東京, シンポジウム「神経疾患におけるメタロチオネイン・重金属の役割と治療への応用」演者)
- 2) 第 50 回日本神経学会総会(平成 21 年 5 月, 仙台, 「ALS③病理」座長)
- 3) 第 47 回日本老年医学会総会(平成 22 年 6 月, 神戸, 「神経分野」座長)
- 4) 日本薬学会東海支部(平成 22 年 7 月, 岐阜, 特別講演「神経変性疾患(ALS, ハンチントン病, Fahr 病)の治療戦略—メタロチオネインと iPS 細胞を活用して—」演者)

田中優司：

- 1) 第 7 回日本難病医療ネットワーク研究会(平成 22 年 10 月, 横浜, ワークショップ「難病患者のコミュニケーション IT 機器等支援に関するワークショップ」演者)

櫻井岳郎：

- 1) 第 21 回日本神経免疫学会(平成 21 年 3 月, 大阪, ワークショップ「プロテオミクス解析を用いた通常型多発性硬化症における疾患特異的抗神経抗体の検索」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 橋本和宜：メタロチオネインおよびメタルバイオサイエンス研究会 2009 ポスター賞(学生部門)(平成 21 年度)
- 2) 原田斉子：第 212 回日本内科学会東海地方会優秀演題賞(神経分野)(平成 22 年 10 月)
- 3) 岩崎 任：第 213 回日本内科学会東海地方会優秀演題賞(神経分野)(平成 23 年 2 月)
- 4) 林 祐一：岐阜県内科医会奨励賞 (平成 23 年 4 月)
- 5) 守田かんな：第 215 回日本内科学会東海地方会優秀演題(神経分野)(平成 23 年 10 月)

9. 社会活動

犬塚 貴：

- 1) 中部療護センター入院審査委員(～現在)
- 2) 岐阜県難病医療連絡協議会副会長(～現在)
- 3) 岐阜県医師会介護福祉委員(～現在)
- 4) 岐阜県医師会代議員(～現在)
- 5) 岐阜県認知症地域支援体制構築等推進委員会委員(～現在)
- 6) 日本 ALS 協会岐阜県支部特別顧問(～現在)
- 7) クロイツフェルトヤコブ病サーベイランス委員(全国)(～現在)
- 8) クロイツフェルトヤコブ病サーベイランス委員(岐阜県担当)(～現在)
- 9) 岐阜県難病団体就労連絡協議会委員(～現在)
- 10) 岐阜県内科医会会長(～現在)
- 11) 岐阜市社会福祉審議会委員(～現在)
- 12) 岐阜県認知症施策推進委員会(～現在)

保住 功：

- 1) 日本 ALS 協会岐阜県支部特別顧問(～現在)

田中優司：

- 1) 岐阜県国民健康保険団体連合会介護給付費審査委員(～現在)

林 祐一：

- 1) 岐阜市社会福祉審議会委員(～現在)

10. 報告書

- 1) 犬塚 貴, 田中優司, 山田 恵, 櫻井岳郎, 林 祐一, 木村暁夫, 保住 功, 堀田みゆき：岐阜県における在宅人工呼吸器装着患者の災害時支援体制の現状と課題—保健所および当事者の取り組み状況のアンケート調査—：厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究班 平成 20 年度総括・分担研究報告書：51—52(平成 21 年 1 月)
- 2) 祖父江元, 服部直樹, 小池春樹, 池田修一, 嶋田 豊, 林 正男, 栗山 勝, 犬塚 貴, 橋本修二, 溝口功一, 鷺見幸彦, 寶珠山稔, 丸山晋二, 藤本眞一, 宮田和明, 小長谷正明, 久留 聡, 齊藤由扶子：平成 20 年度中部地区スモン患者の実態：厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 スモンに関する研究班 平成 20 年度総括・分担研究報告書：32—34(平成 21 年 1 月)
- 3) 犬塚 貴：非ヘルペス性辺縁系脳炎患者髄液中における新規神経抗体の同定. 厚生労働科学研究費補助金 こころの健康科学研究事業 急性脳炎・脳症のグルタミン酸受容体自己免疫病態の解明から新たな治療法確立に向けた研究班 平成 20 年度総括・分担報告書；1/2：116—117(平成 21 年 1 月)
- 4) 木村暁夫：自己免疫性疾患に伴う中枢神経障害に関する抗神経抗体の検索と抗原機能の解析：病態の解明と治療法確立に向けて：厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業 平成 20 年度総括研究報告書：1—53(平成 21 年 1 月)
- 5) 木村暁夫：自己免疫性疾患に伴う中枢神経障害に関する抗神経抗体の検索と抗原機能の解析—病態の解明と治療法確立に向けて：厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業 平成 18—20

年度総合研究報告書：1-103(平成21年1月)

- 6) 犬塚 貴：非ヘルペス性辺縁系脳炎患者の髄液中における新規抗神経抗体の同定：厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業 急性脳炎のグルタミン酸受容体自己免疫病態の解明から新たな治療法確立に向けた研究班(急性脳炎の自己免疫・治療研究班)平成21年度総括・分担報告書：120-121(平成22年3月)
- 7) 祖父江元, 小池春樹, 池田修一, 嶋田 豊, 林 正男, 栗山 勝, 犬塚 貴, 橋本修二, 溝口功一, 鷺見幸彦, 寶珠山 稔, 吉田 宏, 五島 明, 宮田和明, 齋藤由扶子, 服部直樹, 小長谷正明, 久留聡：平成21年度中部地区スモン患者の実態：厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 スモンに関する研究班 平成21年度総括・分担研究報告書：45-47(平成22年3月)
- 8) 犬塚 貴, 田中優司, 林 祐一, 木村暁夫, 保住 功, 堀田みゆき：岐阜県における災害時難病患者支援計画の現状と課題：厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究班 平成21年度総括・分担研究報告書：48-49(平成22年3月)
- 9) 犬塚 貴, 田中優司, 林 祐一, 木村暁夫, 保住 功, 堀田みゆき：岐阜県における在宅難病患者自身の災害時に対する備えの現状と課題：厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究班 平成21年度総括・分担研究報告書：103-105(平成22年3月)
- 10) 犬塚 貴：辺縁系脳炎患者における抗 Leuchine-rich, glioma-inactivated 1 (LGI1)抗体の検討：厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業 急性脳炎のグルタミン酸受容体自己免疫病態の解明から新たな治療法確立に向けた研究班(急性脳炎の自己免疫・治療研究班)平成22年度総括・分担報告書：1/2：115-116(平成23年3月)
- 11) 犬塚 貴：非ヘルペス性辺縁系脳炎の新規抗神経抗体の探索：厚生労働省科学研究費補助金障害者対策総合研究事業 急性脳炎・脳症のグルタミン酸受容体自己免疫病態の解明・早期診断・治療法確立に関する臨床研究平成20-22年度総合研究報告：1/2：218-220(平成23年3月)
- 12) 保住 功：フェール病(特発性両側性大脳基底核・小脳歯状核石灰化症)の分子病態の研究：厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 平成22年度総括・分担研究報告書：1-93(平成23年)
- 13) 木村暁夫：プロテオーム解析を用いた高齢認知症患者における大脳白質病変と抗血管内皮細胞抗体の関連性に関する研究：厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業 平成21年度総括研究報告書：1-55(平成22年3月)
- 14) 木村暁夫：プロテオーム解析を用いた高齢認知症患者における大脳白質病変と抗血管内皮細胞抗体の関連性に関する研究：厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業 平成22年度総括研究報告書：1-84(平成23年3月)
- 15) 犬塚 貴, 田中優司, 林 祐一, 木村暁夫, 保住 功, 堀田みゆき：岐阜県における重症難病患者の地域医療体制の現状と課題：厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究班 平成20-22年度総合研究報告書：61-64(平成23年3月)
- 16) 犬塚 貴, 田中優司, 林 祐一, 木村暁夫, 保住 功, 堀田みゆき：岐阜県における重症難病患者の地域医療体制の現状と課題：厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究班 平成22年度総括・分担報告書：59-60(平成23年3月)
- 17) 犬塚 貴, 田中優司, 林 祐一, 木村暁夫, 保住 功, 堀田みゆき：岐阜県における災害時難病患者支援に関する報告：厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究班 平成22年度総括・分担報告書：112-113(平成23年3月)
- 18) 犬塚 貴, 林 祐一, 吉倉延亮, 原田斉子, 山田 恵, 香村彰宏, 櫻井岳郎, 木村暁夫, 田中優司, 保住 功. 岐阜県におけるプリオン病の実態：厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究 平成22年度総括・分担研究報告書：51-52(平成23年3月)
- 19) 祖父江元, 小池春樹, 川頭祐一, 池田修一, 嶋田 豊, 菊池修一, 米田 誠, 犬塚 貴, 溝口功一, 橋本修二, 鷺見幸彦, 寶珠山 稔, 吉田 宏, 秋田祐枝, 田中千枝子, 齋藤由扶子, 服部直樹, 小長谷正明, 久留聡：中部地区スモン患者の実態—平成20-22年度における検診結果から—：厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 スモンに関する研究班 平成20-22年度総合研究報告書：29-32(平成23年3月)

11. 報道

- 1) 犬塚 貴：神経難病の克服へ研究展開：岐阜新聞(2010年6月29日)
- 2) 犬塚 貴：認知症の理解と対応：岐阜県保険新聞(2010年9月10日)

- 3) 犬塚 貴：岐阜の難病を支える力：KNG (2011年7月号)
- 4) 犬塚 貴：神経内科(神経難病への取り組み)：岐阜県医師会報 No.713(2011年4月1日)
- 5) 犬塚 貴：家族の認知症の理解と対応に向けて：岐阜市内科会だより(2011年)

12. 自己評価

評価

メタロチオネインⅢ (MT-3) のクローニングから 10 余年、教室内外で本分子の筋萎縮性側索硬化症 (ALS) との関係を示唆する研究が積み上げられてきた。2011 年当教室において、MT-ⅢcDNA 組み込みアデノウイルスの ALS モデルマウス筋肉内投与で、生存期間を有意に延長させ、ALS 治療薬としての可能性を示したことは画期的なことであり、大きな成果である。MT の脳虚血に対する神経保護効果についても明らかにしており、MT の適応の広さを予測させるものである。研究費も文部科研基盤 (B) も含め順調に獲得できた。

ファール病 (特発性両側性大脳基底核・小脳歯状核石灰化症) の診断方法の確立と治療法の開発の展開は、保住を代表研究者とする厚労科研難治性疾患克服研究事業によるもので、急な立ち上げにも関わらず、全国的疫学調査では家系も含め症例の集積が進み、病因遺伝子の検索に向けて順調に進行している。ALS やファール病に関連して、変性疾患の病態解析や創薬に手がかりを与える iPS 細胞の、患者歯髄からの作製も共同研究として開始された。

自己免疫性神経疾患の病態機序の解明と診断・治療法の開発は、木村を代表研究者とする厚労科研こころの健康科学研究事業と文部科研による長期的な取り組みであるが、プロテオーム解析による抗神経抗体或いはヒト大脳微小血管内皮細胞に対する抗体の検索システムを確立し、いくつかの疾患特異的抗体を明らかにした。バイオマーカーとしての利用、認識抗原分子の解明と病態への関わりが検討されている。

¹³C 呼気試験法というユニークな方法を用い、神経変性疾患の自律神経系機能、特に消化管機能を調べた質の高い臨床研究である。パーキンソン病はじめその他の神経変性疾患の、疾患特異的自律神経系の障害病態を明らかにした。

IT 機器を活用した難病心のケアシステム構築の研究は多職種と共に、患者の視点に沿った情報提供、患者相互の情報交換支援を通して患者の QOL の上げるといふ試みであり進行している。

重症難病患者の地域医療体制の構築に関する研究、スモンに関する調査研究は、いずれも厚労科研によるものであるが、前者は災害時支援の調査と啓発が大きく進み、後者はスモンの風化に対する啓発アンケート調査や検診においては訪問検診を広げて対応してきた。

現状の問題点及びその対応策

メタロチオネイン、ファール病の研究を牽引してきた保住が、隣接する岐阜薬大の薬物治療学教授に転勤したが、引き続き共同研究を行っていく。¹³C 呼気試験法を駆使してきた田中ほか中堅スタッフが、地域の強い要請で学外勤務することになり、さらに学内でも増大する診療需要にも応えなくてはならず、研究のマンパワーの確保が最も大きな問題である。実習等での学生との緊密な接触とその継続、初期研修医に対して神経疾患対応スキルアップの催しを多く用意しコミュニケーションを図り、勧誘を強化していく。

今後の展望

メタロチオネイン、ファール病関連の研究については、岐阜薬科大学で発展されるが、共同研究を行っていく。MT の安全で有効なデリバリーの開発、ファール病疾患感受性遺伝子の解析や iPS 細胞による病態解析や創薬スクリーニング系の確立などが期待される。

免疫性神経疾患の病態機序解明と診断バイオマーカーの開発については、プロテオーム解析に加えプロテイン・アレー法も加えて、神経組織や血管内皮細胞をターゲットとする自己抗体をさらに検索し、認識抗原の機能解析、生体内分布、疾患モデルの開発を行っていく。

神経難病および認知症の医療・福祉体制の整備は、特に岐阜県では焦眉の的であり、専門医および関連職種の育成と共に、行政と協力しながら地域の実情を把握してしっかり取り組んでいく。

(5) 精神病理学分野

1. 研究の概要

当分野における研究は、2008年6月に第5代塩入俊樹教授が就任し、新たなスタートを迎えた。これまで二十数年間にわたり、一貫して臨床を重視し、そこに基盤を置いた研究を目指してきた。今後も当分野の伝統を生かしつつ、最新のニューロサイエンスの様々な手法を取り入れて、新たな研究を行ってゆく予定である。

臓器移植等に代表される高度先進医療が可能となった一方、価値観や生命倫理の多様化を背景としてより開かれた医療が求められている。また、高度情報化による過ストレス社会の出現、少子高齢化や過疎化、環境問題等といった諸問題に対し、医療は今まで以上に適切かつ十分な対応をすべきである。大学に籍を置く医療人の職務は、先端的生命科学に関する教育・研究に重きを置きつつも、臨床に直結した疾病の診断・治療に役立つ探索型研究を推進し、地域社会と世界の医療に貢献することである。一方、臨床講座での研究は、世界に通用する研究者を作ることだけが目的ではなく、そうした研究を通して臨床能力を研ぎ、結果的に患者様のためになるものでなければならない。従って、「まず初めに、臨床ありき」という、臨床重視の姿勢は最も重要である。当分野では、日常臨床の中に研究の閃きを感じ取れる医療人を輩出することを目標として、以下の研究を行っていく。

- 1) 精神疾患の Neuroimaging 研究 (PET, f-MRI, MRS, NIRS 等)
- 2) 精神疾患の自律神経研究 (Baroreflex, Papillary light reflex 等)
- 3) 精神科診断学に関する研究 (DSM-IV, ICD-10 等)
- 4) 精神疾患と生活習慣病に関する研究 (DM や虚血性心疾患 等)
- 5) 発達障害の疫学及び Neuroimaging 研究 (自閉性障害, Asperger 障害, ADHD 等)
- 6) 災害精神医学に関する研究
- 7) 精神疾患の遺伝子研究

2. 名簿

教授：	塩入俊樹	Toshiki Shioiri
准教授：	高岡 健	Ken Takaoka
准教授：	植木啓文	Hirofumi Ueki
臨床講師：	深尾 琢	Taku Fukao
臨床講師：	天野雄平	Yuhei Amano
臨床講師：	瀨瀬慎也	Shinya Kouketsu
臨床講師：	櫻庭 泰	Akira Sakuraba
医員：	松岡 司	Tsukasa Matsuoka
医員：	市川直樹	Naoki Ichikawa
医員：	徳丸淑江	Yoshie Tokumalu
医員：	水野峻太朗	Shuntaro Mizuno

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 塩入俊樹. 精神症状のアセスメントと対応 3 不安・強迫状態：精神科薬物ハンドブック，東京：照林社；2009年：126-138.
- 2) 高岡 健. うつ病論：浅野弘毅編，東京：批評社；2009年.
- 3) 高岡 健. 発達障害は少年事件を引き起こさない：東京：明石書店；2009年.
- 4) 高岡 健. やさしいうつ病論：東京：批評社；2009年.
- 5) 高岡 健. 発達障害と階層問題 発達障害ってなんだろう？：全国不登校新聞社編. Fonte ブックレット③，東京：NPO 法人 全国不登校新聞社；2009年：81-92.
- 6) 高岡 健. 16歳からの<こころ>学：東京：青灯社；2009年.
- 7) 高岡 健. うつ病：精神保健福祉白書編集委員会 精神保健福祉白書 2010年版，東京：中央法規出版；2009年：136.
- 8) 天野雄平. お酒と麻薬の害について：山本真由美編. 大学生の健康ナビーキャンパスライフの健康管理ー第2章 第5節，岐阜：岐阜新聞社；2009年：46-51.
- 9) 塩入俊樹. 神経科学からみた発生のメカニズムと病態：不安：下田和孝編集. 脳とこころのプライマリ・ケア 1：抑うつと不安，東京：シナジー出版；2010年：61-69.
- 10) 塩入俊樹. 脳幹における呼吸・循環制御とパニック障害：神庭重信，加藤忠史責任編集. 専門医のための精神科臨床リュミエール 16，東京：中山書店；2010年：122-124.
- 11) 塩入俊樹. 神経症性障害 ストレス関連障害(パニック障害，広場恐怖，全般性不安障害，社交不安障害，特

- 定の恐怖症, 心的外傷後ストレス障害, 適応障害): 樋口輝彦, 野村総一郎編. こころの科学増刊『こころの医学辞典』, 東京: 日本評論社; 2010年: 178-192, 208-210.
- 12) 高岡 健. 少年事件一心は裁判でどう扱われるかー: 東京: 明石書店; 2010年.
 - 13) 高岡 健. 自閉症概念の成立と消滅: 小澤 勲著 自閉症論再考, 東京: 批評社; 2010年: 111-122.
 - 14) 高岡 健, 宮台真司, 彦坂尚嘉. グローバリゼーションの中のアートはどこへ向かうのか: 彦坂尚嘉, 五十嵐太郎, 新堀 学編著. 空想皇居美術館, 東京: 朝日新聞出版; 2010年: 180-205.
 - 15) 高岡 健. アスペルガー症候群と反社会的行動: 山崎晃資編著. 自閉症スペクトラムと特別支援教育, 東京: 金剛出版; 2010年: 219-227.
 - 16) 高岡 健. 精神鑑定とは何か: 東京: 明石書店; 2010年.
 - 17) 高岡 健. うつ病: 精神保健福祉白書編集委員会編. 精神保健福祉白書 2011年版, 東京: 中央法規出版; 2010年: 146.
 - 18) 天野雄平, 塩入俊樹. RLAIにより夫婦の語らいを取り戻した1例: 村崎光邦編集. リスペリドン持続性注射剤(RLAI) 100の報告, 東京: 星和書店; 2010年: 136-137.
 - 19) 天野雄平. お酒と麻薬の害について: 山本真由美編. 大学生の健康ナビーキャンパスライフの健康管理ー改訂版 第2章 第5節, 岐阜: 岐阜新聞社; 2010年: 46-51.
 - 20) 天野雄平, 植木啓文, 塩入俊樹. SSRIで activation syndrome をきたした初老期うつ病にミルナシブランが奏功した1例: 上島国利監修. うつ病薬物治療のエクセレンスーミルナシブランの治療経験からみえてくるものー, 東京: アルタ出版; 2010年: 128-129.
 - 21) 植木啓文. 2 精神科の立場から: 森田浩之編. いきなり名医! 見わけが肝心, 不定愁訴 jmedmook09, 東京: 日本医事新報社; 2010年: 7-14.
 - 22) 植木啓文. 25 意欲低下, 森田浩之編. いきなり名医! 見わけが肝心, 不定愁訴 jmedmook09, 東京: 日本医事新報社; 2010年: 131-136.
 - 23) 植木啓文. 26 睡眠障害: 森田浩之編. いきなり名医! 見わけが肝心, 不定愁訴 jmedmook09, 東京: 日本医事新報社; 2010年: 137-141.
 - 24) 塩入俊樹. 抗うつ薬の副作用: 今日の治療指針 2011年版ー私はこう治療しているー, 東京: 医学書院; 2011年: 867-868.
 - 25) 塩入俊樹他. パニック障害: 朝日新聞 MOOK 新「名医」の最新治療 完全読本, 東京: 朝日新聞出版社; 2011年: 388-391.
 - 26) 塩入俊樹. 診断基準, P 糖蛋白: 加藤敏他編集. 現代精神医学事典, 東京: 弘文堂; 2011年: 535-536, 879.
 - 27) 塩入俊樹. Fear circuit モデル: 飛鳥井 望編. 新しい診断と治療の ABC 40 外傷後ストレス障害, 東京: 最新医学社; 2011年: 60-70.
 - 28) 高岡 健. インタビューー児童精神科医・高岡 健医師に聴く: 川村百合著. 弁護士・付添人のための少年事件実務の手引き, 東京: ぎょうせい; 2011年: 276-314.
 - 29) 芹沢俊介, 高岡 健. 「孤独」から考える秋葉原無差別殺傷事件: 東京: 批評社; 2011年.
 - 30) 高岡 健. 自殺とパラスーサイド: 長野 功編著. 巧みな体のしくみ, 東京: 三恵社; 2011年: 120-123.
 - 31) 高岡 健. 食物を拒否する, 食物に依存する: 長野 功編著. 巧みな体のしくみ, 東京: 三恵社; 2011年: 124-127.
 - 32) 高岡 健. 子どもの権利条約: 加藤 敏, 神庭重信, 中谷陽二ほか編. 現代精神医学事典, 東京: 弘文堂; 2011年: 342.
 - 33) 高岡 健. ヘルシンキ宣言: 加藤 敏, 神庭重信, 中谷陽二ほか編. 現代精神医学事典, 東京: 弘文堂; 2011年: 949.
 - 34) 高岡 健. うつ病: 精神保健福祉白書編集委員会編. 精神保健福祉白書 2012年版, 東京: 中央法規; 2011年: 148.
 - 35) 植木啓文, 塩入俊樹. 治療効果の判定: 山内俊雄, 小島卓也, 倉知正佳, 鹿島晴雄編集. 専門医をめざす人のための精神医学 第3版, 東京: 医学書院; 2011年: 269-275.
 - 36) 松岡 司, 塩入俊樹. SSRIで activation syndrome をきたした初老期うつ病にミルナシブランが奏効した1例: 樋口輝編. 実地医家のためのうつ病治療症例集, 東京: 医薬ジャーナル社; 2011年: 60-62.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

なし

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 塩入俊樹. 巻頭言「DSMについて」, 精神医学 2009年; 51巻: 208-209.
- 2) 塩入俊樹. プライマリ・ケアにおけるうつ病治療, 岐阜市医師会だより 2009年; 41巻: 12-16.
- 3) 塩入俊樹. ICD-11に向けてのアジア・日本からの提言:F4 神経症性障害, ストレス関連障害および身体表現障害, 精神科診断学 2009年; 2巻: 37-46.
- 4) 塩入俊樹. 内科医がよく遭遇するうつ病の診断と治療, 岐阜県内科医会雑誌 2009年; 23巻: 39-47.

- 5) 高岡 健. アスペルガー症候群と就労, 精神療法 2009年; 35巻: 338-343.
- 6) 高岡 健, 川村百合. 少年の裁判員裁判と精神医学の役割(Letter), 精神医学 2009年; 51巻: 814-815.
- 7) 高岡 健. 司法をめぐる問題, 児精医誌 2009年; 50巻(50周年記念号): 217-221.
- 8) 高田知二, 高岡 健, 伊藤宗親, 金岡繁裕. 外国人に対する精神鑑定の諸問題, 精神医学 2009年; 51巻: 1013-1024.
- 9) 西尾彰泰, 植木啓文. レビー小体病認知症の幻視に対してプロナンセリンが著効した 1 例, 精神医学 2009年; 51巻: 561-564.
- 10) 植木啓文. 精神疾患-肥満・糖尿病との関連は. うつ病の薬物療法は?, 肥満と糖尿病 2009年; 8巻: 55-57.
- 11) 深尾 琢, 塩入俊樹. 抗不安薬, 心療内科 2009年; 13巻: 25-33.
- 12) 天野雄平, 塩入俊樹. 精神科のくすりと精神医療 精神科のくすりとのかきあい方, こころの科学 2009年; 143巻: 40-48.
- 13) 天野雄平, 塩入俊樹. 難治性うつ病への薬物療法, 医学と薬学 2009年; 61巻: 21-26.
- 14) 天野雄平, 塩入俊樹. ライフサイクルと治るうつ病 壮年期のうつ病, こころの科学 2009年; 146巻: 47-52.
- 15) 天野雄平, 塩入俊樹. 全般性不安障害(GAD)の生物学的基盤と薬物療法, 臨床精神薬理 2009年; 12巻: 1905-1914.
- 16) 田中生雅, 塩入俊樹. 妊娠中の向精神薬療法の継続と中止-気分障害と不安障害, 精神科治療学 2009年; 24巻: 539-548.
- 17) 田中生雅, 佐渡忠洋, 磯村有希, 宮地幸雄, 臼井るり子, 田中優司, 塩入俊樹, 山本真由美, 清水克時. 大学生の健康に関する取り組みと生活環境に関する検討, CAMPUS HEALTH 2010年; 47巻: 97-102.
- 18) 江川 純, 遠藤太郎, 染矢俊幸, 下田和孝, 塩入俊樹, 山田尚登, 高橋三郎. 精神科疾患の診断をめぐる諸問題-精神科医 327 名のアンケート調査から-, 精神医学 2010年; 52巻: 891-898.
- 19) 塩入俊樹. 脳機能画像による不安障害の病態解明 Stress-induced fear circuitry disorders を中心に, 日本神経精神薬理 2010年; 30巻: 135-139.
- 20) 塩入俊樹. 社交不安障害(SAD)の神経生物学的検討-Fear-circuitry dysfunction の観点から-, 臨床精神薬理 2010年; 13巻: 711-721.
- 21) 塩入俊樹. 災害時のこころのケア 新潟県中越震災の経験を通じて, 精神神経学雑誌 2010年; 112巻: 521-529.
- 22) 塩入俊樹. 災害時のこころのケア, 四国医学雑誌 2010年; 66巻: 13-18.
- 23) 塩入俊樹. 災害時のこころのケアとは何か 新潟県中越地震の経験を中心に, 日本社会精神医学会雑誌 2010年; 19巻: 42-48.
- 24) 高岡 健. 自傷-リストカット・オーバードーズ, 小児科臨床 2010年; 73巻: 85-88.
- 25) 高岡 健. 子どもの「うつ」とその背景, 児童心理 2010年; 64巻: 689-692.
- 26) 高岡 健, 櫻庭 泰, 松岡 司. 統合失調質パーソナリティ障害, 精神科治療学 2010年; 25巻(増刊号): 224-225.
- 27) 高岡 健. 資料・クロニクル1968, 精神医療 2010年; 60巻: 34-39.
- 28) 高岡 健, 関 正樹. 自閉症スペクトラム障害のカタトニー様症状, 精神科治療学 2010年; 25巻: 1633-1637.
- 29) 井奈波良一, 堀 貴光, 堀内聖剛, 清水三矢, 広瀬万宝子, 井上真人, 植木啓文. 医学生の退学願望と睡眠時間 メンタルヘルス不調およびメランコリー親和型性格との関係, 日本職業・災害医学会誌 2010年; 58巻: 19-23.
- 30) 小川直志, 植木啓文. カフェイン依存, 日本臨床 2010年; 68巻: 1470-1474.
- 31) 植木啓文. 日本人のうつ病と外国のうつ病-日本人のうつ病患者と諸外国のうつ病患者の間には性格面と症状面における違いはあるのか-, 別冊・医学のあゆみ 最新うつ病のすべて 2010年: 47-51.
- 32) 深尾 琢, 松岡 司, 塩入俊樹. MRS, 臨床精神医学「精神科臨床評価検査法マニュアル [改訂版]」 2010年; 39巻(増刊号).
- 33) 天野雄平, 塩入俊樹. 薬剤抵抗性のため 100 回以上の修正型電気けいれん療法を施行している遅発緊張病の 1 例, 精神科 2010年; 17巻: 443-448.
- 34) 塩入俊樹. 精神疾患にみる不安障害の Comorbidity うつ病と不安障害, 不安障害研究 2011年; 3巻: 44-47.
- 35) 塩入俊樹. パニック障害の生物学的病態-Stress-induced fear circuitry disorders の概念から, Bulletin of Depression and Anxiety disorders 2011年; 8巻: 6-8.
- 36) 上島国利, 塩入俊樹, 大坪天平. パニック障害を再考する-Sertraline の国内臨床試験結果を受けて, 臨床精神薬理 2011年; 14巻: 543-552.
- 37) 塩入俊樹, 松岡 司. 強迫性障害の薬物療法, 医学のあゆみ 2011年; 236巻: 963-967.
- 38) 塩入俊樹. パニック障害の病態-Stress-induced fear circuitry disorders を中心に, 岐阜大学医学部記念会館だより 2011年; 95巻: 6-9.
- 39) 塩入俊樹. 我が国における災害時のこころのケア:その始まり, 最新精神医学 2011年; 16巻: 407-408.
- 40) 塩入俊樹, 松岡 司. 精神疾患の病態と診断・治療:パニック障害, 医学と薬学 2011年; 66巻: 589-601.
- 41) 桑原秀樹, 塩入俊樹. 「神経症性障害」の治療ガイドライン:特定の恐怖症, 精神科治療学 2011年; 26巻(増刊号): 47-55.
- 42) 塩入俊樹, 桑原秀樹, 川村 剛. 地震とメンタルヘルス-うつ病を含めて:新潟県中越地震を踏まえて-,

Depression Frontier 2011年；9巻：15-26.

- 43) 高岡 健, 木村一優. 自閉症を有する者の訴訟能力, 季刊 刑事弁護 2011年；65巻：175-177.
- 44) 高岡 健. ひきこもりという概念がどうして必要とされたのか, 臨床心理学 2011年；11巻：336-340.
- 45) 高岡 健. パーソナリティ・パーソナリティ障害・発達障害・病前性格の位置関係, 現代のエスプリ 2011年；527巻：73-78.
- 46) 関 正樹, 高岡 健. 自閉症スペクトラム障害と強迫性緩慢およびカタトニー様増悪, 精神科 2011年；19巻：292-295.
- 47) 井奈波良一, 井上真人, 植木啓文. 男子医学生の退学願望とメランコリー親和型性格, メンタルヘルス不調および睡眠時間との関係, 日本職業・災害医学会誌 2011年；59巻：49-52.

原著 (欧文)

- 1) Nishio A, Akazawa K, Shibuya F, Abe R, Nushida H, Ueno Y, Nishimura A, Shioiri T. Influence on the suicide rate two years after a devastating disaster: a report from the 1995 Great Hanshin-Awaji Earthquake. Psychiatry Clinical Neurosci. 2009;63:247-250. IF 1.559
- 2) Endo T, Shioiri T, Someya T. Posttraumatic symptoms among the children and adolescents two years after the 2004 Niigata-Chuetsu earthquake in Japan. Psychiatry Clin Neurosci. 2009;63:253. IF 1.559

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：前田 潤, 研究分担者：塩入俊樹；科学研究費補助金基盤研究(A)；災害時における効果的・心理的支援のための連携協力に関する研究；平成 19-21 年度；1,300 千円(800：500 千円)
- 2) 研究代表者：高岡 健；科学研究費補助金基盤研究(C)；発達障害児・者の精神・心理鑑定に関する研究；平成 20-22 年度；2,000 千円(700：500：800 千円)
- 3) 研究代表者：天野雄平；科学研究費補助金若手研究(B)；3T-MRS を用いたアルコール依存症患者の GABA, グルタミン酸異常に関する研究；平成 21-22 年度；3,300 千円(2,000：1,300 千円)

2) 受託研究

- 1) 塩入俊樹；映像刺激を用いた心理的負荷測定システムの開発に関するフイージビリティスタディ—映像負荷の生体影響に基づく分類及び計測項目の探索的選択—；平成 21 年度；1,000 千円：(社)電子情報技術産業協会

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

塩入俊樹：

- 1) 日本精神神経学会評議員(～現在)
- 2) 日本生物学的精神医学会評議員(～現在)
- 3) 日本精神科診断学会評議員(～現在)
- 4) 日本総合病院精神医学会評議員(～現在)
- 5) 日本統合失調症学会評議員(～現在)
- 6) 日本不安障害学会評議員(～現在)

高岡 健：

- 1) 日本精神神経学会評議員(～現在)
- 2) 日本精神神経学会法倫理関連委員会委員(～現在)
- 3) 日本児童青年精神医学会評議員・理事(～現在)
- 4) 日本児童青年精神医学会子どもの人権と法に関する委員会担当理事(～現在)
- 5) 日本児童青年精神医学会顕彰委員会担当理事(～現在)
- 6) 日本児童青年精神医学会法人化・専門医制度に関する委員会担当理事(～現在)
- 7) 日本総合病院精神医学会評議員(～現在)

- 8) 日本総合病院精神医学会医療問題委員会委員(～現在)
- 9) 日本精神病理学会評議員(～現在)

植木啓文：

- 1) 日本総合病院精神医学会評議員(～現在)
- 2) 日本精神科診断学会評議員(～現在)
- 3) 心理教育・家族教室ネットワーク運営委員(～現在)

深尾 琢：

- 1) 東海精神神経学会運営委員(～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

塩入俊樹：

- 1) 「最新精神医学」；編集同人(～現在)
- 2) 「分子精神医学」；編集同人(～現在)
- 3) 「精神科診断学」；編集委員長(～現在)
- 4) Editorial Board of the Scientific World JOURNAL(～現在)

高岡 健：

- 1) 精神医療；編集委員(～現在)

植木啓文：

- 1) 精神療法；編集同人(～現在)

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

塩入俊樹：

- 1) 日本精神神経学会東海地方会(平成 21 年 2 月，愛知，特別講演「パニック障害の病態と治療」演者)
- 2) 第 105 回日本精神神経学会学術総会(平成 21 年 5 月，神戸，教育講演「災害時のこころのケア：新潟県中越地震の経験を通して」演者)
- 3) 第 26 回岐阜県病院協会医学会(平成 21 年 10 月，高山，特別講演「身体科に必要な精神医学の知識」演者)
- 4) 第 29 回日本社会精神医学会(平成 22 年 2 月，松江，教育講演「災害時のこころのケアとは何か：新潟県中越地震の経験を中心に」演者)
- 5) 第 106 回日本精神神経学会学術総会(平成 22 年 5 月，広島，教育講演「不安障害の病態について Stress-induced fear circuitry disorders を中心に」演者)

高岡 健：

- 1) 第 28 回日本社会精神医学会(平成 21 年 2 月，栃木，「精神科医療の地殻変動と精神病理学的な諸問題」シンポジウム司会)
- 2) 岐阜県自閉症協会 40 周年記念式典・シンポジウム(平成 21 年 10 月，岐阜，シンポジウム「総合支援を考えるー自閉症児者の生活と医療ー」演者)
- 3) 第 3 回非行臨床学会(平成 22 年 7 月，千葉「なぜ非行は 15-16 歳で多発するのか」ラウンドテーブルディスカッション話題提供者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

塩入俊樹：

- 1) 岐阜県精神保健福祉協会副会長(～現在)

- 2) 岐阜県認知症政策推進委員会委員(～現在)
- 3) 岐阜県自殺予防推進委員会委員(～現在)

高岡 健：

- 1) 岐阜県精神医療審査会委員(～現在)
- 2) 厚生労働省職員メンタルヘルス相談医(～現在)
- 3) 岐阜県後期高齢者医療障害認定審査医(～現在)
- 4) 岐阜県国民年金障害認定審査医(～現在)
- 5) 岐阜県障害者職業センター医療情報助言者(～現在)
- 6) 岐阜県知的障害者育成室医学的専門相談員(～現在)
- 7) 岐阜県希望が丘学園嘱託医(～現在)

植木啓文：

- 1) 岐阜市生活保護法医療扶助審議会委員(～現在)
- 2) 岐阜県精神保健福祉協会医療専門委員会委員(～現在)
- 3) 岐阜労働局労災委員(～現在)

深尾 琢：

- 1) 岐阜県希望が丘学園嘱託医(～現在)
- 2) 岐阜労働局労災委員(～現在)

10. 報告書

- 1) 塩入俊樹：不安と恐怖のメカニズム：平成 21 年度(社)電子情報技術産業協会研究委託費 映像刺激を用いた心理的負荷測定システムの開発に関するフィージビリティスタディ報告書(要旨)：9-10(平成 22 年)
- 2) 塩入俊樹：不安と恐怖のメカニズム：平成 21 年度(社)電子情報技術産業協会研究委託費 映像刺激を用いた心理的負荷測定システムの開発に関するフィージビリティスタディ報告書(要旨)：19-24(平成 22 年)
- 3) 天野雄平：最近のストレス疾患の動向：平成 21 年度(財)機械システム振興協会研究委託費 映像刺激を用いた心理的負荷測定システムの開発に関するフィージビリティスタディ報告書(要旨)：16-18(平成 22 年)
- 4) 塩入俊樹：心理的負荷測定システムの必要性和応用一本 F/S の社会的役割と今後の展望一：平成 22 年度(社)電子情報技術産業協会研究委託費 映像刺激を用いた心理的負荷測定システムの開発に関するフィージビリティスタディ報告書(要旨)：43-45(平成 23 年)
- 5) 塩入俊樹：心理的負荷測定システムの必要性和応用一本 F/S の社会的役割と今後の展望一：平成 22 年度(社)電子情報技術産業協会研究委託費 映像刺激を用いた心理的負荷測定システムの開発に関するフィージビリティスタディ報告書：122-130(平成 23 年)
- 6) 植木啓文, 岩田弘敏, 井上真人, 黒川淳一, 小山田隆明, 井奈波良一：モラルハラスメントによる健康障害の一次予防のための調査研究：平成 22 年度労働者健康福祉機構・産業保健調査研究報告書(平成 23 年)

11. 報道

- 1) 塩入俊樹：不安や恐怖のメカニズムを探る：岐阜新聞(2009 年 3 月 17 日)
- 2) 高岡 健：精神鑑定で少年の心理理解明：岐阜新聞(2009 年 10 月 20 日)
- 3) 塩入俊樹：日常診療におけるうつ病：岐阜保険医新聞(2009 年 11 月 10 日)
- 4) 高岡 健：理解でサポート 1～5：山陰中央新報(2010 年 2 月 17 日・18 日・19 日・20 日・21 日朝刊)
- 5) 塩入俊樹：教えてホームドクター:正常なうつ状態：岐阜新聞(2010 年 8 月 16 日)
- 6) 塩入俊樹：教えてホームドクター:病的なうつ状態のいろいろ：岐阜新聞(2010 年 10 月 16 日)
- 7) 塩入俊樹：教えてホームドクター:うつ病の治療と家族のサポート：岐阜新聞(2010 年 12 月 27 日)
- 8) 塩入俊樹：精神科医が考えていること『うつ状態』：日本精神神経学会ホームページ(2011 年)
- 9) 塩入俊樹：社交不安障害：うつ病の“入り口”で注目：Japan Medicine MONTHLY(No.015 4 月号, p.5, 2011 年)
- 10) 塩入俊樹：パニック障害：毎日新聞ニュースサイト内, 医療ポータルサイト「ドクターズ・ファイル」

(2011年)

- 11) 塩入俊樹：うつ病の現状，問題点，うつ病リワークについて：日経BPWEBサイト「メンタルヘルスとリワーク：リワーク医療機関に聞く」(2011年)
- 12) 塩入俊樹：パニック障害 新名医の最新治療：週刊朝日 増刊号(p.66-69, 2011年)
- 13) 塩入俊樹：被災者支援に当たる救助者，支援者が知っておくべき「心のケア」：日経BP Good Doctor NET「被災者の方々へのお役立ち情報 掲示板」(2011年)
- 14) 塩入俊樹：教えてホームドクター：誰もがなる可能性 産後，人生の転機に注意：続・うつ病講座：岐阜新聞 2011年2月28日)
- 15) 天野雄平：始まりに季節に～病とともに歩む人に向けて：岐阜大学医学部附属病院広報誌「鵜舟」(2011年4月1日)
- 16) 塩入俊樹：教えてホームドクター：心の病休者増える 現実逃避の若者が多い うつ病：岐阜新聞(2011年5月2日)
- 17) 塩入俊樹他：パニック障害治療の最前線：専門医の診断を受け適切な治療を：日本経済新聞(2011年5月22日)
- 18) 塩入俊樹他：脳とこころのサイエンス：うつ，脳に認められる「機能」の不調：日本経済新聞(2011年6月17日)
- 19) 天野雄平：～こんな時だからこそ～：岐阜大学医学部附属病院広報誌「鵜舟」(2011年7月1日)
- 20) 塩入俊樹：教えてホームドクター：中越地震から支援「阪神」の反省から組織化：災害時のこころのケア活動：岐阜新聞(2011年7月4日)
- 21) 深尾 琢：こころのケア，石巻で活動. 震災を知る：岐阜新聞(2011年6月16日)
- 22) 深尾 琢：被災体験 聞き出すべきか. 震災を知る：岐阜新聞(2011年6月17日)
- 23) 深尾 琢：支援者の心や体にケアを. 震災を知る：岐阜新聞(2011年6月18日)
- 24) 塩入俊樹：教えてホームドクター：状況見極めケアを 必要に応じ専門家に相談 被災者の心の変化：岐阜新聞(2011年9月19日)
- 25) 塩入俊樹：教えてホームドクター：不安，恐怖感が表出 一緒に遊べる環境，構築を 災害時の子どもの変化：岐阜新聞(2011年11月21日)

12. 自己評価

評価

上記のように，様々な研究成果が上がってきている。それらは，日常臨床に直結するものであり，地域での精神医療の展開においても大きな刺激となっている。また，上記の報告の他に，積極的に司法精神鑑定を行っており，そういった点でも社会的貢献を果たしている。

現状の問題点及びその対応策

大学も人員不足のため，各スタッフが臨床，教育，研究と走り回っている。これらに関しては，抜本的な解決法を検討していくことが課題である。

今後の展望

現在の医師臨床研修制度では，精神科研修は必修となっている。そこで望まれているのは，プライマリ・ケアを重視した通常の精神医療であり，この領域に焦点を据え研究を進めている大学は残念ながら少ない。それゆえ，当分野の存在意義は，国民のニーズといった点からも，今後ますます高まっていくものと期待できる。

(6) 脳神経外科学分野

1. 研究の概要

脳虚血に関する研究として、マウス脳虚血モデルを用いてフリーラジカルスカベンジャーであるエダラボンおよび抗血小板薬であるシロスタゾールと常圧高酸素療法の併用療法の急性期脳虚血保護作用の評価を行い、両薬剤とも高酸素療法との併用で有意な脳保護作用を示すことが明らかとなった（岐阜薬科大学薬効解析学講座との共同研究）。また同様にマウス脳虚血モデルを用いて脳虚血急性期の脂肪由来幹細胞の静脈投与における神経保護作用を検討した。脂肪由来幹細胞の静脈内投与群ではコントロール群ならびに骨髓由来幹細胞投与群と比較して有意な機能予後の改善がみられることが明らかとなった（細胞情報学講座との共同研究）。

動脈硬化性疾患の治療と予防に関する研究として、血小板から放出され動脈硬化との関連が注目されている sCD40L 等の炎症性サイトカインの放出機序と各種抗血小板薬の効果に関して解析を行なった結果、抗炎症効果を有するアスピリンは炎症性サイトカインの放出に対して著明な抑制効果を有するが、同じ抗血小板剤でもチエノピリジン系薬剤は抑制効果をもたないことが明らかとなった（薬理病態学講座との共同研究）。

悪性グリオーマに関する基礎研究として、ヒトグリオーマ標本を用いて悪性腫瘍内マクロファージと腫瘍の産生するケモカインの関係を免疫組織学的に評価した結果、腫瘍内へのマクロファージの遊走に関与するケモカインとして、これまでに指摘されてきた MCP-1 以外に MCP-3 も関与している可能性が見いだされた（免疫病理学講座との共同研究）。

ヒトグリオーマにおける臨床研究として、放射線治療後にみられる放射線壊死とグリオーマ再発とを PET 画像を用いて鑑別する方法を検討した。CHO(choline)-PET によって求められる血流成分を MET(methionine)-PET 画像から差し引いた変換画像により放射線壊死と腫瘍再発を視覚的に明瞭に識別できる可能性が示された（中部療護センターにおける研究）。

2. 名簿

教授：	岩間 亨	Toru Iwama
准教授：	吉村紳一	Shin-ichi Yoshimura
准教授：	矢野大仁	Hirohito Yano
講師：	大江直行	Naoyuki Ohe
講師：	中山則之	Noriyuki Nakayama
助教：	副田明男	Akio Soeda
助教：	石黒光紀	Mitsunori Ishiguro
助教：	榎本由貴子	Yukiko Enomoto
医員：	江頭裕介	Yusuke Egashira
医員：	田中嘉隆	Yoshitaka Tanaka
医員：	澤田重信	Shigenobu Sawada
医員：	野村悠一	Yuichi Nomura
医員：	植松幸大	Kodai Uematsu
医員：	宮居雅文	Masafumi Miyai

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 岩間 亨. 脳内血腫除去術-被殻出血：新井 一編. NS NOW No.8 脳神経外科基本手術，東京：メジカルビュー社；2009年：101-110.
- 2) 岩間 亨. 脳動静脈奇形：「小児内科」「小児外科」編集委員会共編. VI.神経疾患-20 小児疾患診療のための病態生理 第4版2号(小児内科 41増刊号)，東京：東京医学社；2009年：684-687.
- 3) 吉村紳一. 脳血管攣縮：江面正幸，佐伯直勝，伊達 勲，宝金清博，高安正和編. 脳神経外科エキスパート血管内治療，東京：中外医学社；2009年：174-180.
- 4) 吉村紳一. 内科的治療，CEA，CAS のエビデンス：伊苺裕二，坂井信幸編. エキスパートから学ぶ CAS 実践マニュアル，東京：南江堂；2009年：13-17.
- 5) 吉村紳一. ガイディングシステムの誘導留置法：伊苺裕二，坂井信幸編. エキスパートから学ぶ CAS 実践マニュアル，東京：南江堂；2009年：81-85.
- 6) 大江直行，矢野大仁，中山則之，吉村紳一，岩間 亨. 側脳室体部腫瘍に対する手術アプローチの検討-当施設における最近の治療成績-：河本圭司編. 脳腫瘍の外科，大阪：メディカ出版；2009年：216-221.
- 7) 山田清文，吉村紳一，岩間 亨. 内頸動脈狭窄に対する頸動脈ステントの適応は？：岡本幸市，棚橋紀夫，水

- 澤英洋編. 2009—2010EBM 神経疾患の治療, 東京: 中外医学社; 2009年: 98—101.
- 8) 高木俊範, 吉村紳一. クモ膜下出血の治療: 棚橋紀夫編. からだの科学 260 脳卒中のすべて, 東京: 日本評論社; 2009年: 100—103.
 - 9) 岩間 亨. 慢性硬膜下血腫: 金澤一郎, 永井良三編. 今日の診断指針, 東京: 医学書院; 2010年: 558—560.
 - 10) 岩間 亨. 頭痛: 橋本信夫編. ナースのための脳神経外科, 大阪: メディカ出版; 2010年: 107—114.
 - 11) 吉村紳一. 脳血管攣縮: 滝 和郎編. 脳動脈瘤コイル塞栓術ハンドブック, 東京: 診断と治療社; 2010年: 136—142.
 - 12) 吉村紳一. 手術手技の適応と禁忌: 根來 眞監修. 中原一郎, 入江恵子, 吉村紳一編. 開頭手術と血管内治療の境界線 脳動脈瘤血管内治療のすべて 基本から最新治療まで, 東京: メジカルビュー社; 2010年: 52—57.
 - 13) 吉村紳一. 応用手技を覚える: 根來 眞監修. 中原一郎, 入江恵子, 吉村紳一編. 開頭手術と血管内治療の境界線 脳動脈瘤血管内治療のすべて 基本から最新治療まで, 東京: メジカルビュー社; 2010年: 138—147.
 - 14) 吉村紳一. 大型・巨大脳動脈瘤に対する治療戦略. 応用手技を覚える: 根來 眞監修. 中原一郎, 入江恵子, 吉村紳一編. 開頭手術と血管内治療の境界線 脳動脈瘤血管内治療のすべて 基本から最新治療まで, 東京: メジカルビュー社; 2010年: 171—177.
 - 15) 吉村紳一. 未破裂脳動脈瘤の治療法: 開頭と IVR をどう使い分けるか?: 宮本 享, 新井 一, 鈴木倫保, 渋井壮一郎, 中瀬裕之編. EBM 脳神経外科疾患の治療 2011—2012, 東京: 中外医学社; 2010年: 46—49.
 - 16) 中山則之, 矢野大仁, 野村悠一, 大江直行, 岩間 亨. 顔面けいれんで発症した後頭蓋窩類上皮腫の1例: 原岡 襄編. 脳腫瘍の外科—Science, Art and Technology—, 東京: 編集室なるにあ; 2010年: 251—256.
 - 17) 石黒光紀, 吉村紳一. 放射線技師との連携プレー: 根來 眞監修. 中原一郎, 入江恵子, 吉村紳一編. 開頭手術と血管内治療の境界線 脳動脈瘤血管内治療のすべて 基本から最新治療まで, 東京: メジカルビュー社; 2010年: 80—86.
 - 18) 榎本由貴子. 知っておくべき薬剤の基礎知識: 根來 眞監修. 中原一郎, 入江恵子, 吉村紳一編. 開頭手術と血管内治療の境界線 脳動脈瘤血管内治療のすべて 基本から最新治療まで, 東京: メジカルビュー社; 2010年: 117—124.
 - 19) 江頭裕介. 基本手技を覚える: 根來 眞監修. 中原一郎, 入江恵子, 吉村紳一編. 開頭手術と血管内治療の境界線 脳動脈瘤血管内治療のすべて 基本から最新治療まで, 東京: メジカルビュー社; 2010年: 126—137.
 - 20) 江頭裕介. 破裂脳動脈瘤に対する治療戦略: 10 mm以下について: 根來 眞監修. 中原一郎, 入江恵子, 吉村紳一編. 開頭手術と血管内治療の境界線 脳動脈瘤血管内治療のすべて 基本から最新治療まで, 東京: メジカルビュー社; 2010年: 150—158.
 - 21) 田中嘉隆, 吉村紳一. 周術期管理: 根來 眞監修. 中原一郎, 入江恵子, 吉村紳一編. 開頭手術と血管内治療の境界線 脳動脈瘤血管内治療のすべて 基本から最新治療まで, 東京: メジカルビュー社; 2010年: 58—65.
 - 22) 山田清文, 吉村紳一. 困難な症例, 工夫を要した症例 5, 後交通動脈経路によるバルーンアシストを用いた脳底動脈瘤内塞栓術: 滝 和郎編. 脳動脈瘤コイル塞栓術ハンドブック, 東京: 診断と治療社; 2010年: 180—182.
 - 23) 山田清文, 吉村紳一. 解離性脳動脈瘤: 根來 眞監修. 中原一郎, 入江恵子, 吉村紳一編. 開頭手術と血管内治療の境界線 脳動脈瘤血管内治療のすべて 基本から最新治療まで, 東京: メジカルビュー社; 2010年: 178—183.
 - 24) 山田清文. ガイドラインの解説: 根來 眞監修. 中原一郎, 入江恵子, 吉村紳一編. 開頭手術と血管内治療の境界線 脳動脈瘤血管内治療のすべて 基本から最新治療まで, 東京: メジカルビュー社; 2010年: 302—307.
 - 25) 岩間 亨. 日本脳卒中学会専門医試験認定試験委員会編. 脳卒中専門医試験 問題・解説集, 東京: 中山書店; 2011年.
 - 26) 岩間 亨. 第三脳室腫瘍 Trans-lamina terminalis approach: 富永悌二編. ビジュアル脳神経外科 Anatomy&Surgical Approach 4 脳室・松果体, 東京: メジカルビュー社; 2011年: 44—49.
 - 27) 岩間 亨, 矢野大仁, 中山則之, 大江直行, 吉村紳一. Posterior interhemispheric approach(occipital transtentorial approach: OTA): 微小神経外科解剖 脳外誌 20(suppl 2), 東京: 三輪書店; 2011年: 201—206.
 - 28) 岩間 亨. 脳室内へのアプローチ: 河本圭司, 本郷一博, 栗栖 薫編. イラストレイテッド脳腫瘍外科学, 東京: 医学書院; 2011年: 84—87.
 - 29) 吉村紳一. rt-PA 静注療法における適応外症例・無効例の診断と治療: 坂井信幸, 瓢子敏夫, 松丸祐司, 宮地 茂, 吉村紳一編. 脳血管内治療の進歩 2011, 東京: 診断と治療社; 2011年: 77—85.
 - 30) 坂井信幸(司会), 瓢子敏夫, 松丸祐司, 宮地 茂, 吉村紳一(コメンテーター). 急性期再開通療法の今後: 坂井信幸, 瓢子敏夫, 松丸祐司, 宮地 茂, 吉村紳一編. 脳血管内治療の進歩 2011, 東京: 診断と治療社; 2011年: 116—123.
 - 31) 榎本由貴子. 抗血小板療法マスター講座: 坂井信幸, 瓢子敏夫, 松丸祐司, 宮地 茂, 吉村紳一編. 脳血管内治療の進歩 2011, 東京: 診断と治療社; 2011年: 124—129.
 - 32) 江頭裕介, 吉村紳一. 動脈解剖 椎骨動脈系, 後頭咽頭動脈系, 脊髄: 滝 和郎編. 硬膜動脈静脈塞栓術ハンドブック, 東京: 診断と治療社; 2011年: 43—51.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 岩間 亨. 遠位部前大脳動脈瘤のクリッピング術, 脳神経外科速報 2009年; 19巻: 148-153.
- 2) 岩間 亨. 小脳血管芽細胞腫の摘出術, 脳神経外科速報 2009年; 19巻: 634-640.
- 3) 副田明男, 國貞隆弘, 岩間 亨. 幹細胞の光と影-iPS細胞・癌幹細胞が脳腫瘍研究を変える-, 脳神経外科速報 2009年; 19巻: 1046-1053.
- 4) 山田清文, 吉村紳一. 血管内治療のフロントライン-脳血管内治療を支える最新の薬物療法-, 分子脳血管病 2009年; 8巻: 59-65.
- 5) 辻本真範, 吉村紳一, 岩間 亨. ステンットの適応-治療成績-. 脳と循環-特集 無症候性頸動脈狭窄症- 2009年; 1巻: 153-156.
- 6) 篠田 淳, 浅野好孝, 矢野大仁. グリオーマ診療における ^{11}C -methionine PET の有用性-, Current Organ Topics: Central Nervous System Tumor -IV 2010年; 37巻: 1027-1033.
- 7) 山田清文, 吉村紳一, 岩間 亨. 頸動脈狭窄症におけるプラーク診断 専門医に求められる最新の知識, 脳神経外科速報 2010年; 20巻: 1044-1049.
- 8) 山田清文, 吉村紳一, 岩間 亨. アトルバスタチンは頸動脈プラークを安定化させる, 脳と循環 2011年; 16巻: 73-78.

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 岩間 亨, 吉村紳一, 矢野大仁, 大江直行, 榎本由貴子, 山田清文, 高木俊則. 脳動静脈奇形摘出術の基本戦略, 脳卒中の外科 2009年; 37巻: 390-394.
- 2) 國枝琢也, 内山良一, 原 武史, 藤田広志, 加藤博基, 浅野隆彦, 兼松雅之, 星 博昭, 岩間 亨, 紀ノ定保臣, 横山和俊, 篠田 淳. 脳MR画像におけるラクナ梗塞と血管周囲腔拡大の鑑別法, 医用画像情報学会雑誌 2009年; 26巻: 59-63.
- 3) 吉村紳一. 頸動脈狭窄症治療-最新情報-, Gifu journal of radiological technologists 2009年; 72巻: 41-43.
- 4) 岩瀬正顕, 島 克司, 奥寺 敬, 加藤庸子, 安心院康彦, 井水秀栄, 鹿野 恒, 亀山元信, 末廣栄一, 中村丈洋, 名取良弘, 平山晃康, 本多 満, 松前光紀, 吉村紳一, 佐野公俊, 河本圭司. 脳MR画像におけるラクナ梗塞と血管周囲腔拡大の鑑別法, 医用画像情報学会雑誌 2009年; 26巻: 59-63.
- 5) 矢野大仁, 大江直行, 榎本由貴子, 磯貝光治, 廣瀬善信, 坂田佳子, 原 明, 岩間 亨. 1歳女児 脈絡叢乳頭癌の1例, 藤田学園医学会誌 2009年; 33巻: 143-148.
- 6) 矢野大仁, 大江直行, 榎本由貴子, 岩間 亨, 松永研吾, 廣瀬善信. Rhabdoid change を伴った atypical meningioma の1例, 藤田学園医学会誌 2009年; 33巻: 149-154.
- 7) 大宝和博, 林 真也, 中山則之, 大江直行, 矢野大仁, 水田啓介, 岩間 亨, 星 博昭. Micro-multileaf collimator を用いた dynamic conformal arc 定位照射における Paddick-Lippitz gradient index による標的外線量減衰の急峻度評価, 定位放射線治療 2009年; 13巻: 1-9.
- 8) 山田実貴人, 山田法顕, 豊田 泉, 吉村紳一, 鈴木明文, 坂本哲也, 岩間 亨, 奥寺 敬, 小倉真治. off-the-job training としての脳卒中初期診療(ISLS)コース開催の経験, 脳卒中 2009年; 31巻: 1-9.
- 9) 中山則之, 奥村 歩, 篠田 淳, 岩間 亨. 意識障害診断における機能画像の有用性について-慢性期び慢性脳損傷患者での検討-, 臨床神経生理学 2009年; 37巻: 249.
- 10) 中山則之, 篠田 淳, 矢野大仁, 加藤貴之, 三輪和弘, 大江直行, 岩間 亨. Glioma のPET解析-Astrocytic tumors と Oligodendrocytic tumors の鑑別について-, CI研究 2009年; 31巻: 83-90.
- 11) 塩川芳昭, 栗田浩樹, 藤井清孝, 集計参加施設. 急性期破裂脳動脈瘤の治療選択の現状(第一報)-2005年前向き集計-, 脳卒中の外科 2009年; 37巻: 1-6.
- 12) 岩間 亨. 手術用顕微鏡の構造と特性-脳神経外科医に必要な知識-, 脳神経外科ジャーナル 2010年; 19巻: 504-509.
- 13) 岩間 亨, 大江直行, 中山則之, 矢野大仁, 吉村紳一. 頭蓋咽頭腫の経頭蓋アプローチ, 脳神経外科ジャーナル 2010年; 19巻: 681-688.
- 14) 岩間 亨, 矢野大仁, 中山則之, 大江直行, 吉村紳一. Posterior interhemispheric approach(occipital transtentorial approach: OTA), 脳神経外科ジャーナル 2010年; 19巻: 817-822.
- 15) 浅野龍紀, 内山良一, 浅野隆彦, 加藤博基, 原 武史, 周 向栄, 岩間 亨, 星 博昭, 紀ノ定保臣, 藤田広志. MRA画像における脳動脈領域の抽出法-大規模データベースを用いた評価-, 医用画像情報学会雑誌 2010年; 27巻: 55-60.
- 16) 吉村紳一. 主幹動脈急性閉塞症治療の最新動向, 脳神経外科速報 2010年; 20巻: 682-686.
- 17) 山田法顕, 中野志保, 豊田 泉, 吉村紳一, 岩間 亨, 古井辰郎, 小倉真治. 妊娠39週に脳梗塞を発症し血栓溶解療法を行った1例, 救急医会誌 2010年; 21巻: 191-197.
- 18) 矢野大仁, 梅村 淳, 八十川雄図, 林 祐一, 中山則之, 大江直行, 野村悠一, 保住 功, 犬塚 貴, 岩間 亨. GPI-DBS が奏功したハンチントン病の1例, 機能的脳神経外科 2010年; 49巻: 120-124.
- 19) 澤田元史, 八十川雄図, 岩間 亨. 未破裂脳動脈瘤手術のビットホール-動脈硬化合併例での問題点と手

- 術対策一, 脳卒中の外科 2010年; 38巻: 348-352.
- 20) 三輪和弘, 篠田 淳, 松尾政之, 矢野大仁. 悪性神経腫瘍に対する低分割大量放射線治療, 日本臨牀 2010年; 68巻: 396-401.
- 21) 坂井信幸, 植田敏浩, 早川幹人, 長畑守雄, 大田慎三, 中原一郎, 木村和美, 吉村紳一, 江面正幸, 山崎信吾, 松本康史, 西野和彦, 豊田真吾, 山崎弘幸, 恩田敏之, 山上 宏, 今村博敏. MERCI リトリーバーを用いた急性脳動脈再開通療法—我が国における初期周術期成績—, JNET 2011年; 5巻: 23-31.
- 22) 大江直行, 野中裕康, 船戸道徳, 小関道夫, 加藤久和, 矢野大仁, 吉村紳一, 高見 剛, 岩間 亨. 後頭部皮下に発生した限局性 Ewing sarcoma/PNET の1例, 小児の脳神経 2011年; 36巻: 26-30.
- 23) 石黒光紀, 原 英彰. 脳梗塞及び脳出血に対する抗血小板剤シロスタゾールの保護作用, 薬学雑誌 2011年; 131巻: 513-521.
- 24) 江頭裕介, 吉村紳一. 動脈とくも膜の位置, ブレインナーシング 2011年; 27巻: 662-663.
- 25) 江頭裕介, 吉村紳一. ウィリス動脈輪と脳動脈瘤の好発部位, ブレインナーシング 2011年; 27巻: 664-665.
- 26) 田中嘉隆, 吉村紳一, 江頭裕介, 山田清文, 榎本由貴子, 岩間 亨. 脳底動脈急性閉塞症に対する積極的血管内再開通療法, 脳外誌 2011年; 20巻: 678-685.

原著 (欧文)

- 1) Yoshimura S, Kitajima H, Enomoto Y, Yamada K, Iwama T. Staged angioplasty for carotid artery stenosis to prevent postoperative hyperperfusion. *Neurosurgery*. 2009;64:122-128. IF 3.298
- 2) Yano H, Ohe N, Shinoda J, Yoshimura S, Iwama T. Immunohistochemical study concerning the origin of neurocytoma— A case report. *Pathol Oncol Res*. 2009;15:301-305. IF 1.483
- 3) Yano H, Ohe N, Nakayama N, Shinoda J, Iwama T. Clinicopathological features from long-term observation of a papillary tumor of the pineal region(PTPR): a case report. *Brain Tumor Pathol*. 2009;26:83-88. IF 1.129
- 4) Yamakawa H, Yoshimura S, Iwama T. Anterior spinal artery as a collateral channel in patients with acute bilateral vertebral artery occlusions—Two case reports—. *Neurol Med Chir (Tokyo)*. 2009;49:354-358. IF 0.677
- 5) Kato M, Ikegame Y, Toyoda I, Ogura S, Kitajima H, Yoshimura S, Iwama T. Hemispheric laminar necrosis as a complication of traumatic carotid-cavernous sinus fistula—case report—. *Neurol Med Chir(Tokyo)*. 2009;49:26-29. IF 0.677
- 6) Soeda A, Park M, Lee D, Mintz A, Androutsellis-Theokis A, McKay RD, Engh J, Iwama T, Kunisada T, Kassam AB, Pollack IF, Park DM. Hypoxia promotes expansion of the CD133-positive glioma stem cells through activation of HIF-1alpha. *Oncogene*. 2009;28:3949-3959. IF 7.414
- 7) Nonaka Y, Koumura K, Hyakkoku K, Shimazawa M, Yoshimura S, Iwama T, Hara H. Combination treatment with normobaric hyperoxia and cilostazol protects mice against focal cerebral ischemia-induced neuronal damage better than each treatment alone. *J Pharmacol Exp Ther*. 2009;330:13-22. IF 4.017
- 8) Nonaka Y, Tsuruma K, Shimazawa M, Yoshimura S, Iwama T, Hara H. Cilostazol protects against hemorrhagic transformation in mice transient focal cerebral ischemia-induced brain damage. *Neurosci Lett*. 2009;452:156-161. IF 2.055
- 9) Yamashita K, Nakashima S, You F, Hayashi S, Iwama T. Overexpression of immediate early gene X-1 (IEX-1) enhances γ -radiation-induced apoptosis of human glioma cell line, U87-MG. *Neuropathology*. 2009;29:20-24. IF 1.605
- 10) Oka N, Soeda A, Noda S, Iwama T. Brain tumor stem cells from an adenoid glioblastoma multiforme. *Neurol Med Chir (Tokyo)*. 2009;49:146-151. IF 0.677
- 11) Enomoto Y, Adachi S, Mastushima-Nshiwaki R, Niwa M, Tokuda H, Akamatsu S, Doi T, Kato H, Yoshimura S, Ogura S, Iwama T, Kozawa O. α B-crystallin extracellularly suppresses ADP-induced granule secretion from human platelets. *FEBS Lett*. 2009;583:2464-2468. IF 3.601
- 12) Doi T, Adachi S, Takai S, Matsushima-Nishiwaki R, Kato H, Enomoto Y, Minamitani C, Otsuka T, Tokuda H, Akamatsu S, Iwama T, Kozawa O, Ogura S. Antithrombin III suppresses ADP-induced platelet granule secretion: inhibition of HSP27 phosphorylation. *Arch Biochem Biophys*. 2009;489:62-67. IF 3.022
- 13) Hanai Y, Adachi S, Yasuda I, Takai S, Matsushima-Nishiwaki R, Kato H, Enomoto Y, Akamatsu S, Sakakibara S, Ogura S, Iwama T, Kozawa O, Tokuda H. Collagen-induced p38 MAP kinase activation is a biomarker of platelet hyper-aggregation in patients with diabetes mellitus. *Life Sci*. 2009;85:386-394. IF 2.451
- 14) Okada M, Saio M, Kito Y, Ohe N, Yano H, Yoshimura S, Iwama T, Takami T. Tumor-associated macrophage/microglia infiltration in human gliomas is correlated with MCP-3, but not MCP-1. *Int J Oncol*. 2009;34:1621-1627. IF 2.571
- 15) Watarai H, Kaku Y, Yamada M, Kokuzawa J, Tnaka T, Andoh T, Iwama T. Follow-up study on in-stent thrombosis after carotid stenting using multidetector CT angiography. *Neuroradiology*. 2009;51:243-251. IF 2.870
- 16) Yamada K, Yoshimura S, Kawasaki M, Enomoto Y, Asano T, Minatoguchi S, Iwama T. Effects of

- atorvastatin on carotid atherosclerotic plaques: a randomized trial for quantitative tissue characterization of carotid atherosclerotic plaques with integrated backscatter ultrasound. *Cerebrovasc Dis.* 2009;28:417-424. IF 2.987
- 17) Kato H, Kanematsu M, Mizuta K, Aoki M, Yamada K, Yamakawa H, Iwama T, Hirose Y. Fluid–fluid level formation: a rare finding of extracranial head and neck schwannomas. *Am J Neuroradiol.* 2009; 30:1451-1453. IF 3.464
- 18) Hayashi S, Yamamoto A, You F, Yamashita K, Ikegame Y, Tawada M, Yoshimori T, Shimizu S, Nakashima S. The stent–eluting drugs sirolimus and paclitaxel suppress healing of the endothelium by induction of autophagy. *Am J Pathol.* 2009;175:2226-2234. IF 5.224
- 19) Hayashi S, Sato N, Yamamoto A, Ikegame Y, Nakashima S, Ogihara T, Morishita R. Alzheimer disease–associated peptide, amyloid beta40, inhibits vascular regeneration with induction of endothelial autophagy. *Arterioscler Thromb Vasc Biol.* 2009;29:1909-1915. IF 7.215
- 20) Matsuo M, Miwa K, Shinoda J, Kato N, Nishibori H, Sakurai K, Yano H, Iwama T, Kanematsu M. Target definition by C11–methionine–PET for the radiotherapy of brain metastasis. *Int J Radiat Oncol Biol Phys.* 2009;74:714-722. IF 4.503
- 21) Araki Y, Furuichi M, Nokura H, Iwata T, Iwama T. Prediction of stroke rehabilitation outcome with xenon-enhanced computed tomography cerebral blood flow study. *J Stroke Cerebrovasc Dis.* 2010;19:450-457.
- 22) Shinohara Y, Katayama Y, Uchiyama S, Yamaguchi T, Handa S, Matsuoka K, Ohashi Y, Tanahashi N, Yamamoto H, Genka C, Kitagawa Y, Kusuoka H, Nishimaru K, Tsushima M, Koretsune Y, Sawada T, Hamada C. CSPS 2 group: Cilostazol for prevention of secondary stroke (CSPS 2): an aspirin-controlled, double-blind, randomized non-inferiority trial. *Lancet Neurol.* 2010;9:959-968. IF 21.659
- 23) Yoshimura S, Egashira Y, Enomoto Y, Yamada K, Yano H, Iwama T. Superficial temporal artery to middle cerebral artery double bypass via a small craniotomy -Technical Note-. *Neurol Med Chir (Tokyo).* 2010;50:956-959. IF 0.677
- 24) Yoshimura S, Kawasaki M, Hattori A, Nishigaki K, Minatoguchi S, Iwama T. Demonstration of intraluminal thrombus in the carotid artery by optical coherence tomography: technical case report. *Neurosurgery.* 2010;67:E305. IF 3.298
- 25) Ozeki M, Funato M, Teramoto T, Ohe N, Asano T, Kaneko H, Fukao T, Kondo N. Reversible cerebrospinal fluid edema and porencephalic cyst, a rare complication of ventricular catheter. *J Clin Neurosci.* 2010;17:658-661. IF 1.165
- 26) Ishiguro M, Mishiro K, Fujiwara Y, Chen H, Izuta H, Tsuruma K, Shimozawa M, Yoshimura S, Satoh M, Iwama T, Hara H. Phosphodiesterase-III inhibitor prevents hemorrhagic transformation induced by focal cerebral ischemia in mice treated with tPA. *PloS One.* 2010;5:e15178. IF 4.411
- 27) Enomoto Y, Yoshimura S, Yamada K, Iwama T. Convulsion during intra-arterial infusion of fasudil hydrochloride for the treatment of cerebral vasospasm following subarachnoid hemorrhage. *Neurol Med Chir (Tokyo).* 2010;50:7-11. IF 0.677
- 28) Enomoto Y, Adachi S, Matsushima-Nishiwaki R, Doi T, Niwa M, Akamatsu S, Tokuda H, Ogura S, Yoshimura S, Iwama T, Kozawa O. Thromboxane A2 promotes soluble CD40 ligand release from human platelets. *Atherosclerosis.* 2010;209:415-421. IF 4.086
- 29) Kato H, Adachi S, Doi T, Matsushima-Nishiwaki R, Minamitani C, Akamatsu S, Enomoto Y, Tokuda H, Otsuka T, Iwama T, Kozawa S, Ogura S. Mechanism of collagen-induced release of 5-HT, PDGF-AB and sCD40L from human platelets: Role of HSP27 phosphorylation via p44/p42 MAPK. *Thromb Res.* 2010;126:39-43. IF 2.372
- 30) Doi T, Adachi S, Matsushima-Nishiwaki R, Kato H, Enomoto Y, Natsume H, Kato K, Mizutani J, Otsuka T, Tokuda H, Akamatsu S, Iwama T, Kozawa O, Ogura S. Antithrombin III reduces collagen-stimulated granule secretion of PDGF-AB and the release of soluble CD40 ligand from human platelets. *Int J Mol Med.* 2010;26:387-392. IF 1.814
- 31) Yamada K, Kawasaki M, Yoshimura S, Enomoto Y, Asano T, Minatoguchi S, Iwama T. Prediction of silent ischemic lesions after carotid artery stenting using integrated backscatter ultrasound and magnetic resonance imaging. *Atherosclerosis.* 2010;208:161-166. IF 4.086
- 32) Ikegame Y, Yamashita K, Hayashi S, Yoshimura S, Nakashima S, Iwama T. Neutrophil elastase inhibitor prevents ischemic brain damage via reduction of vasogenic edema. *Hypertens Res.* 2010;33:703-707. IF 2.353
- 33) Takagi T, Yoshimura S, Yamada K, Enomoto Y, Iwama T. Angioplasty and stenting of totally occluded common carotid artery at the chronic stage -Case report-. *Neurol Med Chir (Tokyo).* 2010;50:998-1000. IF 0.677
- 34) Yoshimura S, Kawasaki M, Yamada K, Hattori A, Nishigaki K, Minatoguchi S, Iwama T. OCT of human carotid plaques. *JACC Cardiovasc Imag.* 2011;4:432-436. IF 5.528
- 35) Yoshimura S, Yamada K, Kawasaki M, Asano T, Kanematsu M, Takamatsu M, Hara A, Iwama T. High-intensity signal on time-of-flight magnetic resonance angiography indicates carotid plaques at high risk for cerebral embolism during stenting. *Stroke.* 2011;42:3132-3137. IF 5.756
- 36) Ishiguro M, Suzuki Y, Mishiro K, Kakino M, Tsuruma K, Shimazawa M, Yoshimura S, Iwama T, Hara

- H. Blockade of phosphodiesterase-III protects against oxygen-glucose deprivation in endothelial cells by upregulation of VE-cadherin. *Curr Neurovasc Res.* 2011;8:86-94. IF 3.047
- 37) Enomoto Y, Adachi S, Doi T, Natsume H, Kato K, Matsushima N, Nishiwaki R, Akamatsu S, Tokuda H, Yoshimura S, Otsuka T, Ogura S, Kozawa O, Iwama T. cAMP regulates ADP-induced HSP27 phosphorylation in human platelets. *Int J Mol Med.* 2011;27:695-700. IF 1.814
- 38) Enomoto Y, Yoshimura S, Egashira Y, Iwama T. Transarterial embolization for cervical hemangioma associated with Kasabach-Merritt syndrome-case report-. *Neurol Med Chir(Tokyo).* 2011;5:375-378. IF 0.677
- 39) Okada M, Yano H, Nakayama N, Ohe N, Shinoda J, Iwama T. Olig2 is useful in the differential diagnosis of oligodendrogliomas and extraventricular neurocytomas. *Brain Tumor Pathol.* 2011;28:157-161. IF 1.129
- 40) Takenaka S, Shinoda J, Asano Y, Aki T, Miwa K, Ito T, Yokoyama K, Iwama T. Metabolic assessment of monofocal acute inflammatory demyelination using MR spectroscopy and ¹¹C-methionine-, ¹¹C-choline-, and ¹⁸F-fluorodeoxyglucose-PET. *Brain Tumor Pathol.* 2011;28:229-238. IF 1.129
- 41) Egashira Y, Takahashi JC, Ohnishi H, Kawasaki Y, Higashigawa M, Iihara K, Miyamoto S. Surgical treatment and perioperative management of moyamoya disease associated with glycogen storage disease Type 1a. *J Neurosurg Pediatrics.* 2011;7:11-14. IF 2.739
- 42) Yamada K, Kawasaki M, Yoshimura S, Enomoto Y, Asano T, Minatoguchi S, Iwama T. Evaluation of symptomatic carotid plaques by tissue characterization using integrated backscatter ultrasound and magnetic resonance imaging. *Cerebrovasc Dis.* 2011;31:305-312. IF 2.987
- 43) Yamada K, Yoshimura S, Kawasaki M, Enomoto Y, Asano T, Hara A, Minatoguchi S, Iwama T. Embolic complications after carotid artery stenting or carotid endarterectomy are associated with tissue characteristics of carotid plaques evaluated by magnetic resonance imaging. *Atherosclerosis.* 2011;215:399-404. IF 4.086
- 44) Yamada K, Yoshimura S, Kawasaki M, Enomoto Y, Takano K, Asano T, Minatoguchi S, Iwama T. Prediction of silent ischemic lesions after carotid artery stenting using virtual histology intravascular ultrasound. *Cerebrovasc Dis.* 2011;32:106-113. IF 2.987
- 45) Ikegami Y, Yamashita K, Hayashi SI, Mizuno H, Tawada M, You F, Yamada K, Tanaka Y, Egashira Y, Nakashima S, Yoshimura SI, Iwama T. Comparison of mesenchymal stem cells from adipose tissue and bone marrow for ischemic stroke therapy. *Cytotherapy.* 2011;13:675-685. IF 2.925
- 46) Toyoshima Y, Asano Y, Shinoda J, Takenaka S, Aki T, Iwama T. A speech expression disorder in patients with severe diffuse brain injury who emerged from a vegetative or minimally conscious state. *Brain Injury.* 2011;25:1212-1220. IF 1.750

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：吉村紳一，研究分担者：岩間 亨，大江直行，榎本由貴子，山田清文；科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究：脂肪由来間葉系幹細胞を用いた脳虚血に対する移植再生療法の確立；平成 19-21 年度；3,200 千円(1,000：1,300：900 千円)
- 2) 研究代表者：吉村紳一，研究分担者：岩間 亨，中島 茂，國貞隆弘，林 真一郎，研究協力者：原英彰，池亀由香，田中嘉隆；岐阜大学大学院医学系研究科多分野共同研究「プロジェクトチーム」：自家移植のためのヒト脂肪幹細胞移植の培養・移植法の確立；平成 21 年度；2,000 千円
- 3) 研究代表者：岡田 誠；科学研究費補助金若手研究(B)：ヒトグリオーマの産生するケモカインと腫瘍内浸潤マクロファージの分析；平成 21-22 年度；2,730 千円(2,080：650 千円)
- 4) 研究代表者：山田清文；科学研究費補助金若手研究(B)：脳腫瘍のルーツ；平成 20-21 年度；4,290 千円(2,210：2,080 千円)
- 5) 研究代表者：山田清文；研究科長・医学部長裁量経費(重点的配分)：超音波と Magnetic Resonance Image(MRI)による頸動脈プラーク診断と脳梗塞発症の予測予防；平成 21 年度；1,000 千円
- 6) 研究代表者：吉村紳一，研究分担者：岩間 亨，矢野大仁，榎本由貴子，山田清文，大江直行；科学研究費補助金基盤研究(B)：脳虚血への自家移植を目指したヒト脂肪組織由来幹細胞の分離培養法の確立；平成 22-24 年度；14,430 千円(4,550：4,680：5,200 千円)
- 7) 研究代表者：吉村紳一；財団法人先進医薬研究振興財団平成 22 年度(第 9 回) 循環医学分野一般研究助成：超急性期脳梗塞に対する血管内救済療法の効果に関する全国的前向き登録研究；平成 22-23 年度；1,000 千円
- 8) 研究代表者：原 英彰，研究分担者：吉村紳一，江頭裕介；臨床研究推進支援経費：脂肪組織由来幹細胞およびその分泌因子を用いた脳虚血および網膜変性疾患に対する治療法の開発；平成 23 年度；1,000 千円
- 9) 研究代表者：石黒光紀；研究科長・医学部長裁量経費(重点的配分)：tPA と塩酸ファスジル併用療法における脳梗塞，出血性梗塞に対する効果の検討；平成 23 年度；500 千円

- 10) 研究代表者：榎本由貴子；学術研究助成基金助成金若手研究（B）：血小板凝集能・血小板活性化マーカーを用いた抗体血小板療法モニタリング；平成 23-24 年度；4,030 千円(2,080：1,950 千円)
- 11) 研究代表者：副田明男；研究科長・医学部長裁量経費(国内外留学帰学者支援)；平成 23 年度；500 千円

2) 受託研究

- 1) 岩間 亨，吉村紳一，矢野大仁，山川春樹，大江直行，中山則之：シロスタゾールの市販後臨床試験—脳梗塞に対するアスピリンとの比較における検証的試験—；平成 17-21 年；1,390,389 円；大塚製薬(株)
- 2) 岩間 亨：テモダールカプセル全例調査特定使用成績調査；平成 18-27 年；0 円；シェリング・プラウ(株)
- 3) 岩間 亨：頸動脈用プリサイス・アンジオガード XP 使用成績調査；平成 20-22 年；0 円；ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- 4) 吉村紳一，榎本由貴子，山田清文：頸動脈ステント留置術後の血管イベントの発症に関する前向き観察研究(IDEALCAST)；平成 20-23 年；945,000 円；財団法人先端医療振興財団
- 5) 岩間 亨：ガバペン錠使用成績調査；平成 20-27 年；900,900 円(600,600：300,300 円)；ファイザー(株)
- 6) 吉村紳一，榎本由貴子，山田清文：脳血管内治療の術後抗血栓療法に関する研究(ACCOUNT)；平成 21-22 年；787,500 円；財団法人先端医療振興財団
- 7) 大江直行，吉村紳一，矢野大仁，中山則之：アートセレブ脳脊髄手術用洗浄灌流液使用成績調査(神経内視鏡手術症例)；平成 21-23 年；150,150 円；(株)大塚製薬工場
- 8) 矢野大仁，大江直行，中山則之：トピナ錠の部分てんかん患者を対象とした製造販売後臨床試験(漸増法比較試験)；平成 21-23 年；3,998,280 円(3,958,240：40,040 円)協和発酵キリン(株)
- 9) 大江直行：ギャバロン髄注シンクロメッドポンプシステム使用成績調査；平成 21-25 年；645,645 円(360,360：240,240：45,045 円)；第一三共(株)
- 10) 矢野大仁，大江直行，中山則之：トピナ錠 50 mg, 100 mg 使用成績調査；平成 22-23 年；150,150 円；協和発酵キリン(株)
- 11) 矢野大仁，大江直行，中山則之：トピナ錠 50 mg, 100 mg 特定使用成績調査；平成 22-24 年；225,225 円；協和発酵キリン(株)
- 12) 吉村紳一，榎本由貴子，江頭裕介，山田清文：頸動脈用ウォールステント モノレール/フィルターワイヤーEZ 使用成績調査；平成 22-24 年；300,300 円(150,150：150,150 円)；ボストン・サイエンティックジャパン(株)
- 13) 吉村紳一，榎本由貴子，江頭裕介：ガードワイオヤ・プロテクションシステム使用成績調査；平成 22-24 年；150,150 円；日本メドトロニック(株)
- 14) 岩間 亨：アレピアチン副作用詳細報告；平成 22-24 年；30,030 円；大日本住友製薬(株)
- 15) 吉村紳一，榎本由貴子，江頭裕介，山田清文：脳 AVM における ONYX 液体塞栓システムの製造販売後使用成績調査；平成 22-25 年；150,150 円；イーヴィースリー(株)
- 16) 岩間 亨，矢野大仁，大江直行，中山則之，榎本由貴子，江頭裕介，田中嘉隆，池亀由香，船津奈保子：ラジカット特定使用成績調査(発症後 4.5 時間以内の脳梗塞急性期に対する調査)；平成 22-25 年；600,600 円；田辺三菱製薬(株)
- 17) 大江直行：ギャバロン髄注シンクロメッドポンプシステム特定使用成績調査；平成 22-25 年；90,090 円(45,045：45,045 円)；第一三共(株)
- 18) 吉村紳一，榎本由貴子，江頭裕介，山田清文：Merci リトリーバーの使用成績調査；平成 22-25 年；600,600 円(300,300：300,300 円)；センチュリーメディカル(株)
- 19) 吉村紳一，榎本由貴子：コッドマン エンタープライズ VRD 使用成績調査；平成 22-27 年；1,201,200 円(360,360：840,840 円)；ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- 20) 吉村紳一，江頭裕介，榎本由貴子：頸動脈ステント留置術後の再狭窄に対するシロスタゾールの効果に関する多施設共同無作為化比較試験(CAS-CARE)；平成 23-26 年；84 千円；財団法人先端医療振興財団

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

- 1) 横田廣志, 岩間 亨, 他 2 名 : 医用画像処理装置(発明) ; 平成 23 年(登録番号 4823204)

6. 学会活動

1) 学会役員

岩間 亨 :

- 1) 社団法人日本脳神経外科学会評議員(～現在)
- 2) 社団法人日本脳神経外科学会代議員(～現在)
- 3) 社団法人日本脳神経外科学会中部支部理事(～現在)
- 4) 日本脳卒中学会評議員(～現在)
- 5) 日本脳卒中の外科学会運営委員(～現在)
- 6) 日本脳腫瘍の外科学会評議員(～現在)
- 7) 日本小児神経外科学会世話人(～現在)
- 8) 日本脳ドック学会評議員(～現在)
- 9) 脳神経外科手術と機器学会運営委員(～現在)

吉村紳一 :

- 1) 日本脳神経血管内治療学会運営委員及び教育委員長(～現在)
- 2) 社団法人日本脳神経外科学会評議員(～現在)
- 3) 日本脳神経外科コンgres運営委員(～現在)
- 4) Mt Fuji Workshop on CVD 運営委員(～現在)
- 5) 日本脳神経外科学会国際小委員会委員(～現在)
- 6) 日本脳卒中の外科学会代議員(～現在)

矢野大仁 :

- 1) 社団法人日本脳神経外科学会評議員(～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

岩間 亨 :

- 1) 脳神経外科 ; 編集同人(～現在)
- 2) 脳神経外科ジャーナル ; 編集委員(～平成 21 年 5 月)
- 3) Neurologia medico-chirurgica ; Review Board(～現在)
- 4) 脳と循環 ; 編集アドバイザー(～現在)

吉村紳一 :

- 1) Neurotrauma Research ; Editional Board(～現在)
- 2) Journal of Neuroendovascular Therapy ; 副編集委員長(～現在)
- 3) Neurologia medico-chirurgica ; Review Board(～現在)
- 4) 脳神経外科ジャーナル ; 査読委員(～現在)
- 5) ブレインナーシング ; 編集同人(～現在)
- 6) Journal of Stroke and Cerebrovascular disease ; Review Board(～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

岩間 亨 :

- 1) Stroke2009(第 34 回日本脳卒中学会総会 第 38 回日本脳卒中の外科学会 第 25 回スパズム・シンポジウム)(平成 21 年 3 月, 松江, 合同シンポジウム「脳動脈狭窄・閉塞の病態と治療」座長)
- 2) 第 18 回脳神経手術と機器学会(平成 21 年 4 月, 秋田, イブニングセミナー「バイパス術のすべて-基本から実践まで-」シンポジスト)
- 3) Swiss-Japanese Neurosurgical Joint Meeting 2009(平成 21 年 7 月, Zurich, Friday Morning 「Vascular」)座長)

- 4) 第 25 回ブレイン・ファンクション・イメージング・カンファレンス(平成 21 年 9 月, 東京, 「脳血管障害における画像診断の進歩」座長)
- 5) 第 68 回社団法人日本脳神経外科学会学術総会(平成 21 年 10 月, 東京, ビデオシンポジウム「血栓化脳動脈瘤の治療戦略」座長)
- 6) 9th International Conference on Cerebrovascular Surgery(平成 21 年 11 月, 名古屋, Luncheon Video Seminar 「Tips and pitfalls of posterior circulation aneurysms surgery.」座長)
- 7) 第 60 回日本病院学会(平成 22 年 7 月, 岐阜, 特別講演「ミステリーで終わらない死因究明と画像診断」座長)
- 8) 第 69 回日本脳神経外科学会学術総会(平成 22 年 10 月, 福岡, ビデオシンポジウム「困難な脳動脈瘤の治療戦略」座長)
- 9) 第 16 回日本脳神経外科救急学会(平成 23 年 1 月, 名古屋, シンポジウム「脳神経治療/プレホスピタルケア・ドクターヘリ」座長)
- 10) 第 20 回日本脳ドック学会総会(平成 23 年 7 月, 東京, モーニングセミナー「未破裂脳動脈瘤に対する血管内治療-安全に coiling するための工夫」 「無症候性未破裂脳動脈瘤に対する外科治療」座長)
- 11) 第 70 回日本脳神経外科学会学術総会(平成 23 年 10 月, 横浜, シンポジウム「非出血性脳動脈解離の治療戦略と overall result」座長)

吉村紳一：

- 1) 9th International Conference on Cerebrovascular Surgery(平成 21 年 11 月, 名古屋, Tea-break Seminar 「Techno-engineering in neurovascular surgery」座長)
- 2) 第 27 回日本脳神経血管内治療学会学術総会(平成 23 年 11 月, 千葉, シンポジウム「虚血急性期治療:t-PA 静注療法, 機械的血栓除去術, 頸動脈の血栓溶解療法を駆使」座長)

8. 学術賞等の受賞状況

- 1) 吉村紳一：2009 Asian-Australasian Interventional Neuroradiology/Surgery Forum (INR Forum 2009)Poster Award(平成 21 年度)
- 2) 山田清文：平成 21 年度岐阜県脳神経外科懇話会優秀論文賞(平成 21 年度)
- 3) 吉村紳一：日本頸部脳血管治療学会学術総会賞(平成 22 年度)
- 4) 吉村紳一：日本脳神経血管内治療学会優秀論文賞(銅賞)(平成 22 年度)
- 5) 山田清文：平成 22 年度岐阜県脳神経外科懇話会優秀論文賞(平成 22 年度)
- 6) 田中嘉隆：第 78 回日本脳神経外科学会中部支部学術集会優秀論文賞(平成 22 年度)
- 7) 榎本由貴子：第 27 回日本脳神経血管内治療学会学術総会ポスター賞(銀賞)(平成 23 年度)
- 8) 江頭裕介：第 79 回日本脳神経外科学会中部支部学術集会優秀論文賞(平成 23 年度)
- 9) 江頭裕介：第 10 回日本頸部脳血管治療学会優秀ポスター賞(平成 23 年度)

9. 社会活動

岩間 亨：

- 1) 岐阜労働局地方労災医員(～現在)
- 2) 岐阜県医師会外科医部会顧問(～現在)
- 3) 岐阜県医師会労災指定医部会顧問(～現在)
- 4) 岐阜県成人病検診管理指導協議会循環器疾患等委員会委員(～現在)
- 5) 岐阜地方裁判所所属専門委員(～現在)
- 6) 中部療護センター入院審査委員会委員長(～現在)
- 7) 社団法人日本脳卒中協会岐阜県支部支部長(～現在)
- 8) 岐阜県立病院医療事故審査委員会委員(～現在)
- 9) 秋田県立脳血管研究センター研究外部評価委員(～現在)
- 10) 厚生労働省「脳死下での臓器提供事例に係る検証会議」医学的検証作業グループ(～現在)
- 11) 岐阜大学医師会会長(～現在)
- 12) 岐阜県難病医療連絡協議会会長(～現在)
- 13) 岐阜市救急医療体制協議会委員(平成 22 年 6 月～現在)
- 14) 岐阜県医療審議会委員(平成 22 年 7 月～現在)
- 15) 岐阜県社会保険診療報酬請求書審査委員会学識経験者審査委員選考協議会委員(平成 23 年度～現在)

吉村紳一：

- 1) 社団法人日本脳卒中協会岐阜県支部副支部長(～現在)
- 2) 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(～現在)
- 3) 独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員(～現在)

10. 報告書

- 1) 山田清文：脳腫瘍のルーツ：平成 20-21 年度科学研究費補助金若手研究(B)研究成果報告書(平成 21 年 3 月)
- 2) 岡田 誠：ヒトグリオーマの産生するケモカインと腫瘍内浸潤マクロファージの分析：平成 21-22 年度科学研究費補助金若手研究(B)研究成果報告書(平成 22 年 3 月)

11. 報道

- 1) 吉村紳一：リアルタイムの特集 もやもや病のバイパス手術 脳動脈瘤の血管内治療：中京テレビ(2010 年 3 月 18 日)
- 2) 岩間 亨：診察室からこんにちは話：岐阜新聞(2010 年 4 月 23 日)
- 3) 岩間 亨：病院長を拝命して：岐阜大学医学部記念会館だより第 92 号(2010 年 5 月 1 日)
- 4) 吉村紳一：教えてホームドクター 脳卒中予防のすすめ「くも膜下出血」：岐阜新聞(2010 年 5 月 3 日)
- 5) 吉村紳一, 村山雄一：知って得する！新名医の最新治療 Vol.131 脳動脈瘤(未破裂)：週刊朝日(2010 年 5 月 21 日)
- 6) 吉村紳一：教えてホームドクター 脳卒中予防のすすめ「脳梗塞」：岐阜新聞(2010 年 6 月 21 日)
- 7) 岩間 亨：病院長に就任して：鶴舟第 15 号(2010 年 6 月 30 日)
- 8) 岩間 亨：医療人としてのライトスタッフ：岐阜県病院時報第 54 号(2010 年 6 月 30 日)
- 9) 岩間 亨：よくある頭痛とまれな頭痛：岐阜県保険医新聞第 390 号(2010 年 8 月 10 日)
- 10) 岩間 亨：つなごう医療 34 中部の最前線「夏山診療所」：中日新聞(2010 年 8 月 24 日)
- 11) 吉村紳一：教えてホームドクター 脳卒中予防のすすめ「脳出血」：岐阜新聞(2010 年 8 月 30 日)
- 12) 岩間 亨：附属病院の現状と将来について：岐阜大学医学部記念会館だより第 93 号(2010 年 9 月 1 日)
- 13) 吉村紳一：前線第 7 回 頸動脈狭窄症に対するステント留置術 体にやさしい血管治療：日本脳神経財団ニュース BRAIN 101 P4-5(2010 年 10 月 10 日)
- 14) 吉村紳一：教えてホームドクター 脳卒中予防のすすめ「くも膜下出血」動脈瘤あれば手術 破裂率, 大きいほど高く：岐阜新聞(2010 年 11 月 1 日)
- 15) 吉村紳一, 塩川芳昭：脳梗塞：週刊朝日(2010 年 11 月 26 日)
- 16) 吉村紳一：岐阜大学医学部附属病院紹介 脳神経外科：岐阜県医師会報 P14-15(2010 年 12 月 1 日)
- 17) 吉村紳一：週刊☆コダワリタイム：中京テレビ(2010 年 12 月 19 日)
- 18) 吉村紳一：ラジオ健康情報番組「明日も元気」テーマ 脳卒中予防について：TBS ラジオ SBS ラジオ CBC ラジオ(2010 年 12 月 27 日～31 日)
- 19) 岩間 亨：附属病院の現状報告：岐阜大学医学部記念会館だより第 94 号(2011 年 1 月 1 日)
- 20) 吉村紳一：名医が太鼓判「わが町の腕利き 300 人図鑑」：プレジデント 2011 年 1.3 号
- 21) 吉村紳一：教えてホームドクター「脳卒中予防のすすめ 動脈瘤の治療法」：岐阜新聞(2011 年 1 月 10 日)
- 22) 吉村紳一：「日本の名医 2011」 「開頭手術と脳血管内治療の『二刀流』の達人」：週刊現代(2011 年 2 月 19 日号)
- 23) 吉村紳一：『手術数でわかる いい病院全国&地方別データブック 2011』：週刊朝日 MOOK(2011 年 2 月 25 日)
- 24) 吉村紳一：ラジオ「あったか応援団 元気な介護」：衛星放送デジタルラジオ ミュージックバー ドSPACE 他 全国コミュニティ FM61 局(2011 年 3 月 2 日, 3 月 9 日)
- 25) 吉村紳一：教えてホームドクター「脳卒中予防のすすめ 脳動脈瘤手術の進歩」：岐阜新聞(2011 年 3 月 14 日)
- 26) 吉村紳一：教えてホームドクター「脳動脈瘤の血管内治療」：岐阜新聞(2011 年 5 月 16 日)
- 27) 吉村紳一：教えてホームドクター「クリッピング術」：岐阜新聞(2011 年 7 月 25 日)
- 28) 岩間 亨：附属病院の現状と将来について：岐阜大学医学部記念会館だより第 96 号(2011 年 9 月 1

日)

29) 吉村紳一：教えてホームドクター「治療困難な脳動脈瘤」：岐阜新聞(2011年10月3日)

30) 吉村紳一：教えてホームドクター「ラクナ脳梗塞」：岐阜新聞(2011年12月5日)

12. 自己評価

評価

急性期脳虚血に対する各種薬剤ならびに脂肪組織由来幹細胞投与における脳保護効果に関して新たな知見が得られ、今後さらなる発展と臨床への応用が期待される。血小板放出因子と動脈硬化との関連、ならびに各種抗血小板剤の影響に関する研究においても臨床応用に直結する成果が得られている。

悪性脳腫瘍の再発と放射線壊死の鑑別に関する臨床研究において新たな診断法が開発されつつある。

現状の問題点及びその対応策

それぞれのテーマにおいて更なる研究の展開が期待される中で、現在の最大の問題点は研究人員の不足と研究体制の確立にある。

研究人員の増加を短期間に達成する事は困難であるため、長期的展望に立って研究者を育成していく必要がある。また、現在それぞれ異なった基礎講座との共同研究が主体となっているが、トランスレーショナルリサーチをさらに進めるためにも、脳神経外科に所属する臨床医、基礎研究者が常に顔を合わせて研究に関する討論が自然に生まれることが大切で、研究拠点を脳神経外科内に設立すべく整備を進めている。

今後の展望

現在なお治療成績が不良である悪性脳腫瘍と、ますますの増加が予想される脳虚血に対する新たな治療法の開発は、脳神経外科学領域において今後も重要な課題である。

悪性脳腫瘍の臨床的治療成績は統合的画像診断の応用で少しずつ進歩しているが、更なる治療効果を得るためには免疫療法、脳瘍幹細胞の分離を基にしたテーラーメイド治療などが必要であり、基礎研究とともに臨床応用を目指したトランスレーショナルリサーチをさらに進める必要がある。

脳虚血の治療に関しては、これまでの虚血に対する脳保護という受動的観点から、障害された機能を取り戻すという再生医療の導入、さらには、脳虚血の原因である脳動脈硬化を積極的に抑制するという戦略のシフトが予想される。脳虚血保護に関するこれまでの研究成果の臨床応用を進めると同時に、神経再生、脳動脈硬制御を目指した基礎的、臨床的研究に取り組んでいきたい。

(7) 耳鼻咽喉科学分野

1. 研究の概要

1) めまい・平衡障害に関するもの

めまい・平衡障害患者に各種平衡機能検査を行い、疾患の素因や病像、めまい平衡障害の臨床的病態をとらえ、その成果を治療にフィードバックしている。静的平衡機能検査の一つである重心動揺検査では平衡障害の病巣診断精度向上のため、マハラノビス・タグチ法や最大リアプノフ指数による解析評価を試みている。動的平衡機能検査の足踏み検査では、フォースプレートを導入し足底圧変化と踏み替えリズムの評価を可能とした。歩行制御機能解析にも応用可能である。

立位時の身体動揺を測定し、バイオメカニカルモデルを構築し、身体動揺の神経制御機構を PID (proportional integral derivative) 制御方式を採用して検証している。

メニエール病の病態である内リンパ水腫に関連性がある水代謝系ホルモンのバズプレッシンについて研究している。発症因子としての役割や、メニエール病の発症因子ならびに予後因子としての役割について、臨床および基礎研究を行っている。バズプレッシンをパラメーターとして、内耳圧制御を目的にした鼓膜チューブ留置術および中耳加圧治療を行い、良好な結果を得ている。

起立性循環調節には圧受容器反射によるネガティブフィードバック機構が重要であるが、前庭器によるフィードフォワード系制御である前庭交感神経反射が関与していることを報告した。また、めまい症例がしばしば訴える起立性調節障害における前庭交感神経反射の関与を検証するとともに、前庭電気刺激によるめまい治療の臨床応用を検討している。

老化促進マウスを用い、老人性難聴ならびに老化にともなう平衡障害の発生機序ならびに発生予防について内分泌ホルモンなどの観点から検討している。

めまい・平衡医学の効果的な卒前教育をチュートリアルコースと臨床実習において実現する方法を研究している。

2) 頭頸部腫瘍に関するもの

頭頸部癌に対する化学放射線治療の有効性、安全性に関して、ならびに機能温存に関して、臨床検討を行っている。頭頸部癌手術後の患者の QOL 低下の防止に関して、再建術式の臨床的検討を行っている。

頭頸部癌を腫瘍免疫の観点から研究している。大阪府立成人病センター研究所分子遺伝学部門の協力を得て進めている。臨床へのフィードバックを計画している。

3) 内耳再生に関するもの

内耳性難聴は治療に抵抗する非可逆的なものが多い。組織・器官形成分野の協力を得て内耳再生の研究を進めている。

2. 名簿

教授：	伊藤八次	Yatsuji Ito
准教授：	水田啓介	Keisuke Mizuta
講師：	青木光広	Mitsuhiro Aoki
講師：	久世文也	Bunya Kuze
講師：	加藤久和	Hisakazu Kato
臨床講師：	西堀丈純	Takezumi Nishihori
臨床講師：	山田南星	Nansei Yamada
臨床講師：	林 寿光	Hisamitsu Hayashi
医員：	出原啓一	Keiichi Izuhara
医員：	若岡敬紀	Takanori Wakaoka
医員：	滝脇正人	Masato Takiwaki
医員：	内藤裕介	Yusuke Naito
医員：	柴田博史	Hirofumi Shibata

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 伊藤八次, 出原啓一. 前庭系のリハビリテーション: 内野善生, 古屋信彦編. 日常臨床に役立つ めまいと平衡障害, 東京: 金原出版; 2009年: 156-161.
- 2) 水田啓介, 青木光広. 喉の違和感: 森田浩之編. いきなり名医! 見分けが肝心, 不定愁訴 jmedmook09, 東京: 日本医事新報社; 2010年; 9巻: 103-106.

- 3) 青木光広, 水田啓介. ふらつき・めまい: 森田浩之編. いきなり名医! 見分けが肝心, 不定愁訴 jmedmook09, 東京: 日本医事新報社: 2010年; 9巻: 71-74.
- 4) 久世文也, 水田啓介. 味覚障害: 森田浩之編. いきなり名医! 見分けが肝心, 不定愁訴 jmedmook09, 東京: 日本医事新報社: 2010年; 9巻: 79-82.
- 5) 渡辺行雄, 池園哲郎, 伊藤寿一, 柿本章伸, 肥塚 泉, 鈴木 衛, 高橋克昌, 工田昌也, 武田憲昭, 土井勝美, 山下祐司, 青木光広, 宇佐美真一, 高橋正紘, 長沼英明. メニエール病診療ガイドライン 2011年度版 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 前庭機能異常に関する調査研究班(2008-2010年度), 東京: 金原出版; 2011年.

著書 (欧文)

なし

総説 (和文)

- 1) 水田啓介. メニエール病に対する平衡リハビリテーション, JOHNS 2009年; 25巻: 857-860.
- 2) 伊藤八次. 予防医学からみた動揺病, JOHNS 2009年; 25巻: 1743-1746.
- 3) 伊藤八次. 特集/耳鼻咽喉科・頭頸部外科の検査マニュアルー方法・結果とその解釈. 重心動揺検査, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2010年; 82巻増刊5号: 131-135.
- 4) 伊藤八次. 体平衡, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2010年; 82巻: 565-569.
- 5) 伊藤八次. 慢性期のめまいに対する平衡訓練の EBM とは?, EBM 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の治療 2010-2011 2010年: 196-198.
- 6) 水田啓介. 子供の立ちくらみ, 大丈夫? お母さんへの回答マニュアル耳鼻咽喉科 Q&A 2010, JOHNS 2010年; 26巻: 1302-1303.
- 7) 水田啓介. めまい診療における重心動揺検査, 耳報 2010年; 381巻: 37-39.
- 8) 青木光広, 出原啓一. めまいリハビリテーションとカクテル療法 特集・めまいのカクテル療法ー使い方のポイント, MB ENTONI 2010年; 120巻: 61-67.
- 9) 伊藤八次. 耳科学領域 前庭神経炎, JOHNS 2011年; 27巻: 1331-1333.

総説 (欧文)

- 1) Aoki M. Book Review. Meniere's disease: evidence and outcomes. Int J Audiol. 2011;50:640.

原著 (和文)

- 1) 水田啓介, 藤垣 照, 大井益一, 服部彩樹, 棚橋聰子, 加藤洋治, 田中雄一, 横田 明, 柴田康成, 渡辺忠彦, 伊藤八次, 横山壽一, 竹内秀行, 山崎 太, 田中孝治, 小木曾正輝, 高橋広志, 北村泰宏. 岐阜県における2008年スギ・ヒノキ花粉飛散状況と2009年のスギ・ヒノキ花粉飛散予測, 東海花粉症 2009年; 20巻: 21-25.
- 2) 水田啓介, 青木香織, 浅井雅幸, 林 寿光, 山田南星, 久世文也, 青木光広, 伊藤八次. 中等・重症の急性咽頭・扁桃炎および急性副鼻腔炎・慢性副鼻腔炎急性増悪症例に対するガレノキサシン(ジェニナック)の有効性, 化学療法の領域 2009年; 25巻: 128-134.
- 3) 水田啓介, 藤井恵子, 山田南星, 久世文也, 青木光広, 伊藤八次. カルボプラチン, パクリタキセル併用化学療法が奏功した耳下腺癌肺転移例, 耳鼻臨床 2009年; 102巻: 737-741.
- 4) 水田啓介, 山田南星, 安藤健一, 久世文也, 加藤久和, 青木光広, 伊藤八次, 長尾成敏. 喉頭癌気管孔周囲再発症例に対する手術治療, 日気食会報 2009年; 60巻: 433-439.
- 5) 水田啓介, 時田 喬, 伊藤八次, 青木光広, 久世文也. 一側迷路障害例の重心動揺における最大リアプロフ指数の検討, 日耳鼻 2009年; 112巻: 791-800.
- 6) 水田啓介, 若岡敬紀, 久世文也, 加藤久和, 青木光広, 伊藤八次. 側頭下窩再発脊索腫症例に対する上顎スイング変法ー術後口蓋瘻孔への対策ー, 頭頸部外科 2009年; 19巻: 147-151.
- 7) 大宝和博, 林 真也, 中山則之, 大江直行, 矢野大仁, 水田啓介, 岩間 亨, 星 博昭. Micro-multileaf collimator を用いた dynamic conformal arc 定位照射における Paddick-Lippitz gradient index による標的外線量減衰の急峻度評価, 定位的放射線治療 2009年; 13巻: 1-9.
- 8) 青木光広, 水田啓介, 安藤健一, 山田南星, 伊藤八次, 二木良孝. 耳性髄液漏を伴った髄膜炎を発症した内耳奇形合併成人例, 耳鼻臨床 2009年; 102巻: 99-102.
- 9) 青木光広, 林 寿光, 安藤健一, 山田南星, 水田啓介, 伊藤八次, 加藤博基. 進行性難聴を呈した cochlear nerve deficiency の2症例, Otol Jpn 2009年; 19巻: 49-54.
- 10) 山田南星, 水田啓介, 加藤博基, 安藤健一, 久世文也, 青木光広, 伊藤八次. 石灰沈着性頸長筋炎の2例, 口咽科 2009年; 22巻: 205-210.
- 11) 加藤博基, 兼松雅之, 星 博昭, 山田南星, 久世文也, 青木光広, 水田啓介, 伊藤八次, 加藤恵三, 山下知巳, 柴田敏之, 大野貴敏. 液面形成(fluid-fluid level)を示す頭頸部腫瘍の画像所見, 臨床放射線 2009年; 54巻: 1741-1751.
- 12) 横山善至, 水田啓介, 浅井雅幸, 青木香織, 山田南星, 青木光広, 伊藤八次. 先天性後鼻孔狭窄に対する手術治療, 日鼻誌 2009年; 48巻: 8-11.
- 13) 青木香織, 水田啓介, 山田南星, 青木光広, 伊藤八次, 加藤博基. 耳下腺腫瘍のMRI画像および拡散係数による検討, 口咽科 2009年; 22巻: 199-203.
- 14) 水田啓介, 山田南星, 久世文也, 加藤久和, 青木光広, 伊藤八次. 翼口蓋窩・側頭下窩腫瘍に対するアプロ

- 一手法の検討, 耳鼻臨床 2010年; 103巻: 363-372.
- 15) 水田啓介, 藤垣 熙, 大井益一, 服部彩樹, 棚橋聰子, 安藤健一, 田中雄一, 横田 明, 柴田康成, 渡辺忠彦, 伊藤八次, 横山壽一, 竹内秀行, 山崎 太, 田中孝治, 小木曾正輝, 高橋広志, 北村泰宏. 岐阜県における2009年のスギ・ヒノキ花粉飛散状況と2010年のスギ・ヒノキ科花粉飛散予測, 東海花粉症 2010年; 21巻: 18-22.
 - 16) 水田啓介, 久世文也, 坂井田諺, 出原啓一, 林 寿光, 山田南星, 西堀丈純, 青木光広, 田中雄一, 安藤健一, 渡辺忠彦, 伊藤八次. 2009年の岐阜県におけるスギ花粉症治療に対する患者満足度調査, 耳鼻臨床 2010年; 103巻: 1063-1069.
 - 17) 青木光広, 西堀丈純, 浅井雅幸, 久世文也, 水田啓介, 伊藤八次, 宮田英雄. メニエール病に対するMeniettによる中耳加圧療法の臨床的検討, Equilibrium Res 2010年; 69巻: 418-423.
 - 18) 青木光広, 出原啓一. めまいのリハビリテーション, 耳鼻臨床 2010年; 103巻: 100-101.
 - 19) 青木光広, 山田南星, 林 寿光, 青木香織, 久世文也, 水田啓介, 伊藤八次. 当科における耳下腺癌症例の検討, 口腔咽喉頭科 2010年; 23巻: 97-103.
 - 20) 加藤久和. 脳神経外科手術後の頭蓋内感染を伴う頭皮潰瘍の治療経験, 日本頭蓋顎顔面外科学会誌 2010年; 26巻: 292-299.
 - 21) 久世文也, 水田啓介, 山田南星, 安藤健一, 青木光広, 伊藤八次. 当科における聴器癌症例の検討, Otol Jpn 2010年; 20巻: 79-85.
 - 22) 安藤健一, 水田啓介, 山田南星, 久世文也, 青木光広, 伊藤八次, 林 真也, 大宝和博. 定位放射線治療が著効した進行中耳癌例, 耳鼻臨床 2010年; 103巻: 305-310.
 - 23) 浅井雅幸, 水田啓介, 安藤健一, 青木光広, 伊藤八次. 上下肢麻痺を摘出術で改善させることができた巨大頸部神経鞘腫例, 耳鼻臨床 2010年; 103巻: 677-681.
 - 24) 水田啓介, 藤垣 熙, 大井益一, 服部彩樹, 棚橋聰子, 安藤健一, 田中雄一, 横田 明, 柴田康成, 渡辺忠彦, 伊藤八次, 横山壽一, 竹内秀行, 山崎 太, 田中孝治, 小木曾正輝, 高橋広志, 北村泰宏. 岐阜県における2010年のスギ・ヒノキ科花粉飛散状況と2011年のスギ・ヒノキ科花粉飛散予測, 東海花粉症 2011年; 22巻: 7-10.
 - 25) 水田啓介, 久世文也, 出原啓一, 林 寿光, 山田南星, 西堀丈純, 上田奈津子, 青木光広, 田中雄一, 安藤健一, 渡辺忠彦, 伊藤八次. プランルカスト水和物(オノン)によるスギ花粉症治療に対する患者満足度への効果, 新薬と臨牀 2011年; 60巻: 1020-1023.
 - 26) 水田啓介, 西堀丈純, 青木光広. 偏在性甲状舌管嚢胞例, 耳鼻臨床 2011年; 104巻: 542-543.
 - 27) 加藤久和, 水田啓介, 青木光広, 久世文也, 伊藤八次. 上顎癌切除後の整容的再建における工夫と限界, 頭頸部癌 2011年; 37巻: 470-477.
 - 28) 加藤俊徳, 伊藤八次, 中尾弘志, 角坂照貴. ダニによる耳鳴り—イヌミミヒゼンダニの迷入が疑われた症例とムギコナダニによる症例—, Med. Entomol. Zool 2011年; 62巻: 199-204.
 - 29) 大江直行, 野中裕康, 船戸道徳, 小関道夫, 加藤久和, 矢野大仁, 吉村紳一, 高見 剛, 岩間 亨. 後頭部皮下に発生した限局性 Ewing sarcoma/PNET の1例, 小児の脳神経 2011年; 36巻: 26-30.

原著 (欧文)

- 1) Asai M, Aoki M, Hayashi H, Yamada N, Mizuta K, Ito Y. Subclinical deviation of the subjective visual vertical in patients affected by a primary headache. Acta Otolaryngol. 2009;129:30-35. IF 1.200
- 2) Kato H, Kanematsu M, Tanaka O, Mizuta K, Aoki M, Shibata T, Yamashita T, Hirose Y, Hoshi H. Head and neck squamous cell carcinoma: usefulness of diffusion-weighted MR imaging in the prediction of a neoadjuvant therapeutic effect. Eur Radiol. 2009;19:103-109. IF 3.594
- 3) Kato H, Kanematsu M, Mizuta K, Aoki M, Yamada K, Yamakawa H, Iwama T, Hirose Y. Fluid-Fluid level formation: A rare finding of extracranial head and neck schwannomas. Am J Neuroradiol. 2009; 30:1451-1453. IF 3.464
- 4) Aoki M, Mizuta K, Ueda N, Yamada N, Ito Y, Kato H, Hirose Y. Surgical Treatment by Partial Petrossectomy for a Middle-Ear Carcinoid with Progressive Extension: A Case Report and Review of the Literature. Int J Otolaryngol. 2010;1-5.
- 5) Aoki M, Hayashi H, Kuze B, Mizuta K, Ito Y. The association of the plasma vasopressin level during attacks with a prognosis of Meniere's disease. Int J Audiol. 2010;49:1-6. IF 1.266
- 6) Grantyn A, Kuze B, Brandi AM, Thomas MA, Quenech'du N. Direct projections of omnipause neurons to reticulospinal neurons: a double-labeling light microscopic study in the cat. J Comp Neurol. 2010;518:4792-4812. IF 3.774
- 7) Kato H, Kanematsu M, Mizuta K, Aoki M, Kuze B, Ohno T, Oshima K, Hirose Y. "Flow-void" sign at MR imaging: a rare finding of extracranial head and neck schwannomas. J Magnetic Resonance Imaging. 2010;31:703-705. IF 2.749
- 8) Watanabe T, Ishihara M, Matsuura K, Mizuta K, Itoh Y. Polaprezinc prevents oral mucositis associated with radiochemotherapy in patients with head and neck cancer. Int J Cancer. 2010;127:1984-1990. IF 4.926
- 9) Shojaku H, Watanabe Y, Takeda N, Ikezono T, Takahashi M, Kakigi A, Ito J, Doi K, Suzuki M, Takumida M, Takahashi K, Yamashita H, Koizuka I, Usami S, Aoki M, Naganuma H. Clinical characteristics of delayed endolymphatic hydrops in Japan: a nationwide survey by the peripheral vestibular disorder research committee of Japan. Acta Otolaryngol. 2010;130:1135-1140. IF 1.200

- 10) Aoki M, Wakaoka Y, Hayashi H, Nishihori T, Kuze B, Mizuta K, Ito Y. The relevance of hypothalamus-pituitary-adrenocortical axis-related hormones to the cochlear symptoms in Meniere's disease. *Int J Audiol.* 2011;50:897-904. IF 1.266
- 11) Nishihori T, Aoki M, Aoki K, Yamada N, Kuze B, Mizuta K, Ito Y, Hirose N, Kato H. The Surgical Treatment for Recurrent Liposarcoma of the Hypopharynx in a Pregnant Woman. *J Med Case.* 2011;2:127-131.
- 12) Shojaku H, Watanabe Y, Mineta H, Aoki M, Tsubota M, Watanabe K, Goto F, Shigeno K. Long-term effects of the Meniett device in Japanese patients with Meniere's disease and delayed endolymphatic hydrops reported by the Middle Ear Pressure Treatment Research Group of Japan. *Acta Otolaryngol.* 2011;131:277-283. IF 1.200

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：青木光広；科学研究費補助金基盤研究(C)：サーカディアンリズムからみたメニエール病病態の解明；平成 20—22 年度；3,220 千円(1,820：800：600 千円)
- 2) 研究代表者：青木光広，共同研究者：久世文也，林 寿光；山田養蜂場 みつばち研究助成基金：蜂の子成分によるメニエール病に対する治療効果の臨床的検証；平成 21 年度；1,600 千円
- 3) 研究代表者：青木光広，共同研究者：西堀丈純，長崎幸雄，江 依法；三井住友海上福祉財団研究助成：高齢者におけるウォーキング中のバランス制御関連筋群の中樞制御機構からみた平衡能力評価～歩行中の転倒防止・ウォーキングの効果向上のために～；平成 21 年度；600 千円
- 4) 研究代表者：柿木章伸，分担研究者：青木光広；厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業：自己免疫性内耳障害の実態把握のための多施設研究；平成 21 年度；1,000 千円

2) 受託研究

- 1) 水田啓介：頭頸部扁平上皮癌根治治療後の TS-1 補助化学療法 of の検討；平成 18—24 年度；1,365 千円；財団法人先端医療振興財団

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

伊藤八次：

- 1) 日本耳鼻咽喉科学会評議員(～現在)
- 2) 日本めまい平衡医学会理事(平成 21 年 11 月～現在)
- 3) 日本気管食道科学会評議員(～現在)
- 4) 耳鼻咽喉科臨床学会運営委員(～現在)
- 5) 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会評議員(～現在)
- 6) 日本口腔・咽頭科学会評議員(～現在)
- 7) 日本喉頭科学会評議員(～現在)
- 8) 日本嚥下医学会評議員(～現在)

水田啓介：

- 1) 日本耳鼻咽喉科学会評議員(～現在)
- 2) 日本めまい平衡医学会評議員(～現在)
- 3) 日本気管食道科学会評議員(～現在)
- 4) 日本めまい平衡医学会専門会員審査委員会委員(～現在)

青木光広：

- 1) 日本めまい平衡医学会評議員(～現在)

2) 学会開催

伊藤八次：

- 1) 第 136 回日本耳鼻咽喉科学会東海地方部会連合講演会(平成 21 年 3 月, 岐阜)
- 2) 第 34 回日本耳鼻咽喉科学会岐阜県地方部会総会ならびに学術講演会(平成 21 年 5 月, 岐阜)
- 3) 第 35 回日本耳鼻咽喉科学会岐阜県地方部会総会ならびに学術講演会(平成 22 年 5 月, 岐阜)
- 4) 第 143 回日本耳鼻咽喉科学会東海地方部会連合講演会(平成 22 年 12 月, 岐阜)
- 5) 第 36 回日本耳鼻咽喉科学会岐阜県地方部会総会ならびに学術講演会(平成 23 年 5 月, 岐阜)

加藤久和：

- 1) 第 55 回日本形成外科学会中部支部東海地方会(平成 22 年 2 月, 岐阜)
- 2) 第 56 回日本形成外科学会中部支部東海地方会(平成 22 年 10 月, 岐阜)

3) 学術雑誌

伊藤八次：

- 1) Equilibrium Research ; 編集担当理事(平成 23 年 12 月～現在)

青木光広：

- 1) 耳鼻咽喉科臨床 ; 編集委員(平成 21 年 1 月～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

伊藤八次：

- 1) 第 34 回日本耳鼻咽喉科学会岐阜県地方部会総会ならびに学術講演会(平成 21 年 5 月, 岐阜, 特別講演「ヒト乳頭腫ウイルスと頭頸部腫瘍」座長)
- 2) 第 35 回日本耳鼻咽喉科学会岐阜県地方部会総会並びに学術講演会(平成 22 年 5 月, 岐阜, 特別講演「内視鏡下副鼻腔手術—その基礎と応用—」座長)
- 3) 第 36 回日本耳鼻咽喉科学会岐阜県地方部会総会並びに学術講演会(平成 23 年 5 月, 岐阜, 特別講演「EB ウイルス発がんはどこまでわかったか」座長)

水田啓介：

- 1) 平成 20 年度大学病院情報マネジメント連絡会議(平成 21 年 1 月, 大分, シンポジウム「電子カルテと連動したクリニカルパス」演者)

青木光広：

- 1) 第 68 回日本めまい平衡医学会(平成 21 年 11 月, 徳島, 教育講演「自律神経とめまい」演者)
- 2) 第 70 回日本めまい平衡医学会(平成 23 年 11 月, 千葉, シンポジウム「前庭交感神経反射と起立性循環調節」演者)
- 3) 山田養蜂場みつばち研究助成基金健康セミナー(平成 23 年 12 月, 岡山, 「蜂の子の聴力改善・耳鳴への効果」演者)

久世文也：

- 1) 補聴器相談医更新講習会(平成 23 年 6 月, 愛知, 「補聴器相談医更新規則改定の案内と, 最近の補聴器販売におけるトラブル事例」演者)

加藤久和：

- 1) 第 35 回日本頭頸部癌学会(平成 23 年 6 月, 愛知, シンポジウム「上顎癌切除後の整容的再建の現状と課題」演者)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

伊藤八次：

- 1) 岐阜県社会福祉審議会委員(～現在)

- 2) 岐阜県新生児聴覚検査事業検討委員会委員(～現在)
- 3) 岐阜市社会福祉審議会委員(～現在)

水田啓介：

- 1) 岐阜県国民健康保険診療報酬審査委員会委員(～現在)

西堀丈純：

- 1) 岐阜市立幼稚園ことばの教室教育相談委員(～平成 21 年度)

出原啓一：

- 1) 岐阜市立幼稚園ことばの教室教育相談委員(平成 22 年度～現在)

10. 報告書

- 1) 青木光広, 浅井雅幸, 坂井田譲, 久世文也, 水田啓介, 伊藤八次：メニエール病の予後と発作期血漿バズプレッシン濃度の関連性：厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 前庭機能異常に関する調査研究 平成 20 年度総括・分担研究報告書：152-154(平成 21 年 3 月)
- 2) 青木光広, 西堀丈純, 浅井雅幸, 久世文也, 水田啓介, 伊藤八次, 宮田英雄：メニエール病に対する Meniett による中耳加圧療法の検討：厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 前庭機能異常に関する調査研究 平成 21 年度総括・分担研究報告書：182-185(平成 22 年 3 月)
- 3) 青木光広：自己免疫疾患関連性難聴および前庭障害に伴う循環調節障害に関する研究：厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 自己免疫性内耳障害の実態把握のための多施設研究 平成 21 年度研究報告書：8-10(平成 22 年 3 月)
- 4) 青木光広, 長崎幸雄, 西堀丈純, 江 依法：高齢者におけるウォーキング中のバランス制御関連筋群の中枢制御機構からみた平衡機能評価～歩行中の転倒防止・ウォーキングの効果向上のために～三井住友海上福祉財団 高齢者福祉部門 研究結果報告書：
http://www.ms-ins.com/welfare/shiryo2009/pdf/2_1_01.pdf (平成 23 年 1 月)
- 5) 青木光広, 若岡敬紀, 林 寿光, 久世文也, 水田啓介, 伊藤八次：メニエール病における神経内分泌ホルモン動態の検討：厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 前庭機能異常に関する調査研究 平成 22 年度総括・分担研究報告書：83-86(平成 23 年 3 月)

11. 報道

- 1) 水田啓介：病院の実力「頭頸部がん」：読売新聞(2009 年 1 月 11 日)
- 2) 水田啓介：花粉飛散関連記事：岐阜新聞(2009 年 2 月 8 日)
- 3) 水田啓介：ラジオ番組「すこやかモーニング」花粉症について：岐阜放送(2009 年 2 月 21, 28 日放送)
- 4) 伊藤八次：「耳の日」関連記事：岐阜新聞(2009 年 3 月 3 日)
- 5) 青木光広：紙上診察室：中日新聞(2009 年 4 月 24 日)
- 6) 青木光広：専門医に聞く「めまいのリハビリテーションに関する質問」：めまい疾患情報 Web サイト めまいナビ(2009 年 6 月 29 日～)
- 7) 伊藤八次：「鼻の日」関連記事：中日新聞(2009 年 8 月 7 日)
- 8) 伊藤八次：「耳の日」関連記事：岐阜新聞(2010 年 3 月 3 日)
- 9) 青木光広：バカ売れ「3D テレビ」は子供に見せると“バカ”になる！？：週刊新潮(2010 年 5 月 6・13 日号)
- 10) 青木光広：3D 映像は 2 歳児には見せるな：週刊朝日(2010 年 7 月 9 日号)
- 11) 青木光広：子供や妊婦, 高齢者は要注意? 3D テレビで健康被害の警告：週刊文春「THIS WEEK 生活」(2010 年 7 月 29 日号)
- 12) 伊藤八次：「鼻の日」関連記事：中日新聞(2010 年 8 月 7 日)
- 13) 伊藤八次：「耳の日」関連記事：岐阜新聞(2011 年 3 月 3 日)
- 14) 伊藤八次：「鼻の日」関連記事：中日新聞(2011 年 8 月 7 日)

12. 自己評価

評価

国内では全国レベルの耳鼻咽喉科関連学会で積極的に参加発表した。

欧文原著も本誌前号期間よりは増加できたが、十分とは言えない。

現状の問題点及びその対応策

ローテーション研修制度導入後の人員不足が解消できていない。研究は臨床と平行に行っており、癌患者などの重症な疾患の多い病棟の治療を進めながらの研究には時間的制約が多い。大学院生も社会人大学院生として臨床を維持しているので、基礎研究に必要な纏まった時間を確保できない現状である。

対応策として、基礎講座や他の研究機関との交流を密にして、人的物的資源の補完を図り学会・論文発表実績を増加させたい。

今後の展望

岐阜大学耳鼻咽喉科に蓄積されためまい平衡障害の研究成果を基礎に、めまい・平衡障害を中心とする研究を押し進める。メニエール病に代表される難治性めまい治療にフィードバックできる成果を挙げ、めまい平衡障害患者や高齢者の身体平衡機能改善に寄与する効果的平衡訓練方法開発を目標とする。また、頭頸部がんの治療戦略における機能温存を重点化し、関連する臨床研究を進める。

(8) 眼科学分野

1. 研究の概要

当教室は、緑内障をメインテーマとして据え、基礎および臨床研究を行っている。緑内障領域においては、その研究は多岐にわたっており、眼圧・視野・画像解析・薬物療法・手術療法・神経保護・網膜再生・遺伝子解析などに及ぶ。

1. VERIS を用いた多局所網膜電図, 多局所視覚誘発電位による緑内障早期発見ならびに重症度判定。
2. ICare rebound tonometer, Dynamic contour tonometer (DCT) など新しい眼圧計の評価。
3. 光干渉断層計 (OCT) を用いた, 緑内障における視神経ならびに網膜構造変化の解析。
4. 眼圧体位変動評価。
5. 様々な眼圧下降薬の臨床評価。
6. レーザーならびに手術療法の長期効果判定。
7. 緑内障遺伝子の同定。
8. ロービジョンケア。
9. 神経保護薬と目される薬物の評価 など

その他, 網膜硝子体疾患, 角膜疾患, 感染症, ぶどう膜炎など幅広い眼疾患において, 特殊と思われる症例では着実に学会発表ならびに論文報告を行っている。

2. 名簿

教授:	山本哲也	Tetsuya Yamamoto
准教授:	川瀬和秀	Kazuhide Kawase
准教授:	望月清文	Kiyofumi Mochizuki
講師:	青山裕美子	Yumiko Aoyama
助教:	澤田 明	Akira Sawada
助教:	末森晋典	Shinsuke Suemori
医員:	石澤聡子	Satoko Kokuzawa
医員:	宇土一成	Kazunari Udo
医員:	白木育美	Ikumi Shiraki
医員:	名倉章敏	Akitoshi Nagura
医員:	大家進也	Shinya Oie
医員:	山田博基	Hiroki Yamada
医員:	黒岩真友子	Mayuko Kuroiwa
医員:	諸戸尚也	Naoya Moroto

3. 研究成果の発表

著書 (和文)

- 1) 山本哲也. 時間軸で眼疾患を診ることの喜び: 眼科研修ノート, 東京: 診断と治療社; 2009年: 139.
- 2) 山本哲也, 谷原秀信. 緑内障: 現代の眼科学 改訂第10版 第10章, 東京: 金原出版; 2009年: 212-227.
- 3) 山本哲也. 晩発性濾過胞感染: 眼科プラクティス 28 眼感染症の謎を解く, 東京: 文光堂; 2009年: 188-189.
- 4) 望月清文. 内科的治療の総論: 眼科研修医ノート, 東京: 診断と治療社; 2009年: 24-25.
- 5) 川瀬和秀. 発型発達緑内障: 今日の眼科疾患治療指針, 東京: 医学書院; 2009年: 375-379.
- 6) 川瀬和秀. 遅発型発達緑内障: 今日の眼科疾患治療指針, 東京: 医学書院; 2009年: 379-381.
- 7) 川瀬和秀. 緑内障 眼科研修医ノート, 東京: 診断と治療社; 2009年: 330-337.
- 8) 山本哲也. 術中リカバリー: 新 ES Now 3 緑内障手術: これでバッチリ, 東京: メジカルビュー; 2010年: 52-59.
- 9) 山本哲也. 緑内障: 今日の診断指針 第6版, 東京: 医学書院; 2010: 1612-1613.
- 10) 山本哲也. 緑内障: 診療ガイドライン UP-TO-DATE 2010-2011, 大阪: メディカルレビュー; 2010年: 49-54.
- 11) 山本哲也, 三村 治. 目で診る緑内障・視神経疾患 80, 東京: メジカルビュー; 2010年: 11-14, 16-17, 34, 38, 52, 68-70.
- 12) 澤田 明. Standard Course Case 11-14: 山本哲也, 三村 治編. 目で診る 緑内障・視神経疾患, 東京: メジカルビュー; 2010年: 22-29.
- 13) 澤田 明. Standard Course Case 16, 17: 山本哲也, 三村 治編. 目で診る 緑内障・視神経疾患, 東京: メジカルビュー; 2010年: 32-35.

- 14) 澤田 明. Standard Course Case 25 : 山本哲也, 三村 治編. 目で診る 緑内障・視神経疾患, 東京 : メジカルビュー ; 2010年 : 50-51.
- 15) 澤田 明. Standard Course Case 28 : 山本哲也, 三村 治編. 目で診る 緑内障・視神経疾患, 東京 : メジカルビュー ; 2010年 : 56-57.
- 16) 澤田 明. Expert Course Case 34 : 山本哲也, 三村 治編. 目で診る 緑内障・視神経疾患, 東京 : メジカルビュー ; 2010年 : 70-71.
- 17) 澤田 明. Expert Course Case 38 : 山本哲也, 三村 治編. 目で診る 緑内障・視神経疾患, 東京 : メジカルビュー ; 2010年 : 78-79.
- 18) 澤田 明. Expert Course Case 56 : 山本哲也, 三村 治編. 目で診る 緑内障・視神経疾患, 東京 : メジカルビュー ; 2010年 : 114-115.
- 19) 澤田 明. Master Course Case 68-70 : 山本哲也, 三村 治編. 目で診る 緑内障・視神経疾患, 東京 : メジカルビュー ; 2010年 : 140-145.
- 20) 澤田 明. Master Course Case 79 : 山本哲也, 三村 治編. 目で診る 緑内障・視神経疾患, 東京 : メジカルビュー ; 2010年 : 162-163.
- 21) 望月清文. ぶどう膜炎による緑内障 : 山本哲也, 三村 治編. 目で診る緑内障・視神経疾患 80, 東京 ; メジカルビュー ; 2010年 : 124-125.
- 22) 望月清文. 原田病・後部強膜炎による緑内障 : 山本哲也, 三村 治編. 目で診る緑内障・視神経疾患 80, 東京 : メジカルビュー ; 2010年 : 134-134.
- 23) 望月清文. 感染性眼内炎, 今日の治療指針, 医学書院 ; 2010年 : 1170-1171.
- 24) 望月清文, 矢野啓子. 5) カンジダ眼内炎の治療～眼科的検査を含む～ : 河野 茂編. IDSA ガイドライン 真菌症治療の UP-TO-DATE, 医薬ジャーナル ; 2010年 : 156-162.
- 25) 望月清文. G. 眼科領域感染症. 4. ウイルス感染症 : 松田 暉, 荻原俊男, 難波光義, 鈴木久美, 林 直子編. 看護学テキスト NICE. 疾病と治療, 南江堂 ; 2010年 : 281-285.
- 26) 川瀬和秀. 毛様体手術 : 緑内障手術 これでバッチリ ! ES NOW, 東京 : メジカルビュー ; 2010年 : 124-127.
- 27) 川瀬和秀. 隅角切開術 : 緑内障手術 これでバッチリ ! ES NOW, 東京 : メジカルビュー ; 2010年 : 128-131.
- 28) 川瀬和秀. 目で診る 緑内障・視神経疾患 80, 東京 : メジカルビュー ; 2010年 : Case7, 15, 41, 55, 62, 64.
- 29) 川瀬和秀. 眼科検査のグーティ・セアウトン この検査ではここが見えない 4 緑内障 眼圧検査 : 眼圧測定に影響する因子と眼圧の自然変動, 東京 : シナジー ; 2010年 : 140-143.
- 30) 川瀬和秀. 眼のサイエンス 視覚の不思議 III 前房, 隅角, 水晶体 なぜステロイド薬で眼圧は上がるのか?, 東京 : 文光堂 ; 2010年 : 86-88.
- 31) 川瀬和秀. 緑内障 薬物療法 : 私はこう治療している 今日の治療指針, 医学書院 ; 2010年 : 1171-1173.
- 32) 澤田 明. V 緑内障手術 濾過手術 : 新 ES NOW6 きれいな小児眼科手術 これであなたも悩まない!, 東京 : メジカルビュー ; 2010年 : 32-35.
- 33) 山本哲也. 小児緑内障手術の特殊性 : 新 ES Now 6 きれいな小児眼科手術 これであなたも悩まない!, 東京 : メジカルビュー ; 2011年 : 110-111. (編集も担当)
- 34) 山本哲也, 近藤武久. 緑内障の隅角所見 : 眼科学 第2版, 東京 : 文光堂 ; 2011年 : 173-177.
- 35) 山本哲也. 緑内障の病型鑑別診断 : 眼科学 第2版, 東京 : 文光堂 ; 2011年 : 191-193.
- 36) 山本哲也. 緑内障の治療方針 : 眼科学 第2版, 東京 : 文光堂 ; 2011年 : 194-195.
- 37) 山本哲也. 隅角検査と前眼部画像解析 : 眼科学 第2版, 東京 : 文光堂 ; 2011年 : 932-933.
- 38) 澤田 明. V 緑内障手術 隅角切開術 : 新 ES NOW6 きれいな小児眼科手術 これであなたも悩まない!, 東京 : メジカルビュー ; 2011年 : 120-123.

著書 (欧文)

- 1) Yamamoto T, Rojanapongpun P, Park KH eds. Atlas of Angle Closure Glaucoma. Seoul, Korea: Newest Medicine Publications; 2010(編集担当).
- 2) Yamamoto T, Rojanapongpun P, Park KH: Preface. In: Yamamoto T, Rojanapongpun P, Park KH eds. Atlas of Angle Closure Glaucoma. iii, Seoul, Korea: Newest Medicine Publications; 2010(執筆担当).
- 3) Sawada A, Yamamoto T. Atlas of Angle Closure Glaucoma In: Yamamoto T, Rojanapongpun P, Park KH ed. II. Ultrasound Biomicroscopy (UBM). Seoul, Korea: Newest Medicine Publications; 2010: 29-37.

総説 (和文)

- 1) 山本哲也, 新家眞, 岩瀬愛子, 北澤克明, 日本緑内障学会多治見スタディグループ. 日本緑内障学会多治見市民眼科検診 一般検診対象研究の総括, 日眼会誌 2009年 ; 113巻 : 569-575.
- 2) 山本哲也. 日本緑内障学会による「緑内障診療ガイドライン(第2版)」の要点, あたらしい眼科 2009年 ; 26巻 : 895-898.
- 3) 山本哲也. 緑内障, からだの科学 2009年 ; 263巻 : 56-59.
- 4) 山本哲也. 緑内障患者の望ましい管理法, 日眼会誌 2009年 ; 113巻 : 949-950.
- 5) 山本哲也. 日本と諸外国の疫学調査結果の比較, 臨眼 2009年 ; 63巻(臨増) : 194-199.
- 6) 望月清文. 緑内障セミナー 107 濾過胞感染症の背景, あたらしい眼科 2009年 ; 26巻 : 645-646.
- 7) 澤田 明, 栗本康夫. 緑内障診療—グレーゾーンを越えて II, 治療編 4. 閉塞隅角緑内障と原発閉塞隅角

- 症《マイオピニオン》急性原発閉塞隅角症の治療選択, 臨床眼科 2009年; 11巻: 322-335.
- 8) 澤田 明. 視野が欠ける 緑内障による視野異常, あたらしい眼科 2009年; 12巻: 622-1626.
 - 9) 川瀬和秀. Summing Up 緑内障の手術. *Frontiers in Glaucoma* 2009年; 10巻: 28-143.
 - 10) 川瀬和秀. 【緑内障診療 グレーゾーンを越えて】, 治療編 開放隅角緑内障 手術 線維柱帯切除術のポイント, 臨床眼科 2009年; 63巻: 280-286.
 - 11) 川瀬和秀. 【必読!眼科救急外来】 緑内障 濾過手術後の感染症, 眼科 2009年; 51巻: 1335-1339.
 - 12) 川瀬和秀. 【緑内障の遺伝要因(内的因子)と環境要因(外的因子)】 発達緑内障, 眼科 2009年; 51巻: 643-648.
 - 13) 山本哲也. 原発閉塞隅角緑内障のアジアの現状と日本, 医学のあゆみ 2010年; 234巻: 282-285.
 - 14) 山本哲也. 副腎皮質ステロイド薬の眼局所副作用, 日医雑誌 2010年; 139巻: 1636.
 - 15) 山本哲也. 正常眼圧緑内障, 総合臨床 2010年; 59巻: 2477-2478.
 - 16) 大楠清文, 望月清文, 江崎孝行. 2. 眼感染症トピックス. 1) 眼感染症迅速診断のための遺伝子検査の適応と実践. *Medical Technology* 2010年; 38巻: 565-572.
 - 17) 望月清文. 巻頭言 緑内障治療と感染, 日眼会誌 2010年; 114巻: 573-575.
 - 18) 望月清文. 抗微生物薬, あたらしい眼科 2010年; 27巻: 1363-1370.
 - 19) 川瀬和秀. 【原発開放隅角緑内障(広義) 私の管理法】 原発開放隅角緑内障(狭義)の治療戦略 ケーススタディ あたらしい眼科 2010年; 27巻: 1045-1049.
 - 20) 川瀬和秀. 眼科の新しい検査法 IV 緑内障 18 視野解析ソフトについて教えてください あたらしい眼科 2010年; 27巻: 223-228.
 - 21) 山本哲也. 目の充血, 日本医師会雑誌 2011年; 140(S2): S253-S256.
 - 22) 川瀬和秀. 【光干渉断層計(OCT)の緑内障への応用】「Cirrus HD-OCT」, あたらしい眼科 2011年; 28巻: 785-793.
 - 23) 川瀬和秀. 【「緑内障研究の進歩」をより理解するために】「原発開放隅角緑内障(広義)への挑戦 臨床的諸問題とその科学的解決 原発開放隅角緑内障(広義)の臨床的諸問題と基礎研究」, 日本の眼科 2011年; 82巻: 284-289.
 - 24) 澤田 明. 緑内障セミナー緑内障術後の眼圧体位変動, あたらしい眼科 2011年; 28巻: 1437-1438.

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 堀 暢英, 望月清文, 石田恭子, 山本哲也, 三嶋廣繁. 線維柱帯切除術後の濾過胞感染症の危険因子と治療予後, 日眼会誌 2009年; 113巻: 951-963.
- 2) 川上秀昭, 犬塚裕子, 中村 博, 高橋 健, 武藤敏弘, 望月清文, 澤村治樹, 大楠清文, 勝村直樹, 末松寛之. ノカルジアが起炎菌と思われた内因性眼内炎の2例, 眼科 2009年; 51巻: 1663-1669.
- 3) 堀由起子, 望月清文, 村瀬寛紀, 末松寛之, 山岸由佳, 三嶋廣繁. 外眼部感染症における検出菌とその薬剤感受性に関する検討(1998~2006年), 日眼会誌 2009年; 113巻: 583-595.
- 4) 鈴木 崇, 白石 敦, 宇野敏彦, 江口秀一郎, 勝海 修, 望月清文, 井上 康, 岡宮史武, 宮田和典, 大橋裕一. 洗面所における微生物汚染調査, あたらしい眼科 2009年; 26巻: 1387-1391.
- 5) 小森伸也, 小國 務, 末森晋典, 望月清文, 林 裕子, 高橋優三. 岐阜県内で感染したと推定される東洋眼虫のヒト結膜嚢内寄生例, あたらしい眼科 2009年; 26巻: 1401-1404.
- 6) 川瀬和秀, 山本哲也, 村松友幸, 小野純治, 中島 徹, 松久充子, 杉浦寅男, 右田雅義, 石川裕二. カルテオロール塩酸塩 2%持続性点眼液の第IV相試験-眼圧下降作用, 安全性および血漿中カルテオロール濃度の検討-, 日眼会誌 2010年; 114巻: 976-982.
- 7) 鶴岡三恵子, 安藤伸朗, 白木邦彦, 川瀬和秀, 西田朋美, 仲泊 聡. 全国の眼科教授におけるロービジョンに対する意識調査 眼科臨床紀要 2010年; 3巻: 1250-1254.
- 8) 末森晋典, 澤田 明, 小國 務, 小森伸也, 大江直行, 望月清文. 眼窩骨を貫通する形態を呈した類皮嚢胞の1例, 眼科臨床紀要 2010年; 6巻: 548-551.
- 9) 川上秀昭, 丹羽義明, 澤田 明, 望月清文, 山本哲也. 正常眼圧緑内障症例におけるカリジノゲナーゼ(カルナクリン®)の眼窩血流動態に及ぼす影響, 眼科臨床紀要 2011年; 4巻: 531-536.
- 10) 川上秀昭, 末森晋典, 望月清文, 堅田利彦. 白内障術後眼内炎の発症および予後に影響する因子の検討, 臨床眼科 2011年; 65巻: 63-69.

原著 (欧文)

- 1) Karim MZ, Sawada A, Mizuno K, Kawakami H, Ishida K, Yamamoto T. Neuroprotective effect of nipradilol [3,4-dihydro-8-(2-hydroxy-3-isopropylamino)-propoxy-3-nitroxy-2H-1-benzopyran] in a rat model of optic nerve degeneration. *J Glaucoma*. 2009;18:26-31. IF 1.533
- 2) Mochizuki K, Kumada M, Suemori S, Kawakami H, Sawada A, Yamamoto T, Mikamo H. Streptococcus intermedius-associated late-onset endophthalmitis after trabeculectomy with adjunctive mitomycin C. *J Glaucoma*. 2009;18:79-80. IF 1.533
- 3) Murase H, Sawada A, Mochizuki K, Yamamoto T. Effects of corneal thickness on intraocular pressure measured with three different tonometers. *Jpn J Ophthalmol*. 2009;53:1-6. IF 1.054
- 4) Abe H, Shirakashi M, Tsutsumi T, Araie M, Tomidokoro A, Iwase A, Tomita G, Yamamoto T, Tajimi

- Study Group. Laser Scanning Tomography of Optic Discs of the Normal Japanese Population in a Population-Based Setting. *Ophthalmology*. 2009;116:223-230. IF 5.017
- 5) Muramatsu C, Nakagawa T, Sawada A, Fukuta K, Hatanaka Y, Yamamoto T, Fujita H. Determination of cup region in optic nerve head by use of stereo fundus image pairs for diagnosis of glaucoma. *IEICE Technical Report*. 2009;108:59-62. IF 4.004
 - 6) Muramatsu C, Hatanaka Y, Nakagawa T, Sawada A, Fujita H, Yamamoto T. Investigation of the glaucoma risk assessment based on the clinical data obtained in the screening exams. *IEICE Technical Report*. 2009;108:603-604. IF 4.004
 - 7) Kamio M, Meguro A, Ota M, Kashiwagi K, Mabuchi F, Iijima H, Kawase K, Yamamoto T, Nakamura M, Negi A, Sagara T, Nishida T, Inatani M, Tanihara H, Aihara M, Araie M, Fukuchi T, Abe H, Higashide T, Sugiyama K, Kanamoto T, Kiuchi Y, Iwase A, Ohno S, Inoko H, Mizuki N. Investigation of the association between the GLC3A locus and normal tension glaucoma in Japanese patients by microsatellite analysis. *Clin Ophthalmol*. 2009;3:183-188. IF 1.766
 - 8) Nakamura K, Ota M, Meguro A, Nomura N, Kashiwagi K, Mabuchi F, Iijima H, Kawase K, Yamamoto T, Nakamura M, Negi A, Sagara T, Nishida T, Inatani M, Tanihara H, Aihara M, Araie M, Fukuchi T, Abe H, Higashide T, Sugiyama K, Kanamoto T, Kiuchi Y, Iwase A, Ohno S, Inoko H, Mizuki N. Association of microsatellite polymorphisms of the GPDS1 locus with normal tension glaucoma in the Japanese population. *Clin Ophthalmol*. 2009;3:307-312. IF 1.766
 - 9) Lin W, Aoyama Y, Kawase K, Yamamoto T. Relationship between central corneal thickness and visual field defect in open-angle glaucoma. *Jpn J Ophthalmol*. 2009;53:477-481. IF 1.054
 - 10) Nakamura J, Meguro A, Ota M, Nomura E, Nishide T, Kashiwagi K, Mabuchi F, Iijima H, Kawase K, Yamamoto T, Nakamura M, Negi A, Sagara T, Nishida T, Inatani M, Tanihara H, Aihara M, Araie M, Fukuchi T, Abe H, Higashide T, Sugiyama K, Kanamoto T, Kiuchi Y, Iwase A, Ohno S, Inoko H, Mizuki N. Association of toll-like receptor 2 gene polymorphisms with normal tension glaucoma. *Mol Vis*. 2009;15:2905-2910. IF 2.511
 - 11) Sawada A, Mochizuki K, Katada T, Kawakami H, Yamamoto T, Mikamo H, Watanabe K. *Gemella* species-associated late-onset endophthalmitis after trabeculectomy with adjunctive mitomycin C. *J Glaucoma*. 2009;18:496-497. IF 1.533
 - 12) Shimazawa M, Suemori S, Inokuchi Y, Matsunaga N, Nakajima Y, Oka T, Yamamoto T, Hara H. A novel calpain inhibitor, ((1S)-1((((1S)-1-benzyl-3-cyclopylamino-2,3-di-oxopropyl) amino) carbonyl)-3-methylbutyl) carbamic acid 5-methoxy-3-oxapentyl ester (SNJ-1945), reduces murine retinal cell death in vitro and in vivo. *Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics (JPET)*. 2010;332:380-387. IF 4.017
 - 13) Muramatsu C, Hayashi Y, Sawada A, Hatanaka Y, Hara T, Yamamoto T, Fujita H. Detection of retinal nerve fiber layer defects on retinal fundus images for early diagnosis of glaucoma. *J Biomed Opt*. 2010;15: 1-10. IF 3.188
 - 14) Aoyama A, Ishida K, Sawada A, Yamamoto T. Target intraocular pressure for stability of visual field loss progression in normal-tension glaucoma. *Jpn J Ophthalmol*. 2010;54:117-123. IF 1.054
 - 15) Chi ZL, Akahori M, Obazawa M, Minami M, Noda T, Nakaya N, Tomarev S, Kawase K, Yamamoto T, Noda S, Sasaoka M, Shimazaki A, Takada Y, Iwata T. Overexpression of optineurin E50K disrupts Rab8 interaction and leads to a progressive retinal degeneration in mice. *Hum Mol Genet*. 2010 19:2606-2615. IF 8.058
 - 16) Writing Committee for the Normal Tension Glaucoma Genetic Study Group of Japan Glaucoma Society, Meguro A, Inoko H, Ota M, Mizuki N, Bahram S. Genome-wide association study of normal tension glaucoma: common variants in SRBD1 and ELOVL5 contribute to disease susceptibility. *Ophthalmology* 2010;117:1331-1338. IF 5.017
 - 17) Murakami K, Meguro A, Ota M, Shiota T, Nomura N, Kashiwagi K, Mabuchi F, Iijima H, Kawase K, Yamamoto T, Nakamura M, Negi A, Sagara T, Nishida T, Inatani M, Tanihara H, Aihara M, Araie M, Fukuchi T, Abe H, Higashide T, Sugiyama K, Kanamoto T, Kiuchi Y, Iwase A, Ohno S, Inoko H, Mizuki N. Analysis of microsatellite polymorphisms within the GLC1F locus in Japanese patients with normal tension glaucoma. *Mol Vis*.2010;16:462-466. IF 2.511
 - 18) Suzuki M, Meguro A, Ota M, Nomura E, Kato T, Nomura N, Kashiwagi K, Mabuchi F, Iijima H, Kawase K, Yamamoto T, Nakamura M, Negi A, Sagara T, Nishida T, Inatani M, Tanihara H, Aihara M, Araie M, Fukuchi T, Abe H, Higashide T, Sugiyama K, Kanamoto T, Kiuchi Y, Iwase A, Ohno S, Inoko H, Mizuki N. Genotyping HLA-DRB1 and HLA-DQB1 alleles in Japanese patients with normal tension glaucoma. *Mol Vis*. 2010;16: 1874-1879. IF 2.511
 - 19) Kawase K, Lin W, Aoyama Y, Yamamoto T, Shimazawa M, Hara H. Effects of timolol-related ophthalmic solutions on cultured human conjunctival cells. *Jpn J Ophthalmol* 2010;54:615-621. IF 1.054
 - 20) Mochizuki, K, Sawada A, Katsumura N. Case of Lacrimal Gland Inflammation Associated with Ulcerative Colitis. *Int Ophthalmol*. 2010;30:109-111.
 - 21) Kawakami H, Sawada A, Mochizuki K, Takahashi K, Muto T, Ohkusu K. Endogenous Nocardia farcinica endophthalmitis. *Jpn J Ophthalmol*. 2010;54:164-166. IF 1.054
 - 22) Komori S, Sawada A, Oguni T, Mochizuki K, Ohkusu K. Case of endophthalmitis following intravitreal

- injections of bevacizumab. Clin Ophthalmol. 2010;4:773-775. IF 1.766
- 23) Suemori S, Sawada A, Komori S, Mochizuki K, Ohkusu K, Takemura H. Case of endogenous endophthalmitis by caused Streptococcus equisimilis. Clin Ophthalmol. 2010;4:917-918. IF 1.766
- 24) Muramatsu C, Nakagawa T, Sawada A, Hatanaka Y, Hara T, Yamamoto T, Fujita H. Automated segmentation of optic disc region on retinal fundus photographs: comparison of contour modeling and pixel classification methods. Comput Methods Programs Biomed. 2011;101:23-32. IF 1.238
- 25) Yamamoto T, Kuwayama Y. The collaborative bleb-related infection incidence and treatment study group. Interim clinical outcomes in the collaborative bleb-related infection incidence and treatment study. Ophthalmology. 2011;118:453-458. IF 5.017
- 26) Yasumura R, Meguro A, Ota M, Nomura E, Uemoto R, Kashiwagi K, Mabuchi F, Iijima H, Kawase K, Yamamoto T, Nakamura M, Negi A, Sagara T, Nishida T, Inatani M, Tanihara H, Aihara M, Araie M, Fukuchi T, Abe H, Higashide T, Sugiyama K, Kanamoto T, Kiuchi Y, Iwase A, Ohno S, Inoko H, Mizuki N. Investigation of the association between SLC1A3 gene polymorphisms and normal tension glaucoma. Mol Vis. 2011;17:792-796. IF 2.511
- 27) Muramatsu C, Hatanaka Y, Sawada A, Yamamoto T, Fujita H. Computerized detection of peripapillary chorioretinal atrophy by texture analysis. Proceedings of the 33rd Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society. 2011:5947-5950.
- 28) Hatanaka Y, Noudo A, Muramatsu C, Sawada A, Hara T, Yamamoto T, Fujita H. Automatic measurement of cup to disc ratio based on line profile analysis in retinal images. Proceedings of the 33rd Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society. 2011:3387-3390.
- 29) Muramatsu C, Nakagawa T, Sawada A, Hatanaka Y, Yamamoto T, Fujita H: Automated determination of cup-to-disc ratio for classification of glaucomatous and normal eyes on stereo retinal fundus images. J Biomed Optics. 2011;16:096009-1-7. IF 3.188
- 30) Kiyofumi M, Shinsuke S, Kazunari U, Shinya K, Kiyofumi O, Noriaki Y, Shinji O. Intraocular Penetration of Micafungin in Patient with Candida albicans Endophthalmitis. J Ocul Pharmacol Ther. 2011;27:531-533. IF 1.609

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：山本哲也，研究分担者：川瀬和秀，澤田 明，望月清文；学術研究助成基金助成金基盤研究(C)：緑内障の治療予後改善による失明の予防；平成 23—25 年度；4,000 千円(1,800：1,300：900 千円)

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

山本哲也：

- 1) 日本眼科学会理事(平成 23 年 6 月～現在)
- 2) 日本眼科学会戦略企画会議第四委員会委員長(平成 23 年 7 月～現在)
- 3) 日本眼科学会評議員(～現在)
- 4) 日本眼科学会専門医制度生涯教育委員会専門委員(平成 21 年度～現在)
- 5) 日本緑内障学会理事(～現在)
- 6) 日本緑内障学会評議員(～現在)
- 7) 日本緑内障学会データ解析委員会委員(～現在)
- 8) 日本緑内障学会将来計画検討委員会委員(～現在)
- 9) 日本眼科手術学会理事(～平成 22 年 1 月)
- 10) 日本眼薬理学会評議員(～現在)
- 11) Glaucoma Research Society, Executive Committee Member(～平成 22 年 4 月)

- 12) World Glaucoma Association, Cochairman of the WGA Committee on Global Research and Screening(～現在)
- 13) World Glaucoma Association, Member of the WGA Code of Practice Committee(～現在)
- 14) Asian Angle-closure Glaucoma Club, President(～現在)
- 15) South Asia Glaucoma Interested Group, board member(平成 21 年 7 月～現在)

川瀬和秀：

- 1) 日本緑内障学会評議員(～現在)
- 2) 日本ロービジョン学会評議員(～現在)
- 3) 日本眼薬理学会評議員(平成 23 年度～現在)

2) 学会開催

- 1) 第 423 回東海眼科学会(平成 23 年 6 月 23 日, 岐阜市)

3) 学術雑誌

山本哲也：

- 1) Japanese Journal of Ophthalmology ; Executive Editor (平成 21 年 7 月～現在)
- 2) Asian Journal of Ophthalmology ; Editor (～現在)
- 3) 日本眼科学会雑誌；編集委員(平成 21 年 6 月～現在)
- 4) あたらしい眼科；編集委員(～現在)
- 5) 岐阜県医師会医学雑誌；編集委員(～現在)
- 6) Korean Journal of Ophthalmology ; Advisory Editorial Board Member(平成 22 年 2 月～現在)
- 7) Taiwan Journal of Ophthalmology ; International Editorial Board Member(平成 23 年 5 月～現在)

7. 学会招待講演, 招待シンポジスト, 座長

山本哲也：

- 1) 第 32 回日本眼科手術学会(平成 21 年 1 月, 神戸, 教育セミナー17 トラベクトミー 難治例への対応と合併症対策. 「緑内障手術—トラブルシューティング」教育講演演者)
- 2) Taiwan Academy of Ophthalmology Spring Meeting 2009(2009.03, Taipei, Taiwan Clinical consensus toward glaucoma management : Japan Glaucoma Guidelines ; Invited speaker)
- 3) Taiwan Academy of Ophthalmology Spring Meeting 2009(2009.03, Taipei, Taiwan Japan experience of normal-tension glaucoma and its treatment ; Invited speaker)
- 4) APAO-AAO Joint Congress Bali 2009(2009.05, Bali, Indonesia Symposium : von Graefe Society - non-pressure dependent mechanisms in glaucoma : Does diurnal variation of IOP differ in NTG from the normal population? ; Invited speaker)
- 5) Fudan University 五官科病院特別講演会(2009.06, Shanghai, China, Normal-tension glaucoma: Wat we found and how to manage it ; Invited speaker)
- 6) World Glaucoma Congress(2009.07, Boston, USA, Japan-Taiwan Roundtable Discussion: Has change really occurred? PAS observation during the last 20 years. Primary angle closure -Asian perspectives ; Invited speaker)
- 7) World Glaucoma Congress(2009.07, Boston, USA, Japan-Taiwan Roundtable Discussion: Primary angle closure -Asian perspectives ; co-organizer, co-chairman)
- 8) World Glaucoma Congress(2009.07, Boston, USA, Didactic Session#6 ; co-organizer, co-chairman)
- 9) 第 30 回東海緑内障の会(平成 21 年 7 月, 名古屋, 30 周年記念シンポジウム「緑内障薬物治療の最前線」座長)
- 10) 第 20 回日本緑内障学会(平成 21 年 11 月, 沖縄県・宜野湾市, 会長企画シンポジウム「チャンプルー・グラウcoma」共同座長)
- 11) The 7th AACGC Meeting(2009.12, Kuala Lumpur, Malaysia, Key Address : Prof. Prin Rojanapongpun, chairman)
- 12) 第 114 回日本眼科学会総会(平成 22 年 4 月, 名古屋, 依頼講演「開放隅角緑内障のスクリーニング 2 眼圧と視野を中心に. 教育セミナー「緑内障のスクリーニング」演者)
- 13) 第 114 回日本眼科学会総会(平成 22 年 4 月, 名古屋, 依頼講演「サブスペシャリティサンダー「緑内

- 障・視神経症」緑内障診療（検査・診断）のアップデート」演者)
- 14) What is new about TAFLOTAN - Basic aspects and Non clinical studies-. Taflotan launching symposium(2010.06, Seoul, Korea, Invited speaker)
 - 15) 第 21 回日本緑内障学会(平成 22 年 9 月, 福岡, データ解析委員会特別セッション「濾過胞感染調査 2 研究の現状」)
 - 16) No. 2010 MSD Korea-Japan Glaucoma Symposium.(2010.09, Busan, Korea, Should blood flow concept be considered in the treatment of glaucoma in clinical settings? ; Invited speaker)
 - 17) APAO-AAO Joint Congress Beijing 2010(2010.09, Beijing, China, Subspecialty day program : GON & autoimmunity, and beyond ; Invited speaker)
 - 18) APAO-AAO Joint Congress Beijing 2010(2010.09, Beijing, China, Pfizer lunch symposium : Fundamentals of glaucoma management –The importance of early, accurate diagnosis ; Invited speaker)
 - 19) APAO-AAO Joint Congress Beijing 2010(2010.09, Beijing, China, SEAGIG Symposium : Imaging technology will replace gonioscopy’ Yes! ; Invited speaker)
 - 20) The 51st Annual Meeting of the Ophthalmological Society of Taiwan(2010.12, Taipei, Taiwan, Glaucoma Special Lectures : Relationship between central corneal thickness and visual field abnormality in open-angle glaucoma ; Invited speaker)
 - 21) Glaucoma in Japan. Asia-Pacific Joint Glaucoma Congress(2010.12, Taipei, Taiwan, Symposium 9 : Burden of Glaucoma Preventive Strategies ; Invited speaker)
 - 22) 第 34 回日本眼科手術学会(平成 23 年 1 月, 京都, 「シンポジウム 5 小児の緑内障手術. 適応と手術手技, 成績 : ゴニオトミー」シンポジスト)
 - 23) Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Sydney 2011(2011.03, Sydney, Australia, Course 3 – Controversies in NTG: Pathogenesis and Treatment, Normal tension glaucoma: surgical vs. medical treatment; Invited speaker)
 - 24) Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Sydney 2011(2011.03, Sydney, Australia, Course 3 – Controversies in NTG: Pathogenesis and Treatment; co-chairman)
 - 25) Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Sydney 2011(2011.03, Sydney, Australia, AOGS symposium –Something old and something new, Trabeculectomy: Update on bleb related complications; Invited speaker)
 - 26) 第 115 回日本眼科学会総会(平成 23 年 5 月, 東京, 「サブスペシャルサンディ緑内障・視神経症」ディレクター・モデレーター)
 - 27) World Glaucoma Congress 2011(2011.06-07, Paris, France, Symposium on Glaucoma progression, Should clinical therapy be advanced following optic disc hemorrhage?; Invited speaker)
 - 28) World Glaucoma Congress 2011(2011.06-07, Paris, France, Symposium on Normal tension glaucoma, Should NTG be treated differently than HTG? Pro; Invited speaker)
 - 29) World Glaucoma Congress 2011(2011.06-07, Paris, France, Symposium on Normal tension glaucoma; Co-chairman)
 - 30) 第 22 回日本緑内障学会(平成 23 年 9 月, 秋田, 「シンポジウム 4 隅角閉塞のメカニズムを考える プラトー虹彩と第 4 のメカニズム」指名討論者)
 - 31) 第 22 回日本緑内障学会(平成 23 年 9 月, 秋田, 「シンポジウム 4 隅角閉塞のメカニズムを考える」共同座長)
 - 32) The 52nd Annual Meeting of the Ophthalmological Society of Taiwan(2011.11, Taipei, Taiwan, Glaucoma Special Lectures : Bleb-related Infection. A serious complication of filtering surgery ; Invited speaker)

望月清文 :

- 1) 第 32 回日本眼科手術学会総会(平成 21 年 1 月, シンポジウム トラベクレクトミー後の眼内炎の診断と治療「術後眼内炎—診断と治療」シンポジスト)
- 2) 第 54 回日本臨床視覚電気生理学学会(平成 21 年 10 月, シンポジウム・緑内障の視機能を電気生理で評価する「多局所 ERG で緑内障の視機能を評価する」シンポジスト)
- 3) 第 57 回日本化学療法学会西日本支部総会および第 52 回日本感染症学会中日本地方会学術集会(平成 21 年 11 月, 教育セミナー「眼科セッション」座長)

川瀬和秀：

- 1) 第 32 回日本眼科手術学会(平成 22 年 1 月, 東京, 教育セミナー「緑内障とロービジョンケア」 「視野障害と手術」シンポジスト)
- 2) 第 114 回日本眼科学会総会(平成 22 年 4 月, 名古屋, サブスペシャルサンデー「緑内障治療(病型別)のアップデート 原発開放隅角緑内障(広義)初期」シンポジスト)
- 3) 第 21 回日本緑内障学会(平成 22 年 9 月, 福岡, シンポジウム「アジアの緑内障疫学調査 Comparison of several glaucoma surveys 3 Miscellaneous issues」シンポジスト)
- 4) 第 21 回日本緑内障学会(平成 22 年 9 月, 福岡, シンポジウム「緑内障治療薬の科学」オーガナイザー)
- 5) 第 21 回日本緑内障学会(平成 22 年 9 月, 福岡, 「基礎研究 ポスター」座長)
- 6) 第 33 回日本眼科手術学会(平成 23 年 1 月, 京都, 教育セミナー「眼科術者にとって必要なロービジョンケアの知識」「末期緑内障のロービジョンケア」シンポジスト)
- 7) 第 423 回東海眼科学会(平成 23 年 6 月, 岐阜, 座長)
- 8) 第 22 回日本緑内障学会(平成 23 年 9 月, 秋田, 「ポスター7 症例報告」座長)
- 9) 第 65 回日本臨床眼科学会(平成 23 年 10 月, 東京, インストラクションコース「アッという間に迫る, 電子カルテ・部門システムリプレイスからのサバイバル」「電子カルテ・眼科部門システムリプレイス経験からの提案」シンポジスト)

8. 学術賞等の受賞状況

なし

9. 社会活動

山本哲也：

- 1) 日本失明予防協会研究助成選考委員会委員(～現在)
- 2) 岐阜県社会福祉審議会委員(～現在)
- 3) 岐阜市社会福祉審議会委員(～現在)
- 4) 国民年金障害審査委員(～現在)
- 5) 岐阜県ジンアイバンク協会副理事長(平成 23 年度～現在), 理事(～現在)

10. 報告書

なし

11. 報道

- 1) 山本哲也：健康欄：中日新聞(2009 年 12 月 4 日)
- 2) 山本哲也：高眼圧症：読売新聞(2011 年 6 月 12 日)

12. 自己評価

評価

ここ数年間の最大の問題点であった医局員数の減少には歯止めがかかった。しかしながら、眼科学の進歩に伴う臨床業務量の増加に対して現在の医局員数は少ないと言わざるを得ない。その中で、臨床的活動、学会活動、論文作成など努力を十分に重ね一定の成果をあげていると自己評価する。

現状の問題点及びその対応策

医局員減少に伴う臨床業務時間の相対的増加により、医学研究に充てる時間が減少した。このため、臨床業務に制限を設け、相対的に研究時間の増加について模索している。また、岐阜大学のほかの基礎講座や他研究機関と共同研究の促進などを行っている。

今後の展望

よりよい研究成果を求める上で、医師ひとりひとりの臨床業務にゆとりを持たせることは絶対的に必要である。したがって新入医局員の誘致がそれを達成する上で必要不可欠であると考え。それが改善されない限り、人材を育成することを含め現状を打破することは難しい。

(9) 脳病態解析学（連携大学院）分野

1. 研究の概要

交通事故による脳損傷に起因する遷延性意識障害をはじめとする各種脳疾患の病態解析、診断、治療を目的とした研究領域において、国立大学法人岐阜大学、独立行政法人自動車事故対策機構、社会医療法人厚生会木沢記念病院はそれぞれが有する人材、機器、手法を有機的に融合させ国際的に先導できる学術的分野の開発を目指し、本連携大学院が中部療護センターに設置されました。医師を含めた医療関係者を対象に大学院生として医学博士取得を目的とした教育と研究（博士課程）を行ないます。PET (FDG, methionine, choline, DOPA, H₂O, CO₂, PIB 等のトレーサーを使用), 3T MRI (通常画像, MRS, fMRI, tensor image, ADC 等), SPECT を用いた画像の解析を主軸に、頭部外傷後遷延性意識障害および高次脳機能障害患者の脳の形態と脳代謝機能の評価、頭部外傷後遷延性意識障害および高次脳機能障害患者の治療（リハビリテーション, 薬物, 外科的介入）効果の評価, 脳腫瘍の画像診断, 脳腫瘍の治療効果の評価, 放射線壊死の診断と評価に関する研究を行います。

2. 名簿

教授： 篠田 淳 Jun Shinoda
准教授： 浅野好孝 Yoshitaka Asano

3. 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 篠田 淳. 核医学検査：松谷雅生, 藤巻高光監修. 脳・神経・脊髄イラストレテッド 一病態生理とアセスメント, 月刊ナーシング 4 増刊号, 東京：学研；2009 年：192-195.
- 2) 篠田 淳. 核医学検査：松谷雅生, 藤巻高光監修. 脳・神経・脊髄イラストレテッド 一病態生理とアセスメント, 東京：学研；2010 年：184-187.
- 3) 篠田 淳, 浅野好孝, 竹中俊介, 秋 達樹. ¹¹C-methionine PET による脳腫瘍診断：米倉義晴編集主幹. 臨床医とコメディカルのための最新クリニカル PET. 先端医療シリーズ 41, 東京：寺田国際事務所・先端医療技術研究所；2010 年：147-151.
- 4) 三輪和弘, 篠田 淳, 松尾政之, 矢野大仁. 悪性神経膠腫に対する低分割大量放射線治療：V. 脳腫瘍の治療 脳腫瘍の放射線療法. 新時代の脳腫瘍学 一診断・治療の最前線一. 日本臨床 68 [増刊号], 大阪：日本臨床社；2010 年：396-401.
- 5) 浅野好孝. 開頭術：石山光枝監修. 今さら聞けない脳神経外科看護の疑問. ブレインナーシング 2011 年春季増刊号, 大阪：メディカ社；2011 年：106-108.
- 6) 浅野好孝. 穿頭術：石山光枝監修. 今さら聞けない脳神経外科看護の疑問. ブレインナーシング 2011 年春季増刊号, 大阪：メディカ社；2011 年：109.
- 7) 浅野好孝. 経蝶形骨洞手術：石山光枝監修. 今さら聞けない脳神経外科看護の疑問. ブレインナーシング 2011 年春季増刊号, 大阪：メディカ社；2011 年：110.
- 8) 浅野好孝. 神経内視鏡手術：石山光枝監修. 今さら聞けない脳神経外科看護の疑問. ブレインナーシング 2011 年春季増刊号, 大阪：メディカ社；2011 年：111.
- 9) 浅野好孝. 血管内治療：石山光枝監修. 今さら聞けない脳神経外科看護の疑問. ブレインナーシング 2011 年春季増刊号, 大阪：メディカ社；2011 年：112-113.
- 10) 浅野好孝. 定位脳手術：石山光枝監修. 今さら聞けない脳神経外科看護の疑問. ブレインナーシング 2011 年春季増刊号, 大阪：メディカ社；2011 年：114.
- 11) 浅野好孝. 脊椎・脊髄手術：石山光枝監修. 今さら聞けない脳神経外科看護の疑問. ブレインナーシング 2011 年春季増刊号, 大阪：メディカ社；2011 年：115.
- 12) 浅野好孝. 放射線治療：石山光枝監修. 今さら聞けない脳神経外科看護の疑問. ブレインナーシング 2011 年春季増刊号, 大阪：メディカ社；2011 年：116.
- 13) 浅野好孝. 化学療法：石山光枝監修. 今さら聞けない脳神経外科看護の疑問. ブレインナーシング 2011 年春季増刊号, 大阪：メディカ社；2011 年：117-118.
- 14) 浅野好孝, 篠田 淳. 頭部外傷の tractography とテンソル画像：宮野佐年, 三上真弘, 安保雅博編集・企画. 特集：脳疾患画像読影のコツと pitfall. Monthly Book Medical Rehabilitation No.132, 東京：全日本病院出版会；2011 年：107-115.

著書（欧文）

- 1) Shinoda J, Asano Y. Evaluation and management of coma patients. Essential Practice of Neurosurgery. In: Kalangu KKN, Kato Y, Dechambenoit G, eds. Nagoya: Access Publishing; 2009:51-66.

総説（和文）

- 1) 竹中俊介, 浅野好孝. 糖尿病-脳血管障害につきものの周辺疾患の知識-, ブレインナーシング 2009 年；25 巻：340-342.

- 2) 浅野好孝: 肥満-脳血管障害につきものの周辺疾患の知識-, *ブレインナーシング* 2009年; 25巻: 343-345.
- 3) 篠田 淳, 浅野好孝, 矢野大仁. *Current Organ Topics : Central Nervous System Tumor -IV. グリオーマ診療における ¹¹C-methionine PET の有用性-*, 癌と化学療法 2010年; 37巻: 1027-1033.
- 4) 松岡伸幸, 浅野好孝. びまん性軸索損傷に対する拡散テンソル画像および FDG-PET. 画像を活かした脳損傷のケーススタディ, *理学療法ジャーナル* 2010年; 44巻: 733-779.
- 5) 篠田 淳, 浅野好孝. 頭部外傷による高次脳機能障害とその画像診断, *No Shinkei Geka* 2011年; 39巻: 115-127.
- 6) 篠田 淳. 遷延性意識障害の病態, *Brain* 2011年; 1巻: 320-327.

総説 (欧文)

なし

原著 (和文)

- 1) 中山則之, 篠田 淳, 矢野大仁, 加藤貴之, 三輪和弘, 大江直行, 岩間 亨. *Glioma の PET 解析 -Astrocytic tumors と Oligodendrocytic tumors の鑑別について-*, *CI 研究* 2009年; 31巻: 83-90.
- 2) 奥村由香, 奥村 歩, 松本 淳, 門間陽子, 豊島義哉, 篠田 淳, 山田實紘. *Amnesic MCI に対する集団認知音楽療法の効果*, *日本音楽療法学会誌* 2010年; 10巻: 28-37.

原著 (欧文)

- 1) Yano H, Ohe N, Shinoda J, Yoshimura S, Iwama T. Immunohistochemical study concerning the origin of neurocytoma -A case report -. *Pathol Oncol Res.* 2009;15:301-305. IF 1.483
- 2) Matsuo M, Miwa K, Shinoda J, Kato N, Nishibori H, Sakurai K, Yano H, Iwama T, Kanematsu M. Target definition by C11-methionine-PET for the radiotherapy of brain metastasis. *Int J Radiat Oncol Biol Phys.* 2009;74:714-722. IF 4.503
- 3) Matsunaga M, Isowa T, Kimura K, Miyakoshi M, Kanayama N, Murakami H, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J, Konagaya T, Kaneko H, Ohira H. Associations among positive mood, brain, and cardiovascular activities in an affectively positive situation. *Brain Res.* 2009;1263:93-103. IF 2.633
- 4) Nakao T, Osumi T, Ohira H, Kasuya Y, Shinoda J, Yamada J. Neural bases of behavior selection without an objective correct answer. *Neurosci Lett.* 2009;459:30-34. IF 2.055
- 5) Ohira H, Fukuyama S, Kimura K, Nomura M, Isowa T, Ichikawa N, Matsunaga M, Shinoda J, Yamada J. Regulation of natural killer cell redistribution by prefrontal cortex during stochastic learning. *Neuroimage.* 2009;47:897-907. IF 5.923
- 6) Yano H, Ohe N, Nakayama N, Shinoda J, Iwama T. Clinicopathological features from long-term observation of a papillary tumor of the pineal region (PTPR): a case report. *Brain Tumor Pathol.* 2009;26:83-88. IF 1.129
- 7) Ohira H, Ichikawa N, Nomura M, Isowa T, Kimura K, Kanayama N, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J. Brain and autonomic association accompanying stochastic decision-making. *Neuroimage.* 2010;49:1024-1037. IF 5.923
- 8) Matsunaga M, Murakami H, Yamakawa K, Isowa T, Kasugai K, Yoneda M, Kaneko H, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J, Ohira H. Genetic variations in the serotonin transporter gene-linked polymorphic region influence attraction for a favorite person and the associated interactions between the central nervous and immune systems. *Neurosci Lett.* 2010;468:211-215. IF 2.055
- 9) Nakao T, Osumi T, Ohira H, Kasuya Y, Shinoda J, Yamada J, Northoff G. Medial prefrontal cortex-dorsal anterior cingulate cortex connectivity during behavior selection without an objective correct answer. *Neurosci Lett.* 2010;482:220-224. IF 2.055
- 10) Okada M, Yano H, Hirose Y, Nakayama N, Ohe N, Shinoda J, Iwama T. Olig2 is useful in the differential diagnosis of oligodendrogliomas and extraventricular neurocytomas. *Brain Tumor Pathol.* 2011;28:157-166. IF 1.129
- 11) Takenaka S, Shinoda J, Asano Y, Aki T, Miwa K, Ito T, Yokoyama K, Iwama T. Metabolic assessment of monofocal acute inflammatory demyelination using MR spectroscopy and (¹¹C)-methionine-, (¹¹C)-choline-, and (¹⁸F)-fluorodeoxyglucose-PET. *Brain Tumor Pathol.* 2011;28:229-238. IF 1.129
- 12) Matsunaga M, Murakami H, Yamakawa K, Isowa T, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J, Ohira H. Perceived happiness level influences evocation of positive emotions. *Natural Science.* 2011;8:723-727. IF 1.129
- 13) Ohira H, Matsunaga M, Kimura K, Murakami H, Osumi T, Isowa T, Fukuyama S, Shinoda J, Yamada J. Chronic stress modulates neural and cardiovascular responses during reversal learning. *Neuroscience* 2011;193:193-204. IF 3.215
- 14) Toyoshima Y, Asano Y, Shinoda J, Takenaka S, Aki T, Iwama T. A speech expression disorder in patients with severe diffuse brain injury who emerged from a vegetative or minimally conscious state. *Brain Injury.* 2011;25:1212-1220. IF 1.750

4. 研究費獲得状況

1) 競争的資金

- 1) 研究代表者：奥村由香，研究分担者：奥村 歩，篠田 淳，豊島義哉；2009年度音楽療法学会プロジェクト研究助成金：Amnesic MCI(Mild Cognitive Impairment)の中核症状に介入する音楽療法の認知症予防の効果の検討；平成19-21年度；3,000千円(1,000：1,000：1,000千円)
- 2) 研究代表者：浅野好孝，研究分担者：竹中俊介，秋 達樹；JA 共済交通事故医療研究助成金：交通事故による慢性期の軽度外傷性脳損傷 (mild traumatic brain injury) 患者の脳損傷部位の描出；平成23年度；1,000千円
- 3) 研究代表者：奥村由香；研究分担者：浅野好孝，竹中俊介，秋 達樹；JA 共済交通事故医療研究助成金：音楽は深く傷ついた脳に届くのかー健康者と遷延性意識障害患者の音と音楽刺激に対する反応のfMRIを用いた比較検討ー；平成23年度；1,000千円

2) 受託研究

なし

3) 共同研究

なし

5. 発明・特許出願状況

なし

6. 学会活動

1) 学会役員

篠田 淳：

- 1) 日本脳神経外科学会評議員(～現在)，同代議員(平成23年9月～現在)
- 2) 日本脳神経外科光線力学研究会幹事(～現在)
- 3) 日本意識障害学会理事(～現在)
- 4) 日本放射線外科学会世話人(平成21年1月～現在)
- 5) 日本ニューロリハビリテーション学会理事(平成21年10月～現在)
- 6) 日本音楽医療研究会役員(～現在)

浅野好孝：

- 1) 日本脳神経外科学会評議員(～現在)
- 2) 日本意識障害学会世話人(平成23年9月～現在)

2) 学会開催

なし

3) 学術雑誌

なし

7. 学会招待講演，招待シンポジスト，座長

篠田 淳：

- 1) 第12回岐阜県脳神経外科懇話会(平成21年5月，岐阜，教育講演「高次脳機能障害ー画像診断の進歩と岐阜県の現状ー」演者)
- 2) 第43回日本リハビリテーション医学会関東地方会(平成21年9月，東京，教育講演「最新の神経画像による頭部外傷後高次脳機能障害の評価とその有用性」演者)
- 3) 平成21年度第2回静岡県作業療法士会学術部研修会(平成21年10月，静岡，教育講演「高次脳機能障害ー最新の画像診断ー」演者)
- 4) 第1回日本放射線外科学会(平成21年11月，東京，教育講演「Glioma 診療における methionine-PET の有用性ーTomotherapy を用いた IMRT への応用他ー」演者)
- 5) 第1回日本ニューロリハビリテーション学会(平成22年1月，名古屋，指名講演「高次脳機能障害を呈する慢性期びまん性軸索損傷患者の神経画像的評価」演者)

- 6) 平成 22 年度厚生労働省科学研究「高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究」東海ブロック連絡協議会(平成 22 年 9 月, 津, 指名講演「軽度外傷性脳損傷 ー受傷時, 意識障害が見られない高次脳機能障害(軽度外傷性脳損傷)患者の画像についてー」 演者)
- 7) 平成 23 年大阪弁護士会講演会(平成 23 年 2 月, 大阪, 教育講演「脳外傷の画像による鑑別診断, 画像で脳外傷はどこまで判明するか ーM-TBI を中心としてー」 演者)
- 8) 平成 23 年度第 1 回脳神経看護セミナー(平成 23 年 4 月, 名古屋, 教育講演「外傷性脳損傷と高次脳機能障害 ー最新の画像診断ー」 演者)
- 9) 第 13 回三重・大阪脳腫瘍カンファレンス(平成 23 年 6 月, 津, 特別講演「グリオーマ診療におけるメチオニン PET の役割 ー特にトモセラピーを用いた放射線治療との係わりについてー」 演者)
- 10) 平成 23 年度大阪府高次脳機能障がい支援普及事業高次脳機能障がい医療機関等職員研修会(平成 23 年 7 月, 大阪, 招待講演「脳外傷における高次脳機能障がいの画像診断について」 演者)
- 11) 第 20 回日本交通医学工学研究会(平成 23 年 9 月, 名古屋, 指名講演・シンポジウム「外傷性脳損傷による高次脳機能障害のメカニズムとその画像診断」 演者)
- 12) 第 16 回日本神経精神医学研究会(平成 23 年 12 月, 京都, 特別講演「高次脳機能障害を引き起こすびまん性軸索損傷の画像診断」 演者)

8. 学術賞等の受賞状況

浅野好孝:

- 1) 第 70 回日本脳神経外科学会学術会長賞(平成 23 年)

9. 社会活動

篠田 淳:

- 1) 岐阜県高次脳機能障害支援対策推進委員会委員長(～現在)
- 2) 岐阜県医師育成・確保コンソーシアムの企画調整委員会委員(平成 23 年 4 月～現在)

10. 報告書

- 1) 篠田 淳: 平成 20 年度岐阜県高次脳機能障害支援事業報告: 平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金「こころの健康科学研究事業 ー高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究(H18-こころ-一般-008)」平成 20 年度総括・分担研究報告書(中島班): 164-172(平成 21 年 3 月)
- 2) 篠田 淳: 岐阜県高次脳機能障害支援事業報告: 厚生労働科学研究費補助金「こころの健康科学研究事業 ー高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究(H18-こころ-一般-008)」平成 18～20 年度 総合研究報告書(中島班): 81-94(平成 21 年 3 月)
- 3) 篠田 淳: 岐阜県高次脳機能障がい者支援対策推進委員会: 高次脳機能障がい者支援に関するアンケート調査報告書: 厚生労働科学研究費補助金「こころの健康科学研究事業 ー高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究(H18-こころ-一般-008)」(平成 22 年 4 月)

11. 報道

- 1) 篠田 淳他: 私たちはあきらめない ー遷延性意識障害 回復への挑戦ー: 企画: 独立行政法人自動車事故対策機構, 制作: 株式会社 NHK エンタープライズ: DVD(2009 年 3 月)
- 2) 篠田 淳他: 交通事故被害者に車いす ー廃車ドットコム合同会社, 中部療護センターに寄贈ー: 岐阜新聞(2009 年 8 月 7 日)
- 3) 篠田 淳他: NASVA 療護センター ー重度後遺症からの回復に向けてー: 企画・制作: 独立行政法人自動車事故対策機構: DVD(2009 年 9 月)
- 4) 篠田 淳他: リハビリ病院紹介 中部療護センター: Koisyo News NPO 法人交通事故後遺障害者家族の会 No.32: 4: 雑誌取材(2009 年 9 月)
- 5) 篠田 淳他: 高次脳機能障害専門家が講演 ー岐阜ー: 中日新聞(2010 年 1 月 31 日)
- 6) 篠田 淳他: 高次脳機能障害, 理解を ー岐阜市でフォーラム, 大学教授ら症例解説ー: 岐阜新聞(2010 年 1 月 31 日)
- 7) 篠田 淳他: 重い後遺症, 救済遠く ー終日介護, 家族に負担ー: 日本経済新聞(2010 年 1 月 31 日)
- 8) 篠田 淳他: NASVA Medi-care Centers ーThe Challenges of Medi-care Centers, We shall never give upー: 企画, 制作: 独立行政法人自動車事故対策機構(2010 年 4 月)
- 9) 篠田 淳他: 交通事故減少の陰で ー交通事故専門の病院ー: 関西テレビ ースーパーニュースア

ンカー(2010年5月6日)

- 10) 篠田 淳他：患者を癒すセラピー犬 ―美濃加茂市の病院訪問―：岐阜新聞朝刊(2010年5月30日)
- 11) 篠田 淳他：脳放射線壊死に対するベバシズマブの有用性を確認：Medical Tribune(2011年4月21日)
- 12) 篠田 淳他：医療ルネサンス, 続・見えない脳外傷 ―損傷「見える」検査へ工夫―：読売新聞朝刊(2011年6月24日)

12. 自己評価

評価

65点(100点満点中)

現状の問題点及びその対応策

国内・国外でのアピールの不足, 外国語論文の不足が否めない。学会活動を活発に行い, 論文作成に力を入れる。

今後の展望

学内・学外他施設との共同研究の推進, てんかん, 認知症などこれまで手をつけていなかった分野へ研究領域を拡大する。